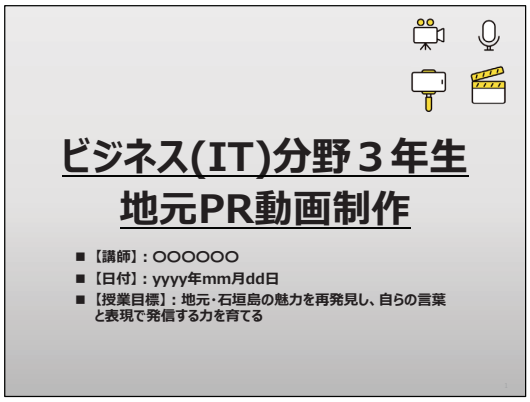
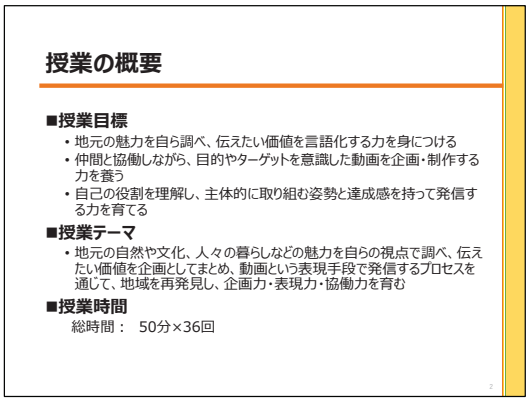
附録③　高校３年生用モデル教材

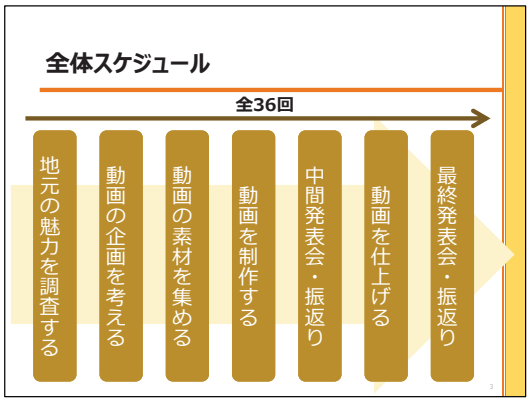


皆さん、おはようございます。
今日から始まるこの授業では、皆さんに「地元・石垣島の魅力を、自分たちの言葉と表現で伝える」という、とても面白い取り組みをしていただきます。

授業の目標は「地元・石垣島の魅力を再発見し、自らの言葉と表現で発信する力を育てる」ことです。
みなさんの中には、石垣島で生まれ育った人もいれば、あと数年でこの島を離れるかもしれないという人もいるかもしれません。
でもだからこそ、今の自分の目線で見た石垣島を、ぜひ動画に残してみてください。



それでは、今回の授業全体の概要についてご説明します。
まずは、授業の目標からお伝えします。
この授業では、みなさんに次の3つの力を身につけてほしいと考えています。
ひとつ目は、「地元の魅力を自ら調べ、伝えたい価値を言語化する力」です。みなさんが住む石垣島には、たくさんの魅力がありますが、それを「自分の言葉で」伝えるには、よく知り、よく考える必要があります。まずは、調べて、気づいて、言葉にするところから始まります。
ふたつ目は、「仲間と協働しながら、目的やターゲットを意識した動画を企画・制作する力」です。この授業はグループで行います。誰に、何を伝えたいのかをしっかり考えながら、チームで力を合わせて一つの作品をつくっていきます。
そして三つ目は、「自己の役割を理解し、主体的に取り組む姿勢と達成感を持って発信する力」です。動画づくりには、いろいろな役割があります。調査が得意な人もいれば、撮影、編集、進行が得意な人もいます。どんな役割でも、自分の仕事に責任を持って最後までやりきることで、大きな達成感が得られるはずです。
次に、授業テーマです。この授業のテーマは「地元の自然や文化、人々の暮らしなどの魅力を、自らの視点で調べ、伝えたい価値を企画としてまとめ、動画という表現手段で発信する」というものです。
簡単に言えば、「自分の言葉と表現で、石垣島の魅力を伝える動画をつくる」ということです。このプロセスを通して、地域を再発見しながら、企画力・表現力・協働力を育むことをめざします。
そして最後に、授業時間についてです。この取り組みは、全部で50分×36回の授業で行います。調査から企画、撮影、編集、発表まで、時間をかけてじっくり取り組みます。それだけに、終わったときの達成感は、きっと大きなものになると思います。この授業では、みなさん一人ひとりの「視点」と「ことば」が何より大切です。
自分の表現に自信を持って、楽しく、でも本気で取り組んでいきましょう！



ではここで、この授業全体のスケジュールを確認しておきましょう。
全部で36回の授業を使って進めていきます。
大きく6つのステップに分かれていて、はじめから終わりまで、みなさんが主体となって取り組む内容になっています。
一番はじめは、「地元の魅力を調査する」というステップです。ここでは、石垣島の自然、文化、人、食べ物など、自分たちが「これを伝えたい！」と思える魅力を探していきます。次に、「動画の企画を考える」段階に入ります。ターゲットを誰にするか、伝える方法はどうするかなど、動画の骨組みを話し合って決めていきます。そのあとは、「動画の素材を集める」ステップです。実際に撮影をしたり、インタビューをしたり、音声や写真を集めたりします。ここでは現地でのフィールドワークも行います。
素材が集まったら、いよいよ「動画を制作する」工程に入ります。ここではパソコンを使って、Premiere Proというソフトで編集を進めていきます。映像・音楽・テロップなどを使って、自分たちの伝えたいメッセージを動画という形にまとめていきます。そのあと、「中間発表会・振り返り」を行います。ここで、他のグループの意見を聞いたり、自分たちの作品を見直したりすることで、動画をさらにブラッシュアップすることができます。
そして仕上げに向けて、「動画を仕上げる」作業に入ります。細かい修正を加えたり、音やテンポを整えたりしながら、完成版に近づけていきます。
最後は、「最終発表会・振り返り」です。自分たちの完成したPR動画をみんなの前で発表し、これまでの活動をまとめた活動報告書も発表してもらいます。
このように、ただ動画を作るだけでなく、調査・企画・撮影・編集・発表までをすべて自分たちで経験するのがこの授業の特徴です。
1つ1つのステップを大切にしながら、楽しんで、でも本気で取り組んでいきましょう！



こちらのスライドでは、この授業で取り組む学習項目と、それぞれで作成していく成果物についてまとめています。全部で36回の授業を通して、どのタイミングでどんなアウトプットを出すのかを整理して見ていきましょう。
まず最初は「地元の魅力調査」です。ここでは石垣島の自然や文化、暮らしなどを調べて、「調査計画シート」という形でまとめます。自分たちがどこに注目するかを明確にする大事なステップです。
次に「動画の企画立案」です。動画の方向性や伝えたいメッセージ、対象となる視聴者を考え、「企画立案シート」として整理します。ここが動画の設計図のような役割になります。
その次は「動画の素材収集」。実際に撮影をしたり、音を録ったりして素材を集める段階です。どこで何を撮るかを「撮影計画シート」に書き出してから行動します。
続いて「動画制作」の時間です。編集ソフトを使って映像をつなげ、テロップや音楽を入れて完成に近づけていきます。この工程では「編集計画シート」を作成して、自分たちの動画構成を明確にします。
その後に「中間発表」があります。ここでは途中まで完成した動画をみんなの前で発表し、「フィードバックシート（FBシート）」で他のグループから感想や意見をもらいます。もちろん、中間版の「PR動画」も提出します。
そのフィードバックをもとに、さらに良い作品に仕上げていくのが「動画仕上げ」です。ここでは、どこを直したか、どんな改善を加えたかを「修正管理シート」に記録します。
最後は「発表会・振り返り・まとめ」。ここでは最終版の「PR動画」とともに、これまでの活動全体をまとめた「活動報告書」を発表します。これが皆さんの努力の集大成になります。
このように、各ステップごとにしっかりと成果物を出していくことで、自分たちの進捗や工夫を形に残しながら学んでいける授業になっています。毎回のアウトプットを丁寧に取り組んでいきましょう。

全体スケジュール

4回

地元の魅力を調査する

動画の企画を考える

動画の素材を集める

動画を制作する

中間発表会・振返り

動画を仕上げる

最終発表会・振返り

ここからは、いよいよ動画制作に向けた本格的な活動がスタートします。
スケジュールの中でまず取り組むのが、こちら「地元の魅力を調査する」というステップです。
このステップには、全4回の授業時間（50分×4回）を使って取り組みます。
みなさんが作る動画のテーマや方向性は、ここでの調査次第で大きく変わってきます。
だからこそこの段階では、「何を伝えたいか？」よりも先に、石垣島の中にある魅力を“知る”“探す”ということに全力で取り組んでほしいと思います。



第１回

地元を知ろう
～魅力を多面的に探る～

皆さん、こんにちは。
本日は「第1回」の授業ということで、「地元を知ろう ～魅力を多面的に探る～」という内容で進めていきます。

第１回　授業の概要

■授業の狙い
- 地元にどんな魅力があるかを多角的に知り、自分なりの関心分野を持つ

■授業の内容
- 地元に関する基本情報を調査
  （自然・文化・歴史・人・食・産業など）
  観光協会パンフレット、ホームページ、地元の会社の動画、海外でどのように紹介されているかなどを調べる

さて、今日からいよいよ「地元PR動画制作」の授業がスタートします。
この授業の初回となる今日は、まず“石垣島の魅力を知る”ことから始めていきます。
スライドにあるように、今回の授業の狙いは「地元にどんな魅力があるかを多角的に知り、自分なりの関心分野を持つこと」です。石垣島に住んでいると、あたりまえに思っていることも、外から見た人にとっては「すごく魅力的」に映ることがあります。今回は、“自分の目線”と“外からの目線”の両方を意識しながら、石垣島を見直してみる機会です。
では、授業の内容です。
みなさんにはまず、地元に関する基本情報の調査をしてもらいます。
たとえば、
•自然（海・山・星空など）
•文化（伝統行事・方言・芸能）
•歴史（昔の石垣、戦後の変化など）
•人（地域の人の考え方や暮らし方）
•食（郷土料理や地元の食材）
•産業（農業・観光・地場産業など）
こういった分野から、自分が「気になるな」「これ面白いかも」と思うものを見つけてほしいと思います。

調査の方法としては、観光協会のパンフレットやホームページ、地域企業の紹介動画、SNSや海外向けの観光サイトなどを活用していきます。「どんなふうに紹介されているか？」にも注目してみてください。
今日のゴールは、まず自分が興味を持てそうな“入り口”を見つけることです。
このあとワークシートを使って、自分なりの気づきをまとめていきますので、楽しみながら取り組んでいきましょう。

グループワーク

- 「初めて知ったこと・驚いたこと・もっと知りたいこと」を共有
- 自分が面白いと思ったテーマを発表し合う



それではここからは、今日の調査をもとにグループワークを行っていきます。
今回のグループワークのテーマは、スライドにあるとおり「初めて知ったこと」「驚いたこと」「もっと知りたいと思ったこと」をお互いに共有することです。
調べてみて、「え、これって意外！」とか「へぇ、そんな歴史があったんだ」と感じたことがきっとあったと思います。
まずはそれを自由に話してみましょう。
また、みなさん一人ひとりが「これ、動画で伝えたら面白そう」と思ったテーマがあるはずです。
後半では、そうした“自分が面白いと思ったこと”をグループ内で発表し合ってください。「自分はこういうところに興味がある」「こういう魅力をもっと深掘りしたい」その気持ちが、次の企画や動画の方向性につながっていきます。

話すときは、「正解を言わなきゃ」と思わなくて大丈夫です。自分がどう感じたか、何にワクワクしたかを、自然体で話してもらえればOKです。

では今から、個々人で石垣島のことを調べて、その後感じたことをグループでの話し合いを始めましょう。

調査計画シート
「地元の魅力マッピングシート」

項目	内容
知ったこと	
興味を持ったこと	
もっと調べたいこと	

では次に、今まで調べたことや、グループで話し合った内容をふまえて、この「地元の魅力マッピングシート」に記入していきましょう。
このシートは、自分の中で整理できている情報や、興味を持ったことを見える形にしておくためのものです。動画づくりの最初の土台になる大事なステップですので、丁寧に書いていきましょう。

まず1つ目の欄は、「知ったこと」です。調べたり話を聞いたりして、「へぇ、そうなんだ！」と知った情報を書いてください。例えば「伝統行事の意味を初めて知った」や「島の方言の語源」など、小さな発見で構いません。
次に、「興味を持ったこと」です。これは、「おもしろそう」「もっと知ってみたい」と思ったテーマやキーワードを書いてください。ここは、人によってバラバラで大丈夫です。自分の感覚を大事にしてOKです。

そして最後に、「もっと調べたいこと」。これは、まだよくわからないけど深掘りしたいこと、現地で見てみたいこと、誰かに聞いてみたいことなどを自由に書きましょう。「この場所を実際に見に行ってみたい」「昔の暮らしについてもっと知りたい」など、“次の行動のヒント”になるようなことを書けるとベストです。

このシートは次回以降の企画立案や撮影計画のもとになるものです。あとで見返して、「自分は何に惹かれていたのか」を思い出せるようにしておきましょう。
では今から記入を始めていきます。わからないところは遠慮なく質問してください。



今日は石垣島のいろんな魅力について、たくさん調べて、たくさん発見があったと思います。この中から、自分たちが「これは伝えたい！」と思える魅力を見つけられたでしょうか？
次回の授業では、今日の調べ学習やマッピングシートをもとに、「調べたいテーマ」を1つに絞っていきます。つまり、「私たちはこのテーマで石垣島を伝えたい」というグループの方向性を決める時間になります。
動画の企画につながる大切なステップなので、自分の視点を大事にしつつ、グループでしっかり意見を出し合っていきましょう。
それでは、次回の授業も楽しみにしていてくださいね！



第２回

調査テーマを決めよう
～伝えたい魅力を絞る～

皆さん、こんにちは。

本日は「第2回」の授業ということで、「調査テーマを決めよう ～伝えたい魅力を絞る～」という内容で進めていきます。
前回は、地域やモノ・コトに目を向けて、広く魅力を見つけていくことを意識しました。今回はその中から、調査の「テーマ」をしっかり決めていきます。
調査を進めるうえで大切なのは、「何を伝えたいのか」を明確にすることです。魅力はたくさんあるかもしれませんが、全部を一度に伝えようとすると、かえって伝わりづらくなってしまいます。

そこで今日は、「伝えたい魅力」を一つに絞り込み、それを深く掘り下げていく作業に取り組みます。
このテーマ設定が、この後の情報収集や発表の方向性を決める、大事な土台になります。授業の最後には、自分が取り上げたいテーマについて、他の人にも一言で伝えられるようにしていきましょう。

第２回　授業の概要

■授業の狙い
- 自分たちが深堀りしたい石垣島の魅力テーマをグループで決める

■授業の内容
- 前回のマッピングを振り返りながら、さらに調査したい分野を絞り込む
- テーマ設定のポイント：興味／伝えたい意義／動画素材としての魅力

ではまず、「第2回の授業の概要」について確認していきましょう。

まず、授業の狙いです。
今日のゴールは、「自分たちが深掘りしたい石垣島の魅力テーマをグループで決める」ことです。たくさんある魅力の中から、特に「これをもっと知りたい、伝えたい」と思えるものを選んでいきます。

次に、授業の内容です。前回の授業でマッピングを行いましたが、その内容を振り返りながら、自分たちが特に興味を持った分野を再確認していきます。
そのうえで、さらに調査したいテーマを絞り込んでいきます。ここで大切になるのが、「テーマ設定のポイント」です。ただ興味があるだけでなく、
・そのテーマのどんなところが面白いのか（興味）
・それを他の人に伝える意味があるか（伝えたい意義）
・映像としてどんな素材が撮れそうか（動画素材としての魅力）
こうした視点をもとに、グループでしっかり話し合ってテーマを決めていきましょう。この後の活動に向けて、ここでしっかりと「軸」をつくっていくことが大事になります。

グループワーク

① 「自分たちが伝えたい石垣島の魅力は何か？」を話し合う
② 1グループにつき1テーマに絞り込む



ここからは、実際にグループワークに入ります。
まず、①のステップです。「自分たちが伝えたい石垣島の魅力は何か？」について、グループでしっかり話し合ってください。
前回のマッピングを手元に出して、それぞれが気になっているポイントを共有しながら進めていくとよいでしょう。
たとえば、「文化」や「自然」、「食べ物」、「人」など、どの切り口で深掘りしたいのかを具体的にしていきましょう。そのときに、「そのテーマの何が魅力的なのか」「それを伝えることで、どんなことが相手に伝わるのか」という視点も意識してください。

そして②、話し合いの結果をもとに、1グループにつき1つのテーマに絞り込みます。ここでは、「全員が納得できるテーマ」にまとまっていることが大切です。
話し合いが行き詰まった場合や、アドバイスが欲しい場合は、遠慮なく声をかけてくださいね。

調査計画シート
「調査テーマ設定シート」

項目	内容
伝えたいテーマ	
伝えたい理由	
伝えたい相手	

グループでテーマが決まったら、次に取り組んでもらうのがこの「調査テーマ設定シート」です。
このシートには、3つの項目を記入してもらいます。

1つ目は【伝えたいテーマ】です。グループで決めたテーマを、できるだけ具体的に、短くわかりやすく書きましょう。
例えば「石垣島の自然」では広すぎるので、「サンゴ礁の保全活動」や「伝統的な農法と地域文化」など、焦点を絞った表現が望ましいです。

2つ目は【伝えたい理由】です。なぜそのテーマを選んだのか、自分たちがどこに魅力を感じたのかを言葉にしてみてください。「初めて知って驚いた」「もっと多くの人に知ってもらいたいと思った」など、正直な気持ちでOKです。

そして3つ目は【伝えたい相手】です。このテーマを、誰に向けて伝えたいのかを考えてみましょう。地元の人？ 観光客？ 同世代の若者？ 伝える相手が明確になると、調査や表現の方向性もはっきりしてきます。

このシートが完成すると、次回以降の「調査計画」や「動画制作」の軸になります。グループで相談しながら、丁寧に記入してくださいね。



ここまでで、今日の活動は終了となります。おつかれさまでした！
今日、皆さんはグループで「伝えたい石垣島の魅力」についてしっかり話し合い、1つのテーマに絞り込むことができましたね。
このテーマは、これから皆さんが行う調査や発信の「土台」となる、とても重要な一歩です。

さて、次回の授業では、このテーマをもとに、「どんな情報を集めるべきか？」「どうやって調べていくか？」を考えていきます。
つまり、調査の「方法」と「中身」を具体的に計画していく回になります。
自分たちのテーマをどんな切り口から深掘りできるか、今から少しイメージしておいてくださいね。
では、次回もよろしくお願いします！



第３回

調べる項目と方法を考えよう
～調査設計～

皆さん、こんにちは。今日からいよいよ「調査」の中身に入っていきます。

第3回のテーマは、「調べる項目と方法を考えよう　～調査設計～」です。
前回は、グループで「伝えたい石垣島の魅力」を1つのテーマに絞りましたね。
今回の授業では、そのテーマをどうやって深く掘り下げていくか、つまり「何を、どう調べるか」を考えていきます。
ここで決めた調査設計は、これから実際に情報を集めたり、取材したりするときの「設計図」になります。よい設計ができれば、ブレのない調査ができ、最終的な発信にも説得力が生まれます。
では、このあと具体的に調査項目や方法について整理していきましょう！

第３回　授業の概要

■授業の狙い
- 選んだテーマを深掘りするために、調査項目と方法を整理する

■授業の内容
- 調査設計の基礎知識（5W1Hを使った質問づくり）
  例：なぜその文化が生まれたの？／どこで見ることができる？など

では、第3回の授業概要について確認しましょう。

まず、授業の狙いです。今回の目的は、「選んだテーマを深掘りするために、調査項目と方法を整理すること」です。前回決めたテーマをもとに、どんなことを明らかにしたいのか、どんな情報が必要なのかを、しっかり整理していきます。

次に、授業の内容です。今日のメインは「調査設計の基礎知識」を学ぶことです。その中でも特に、5W1Hを活用して「良い質問をつくる」ことに取り組みます。
たとえば、「なぜその文化が生まれたの？」「どこでその活動が行われているの？」といった視点を持つことで、テーマに対する理解が深まります。
また、調査すべきことが明確になると、必要な資料や取材の相手も見えてきます。
今日は、調査の“設計図”を描くような気持ちで、一緒に考えていきましょう！

グループワーク

① 「この魅力を伝えるには何を調べる必要があるか？」を洗い出す
② 資料・ネット・インタビュー・フィールド調査など、調査手段も話し合う



ここからは、グループでの実践に入っていきます。
今回のグループワークでは、皆さんが選んだテーマに対して、「どんなことを調べれば、その魅力を伝えられるか？」を具体的に考えていきます。

①まず、「この魅力を伝えるには、何を調べる必要があるか？」を洗い出しましょう。
たとえば、「地元の人の声を集めたい」「歴史的な背景を知りたい」「現地の風景を撮影したい」など、伝えたい内容を実現するために必要な情報を書き出していきます。

②次に、その情報をどうやって集めるか、調査の手段も考えます。
資料を探すのか、ネット検索か、誰かにインタビューするのか、あるいは実際に現地を訪れるフィールド調査か。
この段階で、方法が複数あることも意識してください。

どんな情報が足りていないか、逆に何がもう集まりそうかも整理しながら進めていきましょう。
困ったことがあれば、いつでも声をかけてくださいね。

調査計画シート
「調査項目・調査方法シート」

項目	内容
調べたいことリスト	
調査方法	
情報源	

グループで調べたいことや方法について話し合ったら、次はそれを整理して、「調査項目・調査方法シート」にまとめていきましょう。
このシートには、次の3つの項目を記入します。
①【調べたいことリスト】
ここには、テーマに関連して「どんなことを明らかにしたいか」をリストアップします。
たとえば「どんな人が関わっているのか？」「昔と今でどう変わってきたのか？」など、具体的な問いを書き出しましょう。

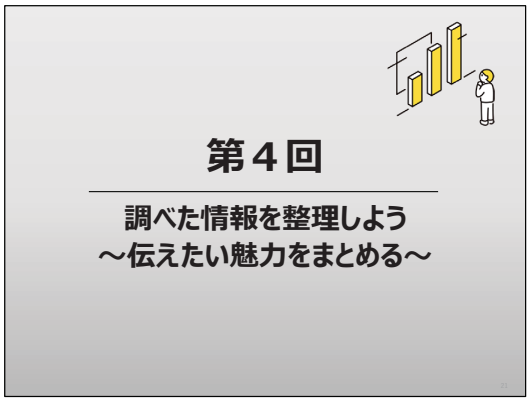
②【調査方法】
それぞれの調べたいことについて、「どうやって調べるのか」を考えます。
資料で調べるのか、インタビューするのか、現地に行って撮影するのか、手段を明確にしておきましょう。

③【情報源】
調査の手がかりになる情報源をあらかじめリストアップしておきます。
本、ウェブサイト、聞いてみたい人、訪れたい場所など、思いつくものを自由に書いてください。

このシートを完成させることで、調査の計画がグッと具体的になります。
発信したい内容に向けて、「今、自分たちが何を準備すべきか」が見える化されますよ。
丁寧に話し合いながら、記入していきましょう。



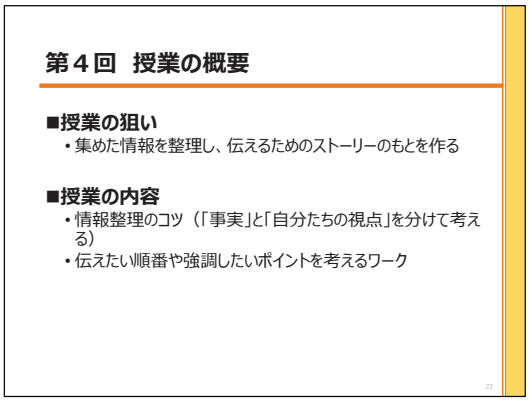
これで、今日の授業は終了です。おつかれさまでした！
今日は、グループで選んだテーマを「どうやって調べていくか」という視点で深めていきました。
調べたいことを洗い出して、それに合った調査方法を考えるという作業を通して、皆さんのテーマがどんどん「実現可能なかたち」に近づいてきたと思います。
そして、次回の授業では「調べた情報をどう整理して伝えるか」を考えていきます！
いくら調査をしても、情報がバラバラのままだと相手には伝わりません。
次回は、その情報をどのようにまとめていけばよいか、発信の土台をつくる大事なステップになります。
それではまた、次回の授業で会いましょう！



皆さん、こんにちは。
今日は「第4回」の授業です。タイトルは「調べた情報を整理しよう　～伝えたい魅力をまとめる～」です。

前回は、どんなことを調べたいか、そのためにどんな方法を使うかを整理しました。
今日は、それをふまえて、実際に調べた情報を「どうやって伝える形にしていくか」を考えていきます。

調べた内容をただ並べるだけでは、見ている人には伝わりません。伝えたい魅力を「どう整理して」「どうつなげていくか」が、これからの大事な作業です。
この整理ができると、次回以降の「構成づくり」や「映像での伝え方」にスムーズにつながっていきますよ。
それでは、今日も一緒にがんばっていきましょう！



れでは、今日の授業のねらいと内容を確認していきましょう。

まず、「授業の狙い」です。今日の目的は、「集めた情報を整理し、伝えるためのストーリーのもとを作ること」です。
せっかく集めた情報も、順番や見せ方を工夫しないと、相手にはうまく伝わりません。そこで今日は、「どう整理すれば伝わるか？」という視点で、情報を並べ替えたり、強調するポイントを考えていきます。

続いて、「授業の内容」です。
1つ目は、「情報整理のコツ」を学びます。とくに大事なのは、「事実」と「自分たちの視点」を分けて考えること。「こんなことがあった」「こんな人がいた」という事実と、「私たちはここに感動した」「だからこう伝えたい」という思いは、ちゃんと区別して扱うと、伝え方がぐっとわかりやすくなります。

2つ目は、「伝えたい順番や強調したいポイントを考えるワーク」です。情報をどう並べると伝わりやすいか、どこに自分たちのメッセージを込めたいか、一緒に考えていきましょう。
この整理のステップが、映像づくりに直結する大事なプロセスになりますよ。

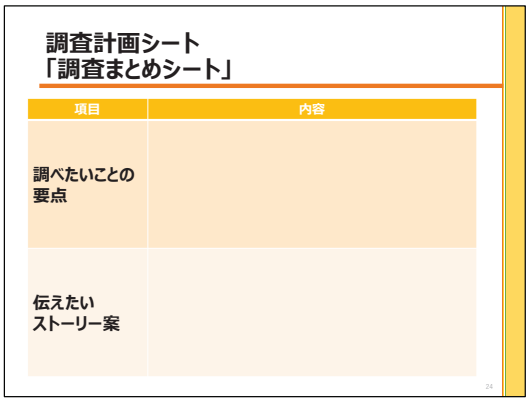


それでは、ここからはグループワークの時間です。
今日のグループワークでは、「情報をどう整理し、伝える形にしていくか」をテーマに取り組んでもらいます。

①まずは、「一番伝えたいポイントは何か？」を明確にしましょう。いろんな情報を集めた中で、「これが一番伝えたい！」という軸が見つかっていれば、整理の方向性がはっきりしてきます。
グループで改めてテーマを振り返りながら、一番の魅力はどこにあるのかを話し合ってください。

②次に、「伝えたい順序」や「印象に残るまとめ方」を考えていきます。
たとえば、「驚きの事実から入る」「人のストーリーを中心にする」「最後に感動のメッセージを伝える」など、伝え方にはいろいろな工夫ができます。見る人がどんな気持ちになるかを想像しながら、構成を考えてみましょう。

今日のこの作業は、次回以降の「構成づくり」や「映像化」に直結する大事なステップです。
ぜひ意見を出し合いながら、グループで納得のいくまとめ方を見つけてください。



グループで伝えたいポイントや順序がまとまってきたら、最後にこの「調査まとめシート」に記入していきましょう。
このシートは、皆さんの調査の成果を整理して、これからの構成づくりや発表に活かすためのものです。

まず1つ目は【調べたいことの要点】です。これまでに調べてきたことの中から、「一番伝えたい内容」を簡潔にまとめてください。細かい情報はたくさんあると思いますが、それをどう整理するかがポイントです。

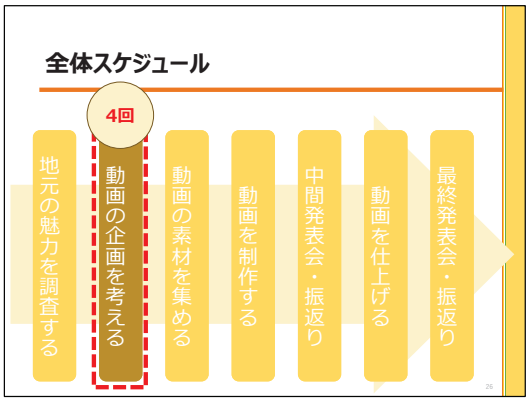
そして2つ目は【伝えたいストーリー案】です。ここには、「どんな順番で、どんなふうに伝えたいか」のイメージを文章や箇条書きで記入してもらいます。たとえば、「最初に現地の様子を見せてから、背景となる歴史を紹介する」「最後に自分たちの感じた思いやメッセージを伝える」といった構成の流れがあると良いです。

このシートが、次回の「構成台本」づくりにつながる重要な土台になります。
グループで意見を出し合いながら、しっかり整理していきましょう！



今日もおつかれさまでした！
皆さんのグループが、それぞれの魅力について「何を伝えたいのか」「どんな順番で伝えるのか」というストーリーの“土台”を作れたことと思います。
このまとめ作業は、伝える力を育てる上でもとても大切なプロセスでした。

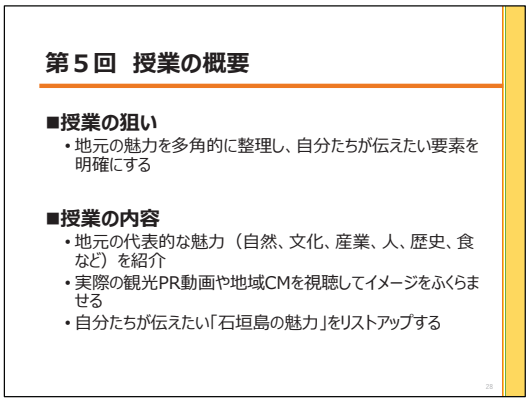
そして、次回はいよいよ「具体的にどんな素材（映像・音声）を撮るか」を計画していきます！どんな場面を映したいか？どんな音・言葉を収録したいか？
ストーリーに合った映像づくりのイメージを、みんなで考えていきましょう。
それでは、また次回の授業で会いましょう！



皆さん、こんにちは。今回からは「動画の企画を考える」というステップに入っていきます。
このステップには、全4回の授業時間（50分×4回）を使って取り組みます。
これまでの回では、「地元の魅力を調査する」ということで、実際に地域を歩いて、自分たちの視点で“面白い！”“伝えたい！”と感じたことをリサーチしてきましたね。次は、その調査結果をもとに「どんな動画を作るか？」を考える時間です。
ここが動画制作全体の“設計図”を描く大切なタイミングです。つまり、「誰に何を伝えるのか」「どんな構成にするのか」「どんな雰囲気にしたいか」などをしっかりと話し合い、企画を具体化していきます。
この企画がしっかりしていると、次回以降の「素材集め」や「動画制作」がスムーズになります。逆に、企画が曖昧なままだと、後で苦労することも多いので、今の時間を大切にして、じっくり話し合いましょう。



みなさん、こんにちは。今回は「第5回」、テーマは「地元の魅力を整理する」です。
今日は企画をさらに深めていくために、調査してきた「地元の魅力」を整理し、動画の構成や素材にどう活かせるかを具体的に考えていきます。



続いて、「第5回」の授業概要について説明します。
まず、この授業の狙いです。「地元の魅力を多角的に整理し、自分たちが伝えたい要素を明確にすること」が目的です。
これまで調べてきたこと、現地で見てきたことをただ並べるのではなく、「これはぜひ伝えたい！」というポイントを整理していきます。

次に、授業の内容です。大きく3つの活動を行います。
①「地元の代表的な魅力」を紹介する
　たとえば、自然や文化、産業、歴史、人、食べ物など、それぞれのグループで調べた内容を整理して、ジャンルごとに分類していきます。まだ知らなかった地域の一面も出てくるかもしれませんね。
② 観光PR動画や地域CMを視聴する
実際の動画を見て、「どうやって地域の魅力を表現しているか」を学びます。動画の構成、音楽の使い方、登場人物の描き方などにも注目してみてください。
③ 自分たちが伝えたい「石垣島の魅力」をリストアップする
最後に、自分たちの動画で伝えたいポイントを「見える化」します。

ここでの整理が、次の素材集めや撮影計画に直結していきます。この授業は、“情報をまとめる力”と“伝えるための視点”の両方が求められます。グループごとに協力しながら、自分たちの伝えたい「石垣島の魅力」をしっかり言葉にしていきましょう。

グループワーク

「地元のここを伝えたい！」をテーマに、各自アイデアを出し合い、グループで共有しましょう



それでは、ここからはグループワークの時間です。テーマはズバリ、「地元のここを伝えたい！」です。
これまでに調べた情報や、自分の体験、家族や知り合いから聞いた話などをもとに、「ここはぜひ動画で取り上げたい！」というポイントを一人ひとりが出してみましょう。

最初のステップは【個人でのアイデア出し】です。短くても大丈夫ですので、紙やメモアプリに3つ以上のアイデアを書き出してみてください。
次に、そのアイデアを【グループで共有】します。お互いの話を聞きながら、「おもしろい！」「それ知らなかった！」という視点を大事にして、意見をまとめていきましょう。

最後には、グループごとに「伝えたい魅力」を1つ以上選び、ホワイトボード（または模造紙）に書き出してもらいます。
それでは、まず個人でのアイデア出しからスタートしましょう！

企画立案シート
「地元の魅力リスト作成シート」

項目	内容
自分が思う一番の魅力	
その理由	
その魅力を誰に伝えたいか	

それでは、今からこの「企画立案シート①」を使って、自分自身の視点で石垣島の魅力を言葉にする作業をしていきましょう。

このシートには、3つの項目があります。
① 自分が思う一番の魅力
　これは、これまで見たり聞いたり体験したりした中で、「やっぱり石垣島といえばこれだ！」と思うものを一つ挙げてください。自然、文化、人、景色、食べ物、行事など、何でもOKです。
② その理由
　なぜそれが魅力だと感じるのか、自分なりの思いやエピソードも添えて書いてみましょう。たとえば、「小さいころから毎年楽しみにしているイベントだから」とか、「観光客にはあまり知られていないけど実はすごい場所だから」など、感情や背景を入れると説得力が増します。
③ その魅力を誰に伝えたいか
　この魅力を届けたい相手をイメージしましょう。観光で初めて訪れる人、地元を離れている同級生、小さい子ども、海外の人など、具体的に想像できると動画の方向性も決まりやすくなります。

ここでは、まず個人でこのシートを記入してもらいます。書き終えたら、グループ内でお互いの内容を発表・共有していきましょう。
自分と違う視点を知ることで、企画に広がりが出てきますよ。



みなさん、おつかれさまでした！
今日の授業では、「自分たちが伝えたい石垣島の魅力」について、個人・グループの両方でアイデアを出し合いましたね。この作業を通して、自分の視点と他の人の視点の違いや、共通点にも気づけたのではないでしょうか。
さて、次回のテーマは「誰に伝えるか」を深掘りすることです。動画は“誰に向けて作るか”によって、構成も表現も大きく変わってきます。
次回は、「ターゲット」となる相手をもっと具体的に想像し、その人に伝わるような企画へとつなげていきます。今日出たアイデアをもとに、さらに魅力が伝わる動画づくりに近づけていきましょう！



第６回

動画のターゲットとメッセージを考える

みなさん、こんにちは。
今回の第6回では、いよいよ動画づくりに向けて「誰に向けて、どんなメッセージを伝えるのか？」というターゲットとメッセージの設定に取り組みます。
ここまでで、石垣島の魅力をたくさん洗い出してきましたね。でも、その魅力をどう伝えるかは、「誰に届けたいのか？」によって変わってきます。

この授業では、以下の２つを明確にしていきます：
　１．誰に届けたいか（ターゲット）
　２．その人に何を感じてほしいか（メッセージ）
この“軸”がしっかり決まると、次回以降の撮影計画や編集の方針もぐっと決めやすくなります。

第６回　授業の概要

■授業の狙い
- 動画で「誰に」「どんなメッセージを」届けるかを明確にする

■授業の内容
- 伝える相手を考える
  （観光客、地元の人、修学旅行生など）
- 「相手にどんな気持ちになってほしいか」を想像する
- 成功しているPR動画のメッセージ性を分析

こちらが本日の授業の概要です。
今回のテーマは、「誰に」「どんなメッセージを」動画で届けるかを明確にすること。これは動画制作の“設計図の芯”になる非常に大事な部分です。
まず、授業の狙いはこの一文です：「動画で『誰に』『どんなメッセージを』届けるかを明確にする」
動画づくりの目的がぶれないように、ターゲットと伝えたいことをしっかり言語化しておく必要があります。

そして授業の中では、3つの内容を行います。
①「伝える相手を考える」
　観光客、地元の人、修学旅行で訪れる学生など、どんな立場の人に届けたいかを具体的にイメージします。このとき、年齢や興味関心、行動パターンなども一緒に考えるとより効果的です。
②「相手にどんな気持ちになってほしいか」を想像する
　例えば、「石垣島に行ってみたい！」と思ってほしいのか、「地元の良さを再発見してほしい」のか。感情のゴールを考えることで、動画のストーリーや表現方法も自然に決まってきます。
③「成功しているPR動画のメッセージ性を分析する」
　実際の動画を見て、「どんな相手に、どんなメッセージを伝えようとしているか」を読み取ってみましょう。その中から、自分たちの企画の参考になるポイントを探していきます。

この作業を通して、みなさんの動画の“目的”と“伝え方”がより具体的になります。

グループワーク

① 「私たちの動画を見た人に、どんな感情を持ってもらいたいか？」を話し合う
② キーワード（楽しい・感動・行きたくなる・懐かしい…など）を決める



それではここからは、グループワークの時間です。今日は、動画を通してどんな気持ちを届けたいのかを明確にしていきます。
まず1つ目のテーマはこちら：
①「私たちの動画を見た人に、どんな感情を持ってもらいたいか？」を話し合う
　これは、動画の“ゴール”を決めるような作業です。たとえば、見た人に「行ってみたい！」と思ってもらいたいのか、「地元っていいな」と思い出してほしいのか、それとも「感動して泣ける！」ような体験を届けたいのか。グループで話し合って、一つにしぼる必要はありませんが、方向性はそろえておきましょう。
② キーワードを決める
話し合った内容をもとに、動画全体の雰囲気を表すキーワードをグループで1〜3個選びましょう。
たとえば：
•楽しい
•感動
•行きたくなる
•懐かしい
•誇り
•元気が出る
…など、感情に結びつく言葉を考えてみてください。
このキーワードが、動画の構成やBGM、ナレーションのトーンにもつながっていきます。
それでは、グループごとに話し合いをスタートしてください。

企画立案シート
「ターゲット・メッセージ設計シート

項目	内容
ターゲット像	
届けたい メッセージ	
想定される リアクション	

続いては、「企画立案シート②」を使って、ターゲットとメッセージの設計を具体的にしていきます。
このシートでは、以下の3つの項目をグループで話し合いながら埋めていきます。
① ターゲット像
　動画を「誰に向けて作るか」をできるだけ具体的に書きます。たとえば、「観光に興味がある大学生」「石垣島出身で今は県外にいる人」「修学旅行で訪れる中学生」など、年齢・立場・関心なども含めてリアルにイメージしてください。
② 届けたいメッセージ
そのターゲットに、動画を通して何を伝えたいのか、どんな気持ちになってほしいのかを書きます。
例：「石垣島は自然だけじゃなくて、人のあたたかさも魅力です」
　　「この動画をきっかけに、また地元に誇りを持ってもらいたい」
③ 想定されるリアクション
その動画を見た相手がどう感じるか、どう行動するかを想像してみましょう。
例：「行ってみたい！と思ってSNSでシェアする」「懐かしくて家族に話したくなる」「地元の良さを再認識する」など。

この3つがそろうと、動画の構成や表現に一貫性が出てきて、より伝わる映像になります。記入後はグループごとに発表してもらいますので、相手に伝わるように言葉を整理しながら書いていきましょう。
それでは、作業をスタートしてください！



みなさん、今日もおつかれさまでした！
今回は、「誰に」「どんなメッセージを伝えるか」をしっかり話し合って、動画の“伝える軸”が明確になってきたと思います。
ここまで来たら、いよいよ次は「どう伝えるか」を具体的に考える段階に入ります。

ということで、次回は「動画の構成（どんな流れにするか）」を考えていきます！
動画にストーリー性を持たせるのか、ナレーション中心で紹介するのか、登場人物を出すのかなど、演出や流れを組み立てていく楽しい作業です。
今日決めたターゲットやメッセージをもとに、“伝わる流れ”をどう作るかを考えていきましょう。
それでは、次回の授業も楽しみにしていてください！



第７回

動画の流れ・構成を考える

37

みなさん、こんにちは。
今回の授業「第7回」では、いよいよ動画全体の流れや構成を考えていきます。
これまでに、
•伝えたい魅力を整理し、
•ターゲットとメッセージを明確にしてきましたね。

今日の目標は、それらをもとにして「動画をどんな順番・構成で見せるか」を具体的に設計することです。大事なのは、「見ている人がわかりやすく、感情を持って見られる構成になっているかどうか」。
今日はその“設計図”をグループで話し合いながら作っていきましょう。

第７回　授業の概要

■授業の狙い
- 動画全体のストーリーやシーン構成をイメージする

■授業の内容
- 動画の基本構成（オープニング・本編・エンディング）を学ぶ
- 3幕構成（導入→展開→締め）で考えるワーク
  例：冒頭に絶景 → 地元の人とのふれあい → メッセージで締める

38

こちらが本日の授業の概要です。
今回の狙いは、動画全体のストーリーやシーン構成をイメージすることです。これまでに考えてきた「伝えたい魅力」「ターゲット」「メッセージ」を、“どんな順番・どんな見せ方”で伝えるかを組み立てていきます。
授業の内容は、大きく2つです。
① 動画の基本構成を学ぶ
　動画には大きく3つのパートがあります：
•オープニング：引き込む導入
•本編：魅力の伝達（複数シーン）
•エンディング：メッセージで締めくくる
この流れを意識することで、見る人にとって分かりやすく、印象に残る動画になります。

② 3幕構成で流れを考えるワーク
よく使われるストーリー構成のひとつに、「導入 → 展開 → 締め」があります。
たとえばこんな流れです：
① 冒頭で石垣島の絶景を見せてインパクト
② 地元の人とのふれあいや文化を紹介
③ 最後にメッセージで視聴者の心に残す

こうした構成をもとに、自分たちの企画に合った“流れ”を考えていきましょう。

グループワーク

① 「私たちの動画の流れはこうしたい！」を話し合いながら順番を決める
② 1本の物語としてイメージする



39

ここからは、動画の“構成”を考えるグループワークに入ります！
これまでに考えた「伝えたい魅力」「ターゲット」「メッセージ」をふまえて、実際にどんな順番で動画を展開していくかを話し合っていきましょう。

やってもらうのは、2つのステップです：
① 「私たちの動画の流れはこうしたい！」を話し合いながら順番を決める
•どこから始まる？
•何を中心に伝える？
•どこで盛り上げる？どう終わる？
というふうに、シーンごとの流れを考えてみてください。
たとえばこんな流れもあります：
•オープニング：絶景
•本編：観光地・人・食べ物の紹介
•エンディング：グループのメッセージと地元の人の笑顔

② 1本の物語としてイメージする
ただ順番を決めるだけでなく、「1本の物語」になるようにイメージしてみましょう。視聴者が“最後まで見たくなる流れ”になっているかを意識して、話し合ってください。
発表の時間もありますので、紙にまとめたり、簡単な絵コンテのように書き出すのも効果的です。
それでは、各グループで構成づくりを始めていきましょう！

企画立案シート
「ターゲット・メッセージ設計シート」

項目	内容
シーンごとの内容	
撮りたいカット	
伝えたいポイント	

40

グループで動画の流れがだいたい決まったら、今度はこの「企画立案シート③」を使って、各シーンごとの内容をより具体的に設計していきます。

このシートで考えてもらうのは、次の3つの項目です：
① シーンごとの内容
　動画の中で登場するシーンを1つずつ分けて、「このシーンでは何を見せるか」「どんな流れにするか」を書き出します。たとえば：「海のシーン」「地元の人のインタビュー」「伝統料理を紹介」など。
② 撮りたいカット
　そのシーンで、どんな映像を撮りたいかを具体的に考えてみましょう。「風景を上から撮る」「人物のアップ」「手元だけを映す」「夕日のタイムラプス」など、撮影イメージも大事です。できれば複数のカットを想定しておくと、編集のときに役立ちます。
③ 伝えたいポイント
　そのシーンで「視聴者にどんなことを伝えたいのか」を明確にしておきましょう。

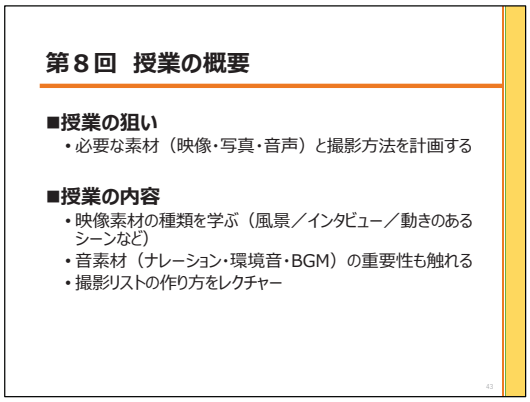
前回のワークで決めたメッセージやキーワードとつながっていると、動画全体に一貫性が出てきます。このシートを使うことで、撮影の計画書や絵コンテの土台ができていきます。
グループごとに分担して書いても構いませんので、丁寧に仕上げていきましょう！



みなさん、今日もお疲れさまでした！
今回は、動画の構成や流れをしっかりと考え、1本の物語としてどう見せるかをグループで話し合ってもらいました。
ここまでの設計がしっかりできていれば、あとはその“設計図”に沿って撮影を計画していくだけです。
ということで、次回は「具体的にどんな素材（映像・音声）を撮るか」を計画します！
「このシーンはこの場所で撮影しよう」「ここはインタビュー音声が必要だね」といったように、必要なカット・音声・撮影場所・持ち物・分担などを細かく考えていきます。
しっかり準備すれば、当日の撮影もスムーズで、良い映像が撮れる確率がぐんと高くなりますよ！
それでは、次回もよろしくお願いします！



みなさん、こんにちは。
今回の第8回では、いよいよ「どんな映像・音声素材を、どこでどう撮影するか」という具体的な計画を立てていきます。
前回までに、伝えたい内容・構成・メッセージなどはだいぶ形になってきましたね。今日はそれをもとに、「このシーンでは何をどう撮るか？」を1つずつ明確にしていきます。
この計画がしっかりしていると、撮影当日がとてもスムーズになります。
逆に、準備不足だと「何を撮るんだっけ？」「場所が決まってない！」となってしまい、良い素材が集まりにくくなってしまいます。



こちらが本日の授業の概要です。
第8回の目的は、「必要な素材（映像・写真・音声）」とその 「撮影方法」を計画することです。
まず、授業の狙いを確認しましょう：
•映像だけでなく、音声や写真といった素材も含めて、どんなものが必要かを明確にし、それをどう撮るかまで考えることが今回のゴールです。

続いて、授業の内容です。
① 映像素材の種類を学ぶ
　「風景」「人物」「インタビュー」「動きのあるシーン」など、どんな映像があると伝わりやすいかを考えていきます。たとえば、ただ風景だけを流すより、そこに人が関わっていた方が生きた映像になりますよね。
② 音素材の重要性にも触れる
　映像と同じくらい大事なのが「音」。ナレーション・環境音・インタビューの声・そしてBGMなどがあると、動画の印象がぐっと豊かになります。ここでは、「どんな音を録音するか」も意識して計画していきましょう。
③ 撮影リストの作り方をレクチャー
　グループごとに、「どこで」「何を」「どう撮るか」をリストにまとめていく方法を紹介します。これが後の撮影現場での“指示書”になりますので、とても大切です。



それでは、ここからはグループワークに入ります！
今回は、動画の構成に沿って、「このシーンでは何を・どう撮るか？」を具体的にリストアップしていく作業です。
①「このシーンでは何をどう撮る？」を話し合い、リストアップ
たとえば…
•シーン：地元の人とのふれあい
→ 映像：笑顔で話す様子を近距離から撮影
→ 音声：インタビューや自然な会話の音
•シーン：観光名所の紹介
→ 映像：風景をドローンや横移動で
→ 音声：ナレーション or 現地の音
思いつく限り、撮りたいカットや素材を書き出していきましょう。

② 撮影できる場所・タイミング・必要な機材も想定
撮影内容だけでなく、それが「どこで」「いつ」「何を使って」できるかも考えていきます。
たとえば：
•夕方の海を撮りたい → 夕方に間に合うスケジュールに
•インタビューを撮る → マイクや静かな場所の確保が必要
•撮影許可が要る場所 → 事前の確認が必要

これらをまとめていくことで、「撮影リスト」＝本番で使える行動計画が完成します。
それではグループごとに作業をスタートしましょう！



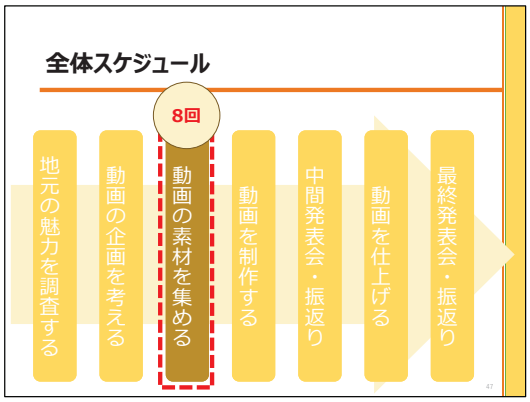
では、ここからは「撮影計画シート」の記入に取り組んでいきましょう。
このシートは、実際の撮影に向けた行動計画をまとめるためのものです。
動画を完成させるために、「何を」「どこで」「どのように」撮るのかを明確にしておくことが目的です。

記入するのは、次の3つの項目です：
① シーンごとの内容
　動画の構成にそって、シーンを分けて記入します。
　たとえば：「オープニングで石垣島の絶景を紹介」「地元の人の話を聞くインタビュー」「観光客のリアルな声を集める」など。
② 撮りたいカット
　どんなカットで撮影したいか、できるだけ具体的に考えましょう。「引きの風景ショット」「人物のアップ」「手元の動き」「歩きながらのインタビュー」など、イメージしやすい言葉でOKです。
③ 伝えたいポイント
　このシーンを通して、視聴者にどんな印象や感情を届けたいのかを書きます。「島の静けさを感じてほしい」「地元の人のあたたかさが伝わるように」など、撮影の“ねらい”を明確にしておきましょう。

このシートがしっかり書けていれば、当日の撮影は迷いなく進められます。
グループで話し合いながら、ひとつずつ丁寧に埋めていきましょう！



みなさん、今日もおつかれさまでした！
今回は、グループで撮影計画を立て、どのシーンでどんな映像・音声を撮るか、しっかり準備ができたと思います。
このシートがしっかりしていれば、次回からいよいよ本番「素材集め」に入ります！実際に外に出て、計画した映像や音を撮っていきます。
インタビューがあるグループは事前の連絡や準備も必要になりますし、屋外での撮影は天気や時間帯にも左右されますので、リスクも想定しながら進めていくことが大事です。
次回は、各グループで計画に沿って動く「実践パート」になります。忘れ物がないように、必要な機材や資料をしっかり確認しておいてくださいね！



いよいよここからは、実践パートに突入します！今日から進んでいくのは、この赤枠で囲まれた「動画の素材を集める」というステップです。
このステップには、全8回の授業時間（50分×8回）を使って取り組みます。

ここまでで、
•地元の魅力を調べて、
•動画の企画を立てて、
•ターゲットやメッセージを明確にし、
•流れや構成を決め、
•撮影計画まで立ててきました。
そしていよいよ、ここからはその企画を実行に移すフェーズに入ります。

つまり、「机上のアイデア」から「実際の素材」に変えていく、とても重要なステップです。この素材集めが動画の完成度を大きく左右します。どれだけ“良い素材”を撮れるか、録れるかが勝負です。
実りのある素材集めができるよう、がんばっていきましょう！



今日はその第一歩として、「撮影の基本的な技術やコツ」を学ぶ時間です。
タイトルにある通り、第9回のテーマは「動画素材の撮影方法を学ぼう」です。
動画のクオリティは、撮影のちょっとした工夫で大きく変わります。
たとえば：
•カメラの構え方や安定させ方
•明るさ・逆光・ピントなどのチェックポイント
•動きのあるシーンをどう撮るか
•音を録るときの環境やマイクの使い方　などなど…
今日は、スマホやタブレットでもできる「実践的な撮影スキル」を中心にレクチャーしていきます。
自分たちの動画を“魅力的に伝える”ために、撮影の力もぜひレベルアップさせていきましょう！

第９回　授業の概要

■授業の狙い
- 良い動画素材を撮影するための基本技術（構図・カメラワーク・音の録り方）を学ぶ

■授業の内容
- 動画撮影の基本レクチャー
  - 枠内構図（3分割法）
  - 動きのある撮り方（パン・ズーム・トラッキング）
  - 音声収録のポイント（環境音・インタビュー音声）
- 失敗しやすいポイントも紹介（ブレ／逆光／風音）

49

それでは、「第9回 授業の概要」を説明します。
今日の授業の狙いは、良い動画素材を撮影するための基本技術（構図・カメラワーク・音の録り方）を学ぶことです。動画を撮るとき、ただ「録画ボタンを押せばOK」ではありません。
構図の取り方、カメラの動かし方、音の扱い方などちょっとした工夫や意識の違いが、作品のクオリティに大きく影響します。
今日の授業では、以下のような内容を取り上げます：

◆ 動画撮影の基本レクチャー
•構図（3分割法）：人物や景色をどう配置するかで印象が変わります。
•動きのある撮り方：パン（左右の動き）、ズーム、トラッキング（追いかけ撮影）など。
◆ 音声収録のポイント
•インタビュー音声の録り方、周囲の雑音（環境音）の使い方、風の音対策など。
◆ よくある失敗ポイント
•ピントが合っていない、手ブレが激しい、逆光で顔が暗い、風音で声が聞こえない…
　→ これらを「知っていれば防げる」ことが多いので、事前にしっかり学びます。
スマホでも十分撮れますので、基本を意識して撮ることが何より大事です。
それでは、はじめに「構図」のレクチャーから入っていきましょう！

撮影前に知っておこう

- 何を「伝えたいか」をはっきりさせよう
- 撮影する場所・時間帯を事前にチェックしよう
- 撮影許可が必要な場所もあるので注意！



50

ここでは、撮影に入る前に必ず意識しておいてほしいポイントを3つ確認しておきます。
① 「何を伝えたいか」をはっきりさせよう
　ただ映像を撮るのではなく、その映像でどんなメッセージを伝えたいのかを常に意識しましょう。
　たとえば「風景がきれい」だけで終わらず、「この場所が地元の人にとって大切な思い出の場所なんだ」と伝えるにはどう撮るか？を考えることが大切です。
② 撮影する場所・時間帯を事前にチェックしよう
　「昼と夕方では光の入り方が違う」「混んでいて撮影できない時間がある」など、現場の状況は時間によって大きく変わります。
　また、天気やイベントなどで思った通りにいかないこともあるので、事前に現地確認・下見（ロケハン）をしておくと安心です。
③ 撮影許可が必要な場所もあるので注意！
　公園、商業施設、学校など、場所によっては撮影の許可が必要なケースがあります。許可が必要な場所は、必ず先生に相談してください。トラブルを避けるためにも重要です。

これら3つを押さえておけば、スムーズに、そして安心して撮影に取り組むことができます。

＜参考＞持ち物チェックリスト

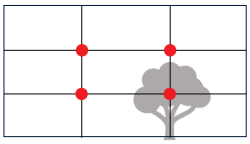
- **必須アイテム**
  - 撮影機材（スマホ／タブレット／ビデオカメラなど）
  - 充電済みのバッテリー／モバイルバッテリー
  - SDカード or 本体ストレージの空き容量確認済み
  - 三脚またはスタビライザー（手ブレ対策）
  - マイク（外付けマイク or イヤホンマイク）
  - 撮影計画シート／台本／進行メモ
- **音声収録用**
  - 録音用デバイス（スマホのボイスメモ機能などでもOK）
  - 風防（ウインドスクリーン）、スポンジカバー
  - 静かな場所の確保プラン（インタビュー用）
- **環境＆天候対策**
  - 日除けグッズ（帽子・タオル）
  - 雨具（カッパ／防水カバー）
  - 天気・日の入り時間の確認
  - 予備の服 or 汚れても良い靴
- **コミュニケーション用**
  - インタビュー相手への連絡先メモ／許可メモ
  - 名札・腕章（学校や地域で必要な場合）
  - 撮影許可証（必要な場所のみ）
- **その他あると便利**
  - クリップボードやバインダー（紙を挟んで書きやすい）
  - マスキングテープや付箋（メモや目印に）
  - ウェットティッシュ／ゴミ袋（衛生・片付け用）
  - 予備の撮影者・交代要員の確認

51

こちらが撮影前に持っていくべき物のチェックリストです。撮影は「準備8割」と言われるくらい、事前の持ち物確認がとても大事です。
このスライドは、当日朝の「出発前チェック」にもそのまま使えます。班ごとにリーダーを決めて、グループ内でチェックリストを活用して確認作業をしてくださいね。

構図の基本（3分割法）

- 画面を縦横それぞれ3分割するイメージ
- 被写体（人物・建物など）は交点に配置するとバランスがいい
- 地平線は画面の中央ではなく、上下どちらかのラインに



52

ではここからは、映像をより魅力的に見せるための“構図”の基本をお伝えします。
写真や動画の構図でよく使われるのが、こちらの「3分割法」です。
◆ 3分割法とは？
　画面を縦・横に3分割して、全体を9つのブロックに分けたような構成をイメージします。（画面下の図を指しながら）このように、赤い点が交わるところ＝“交点”がポイントになります。
◆ ポイント①：被写体は交点に置くと自然でバランスがよい
　たとえば人物や建物、メインで見せたいものをこの交点の近くに配置すると、見ていて安定感のある映像になります。よくあるNGは、被写体をド真ん中に置いてしまうこと。
　もちろん狙いがあればOKですが、初心者はまずこの3分割法からスタートすると上達が早いです。
◆ ポイント②：地平線は中央に置かず、上か下のラインに風景や自然を撮るときに大事なのが地平線の位置です。地平線を真ん中にすると、画面が“割れて見える”ので、やや上かやや下のラインに寄せて配置するとプロっぽい仕上がりになります。
まずはスマホの「グリッド線表示」をONにして、構図が見える状態にしてくださいね。

カメラの動かし方（カメラワーク）

- パン（横にゆっくり振る）
- ティルト（縦にゆっくり振る）
- ズーム（少しずつ拡大・縮小する）
- トラッキング（歩きながら被写体を追う）

※動きは「ゆっくり」「滑らかに」が基本！





53

次は、カメラの動かし方＝カメラワークについて学びましょう。ただ固定して撮るだけでなく、カメラをどう動かすかで動画の印象は大きく変わります。
主なカメラワークの種類
◆ パン（横にゆっくり振る）
　風景や広がりを見せたいときに有効です。
　例：海岸線、街並み、教室内など。
◆ ティルト（縦にゆっくり振る）
　高い建物や自然のスケール感を伝えたいときに使います。
　例：山や滝を下から上へ、人物の足元から顔へ。
◆ ズーム（拡大・縮小）
　被写体に注目を集めたいときに使えますが、スマホでのデジタルズームは画質が落ちるので注意！
◆ トラッキング（被写体を追いかけながら撮る）
　歩く人、動く物を“ついて行く”ように撮る方法。臨場感が出ます。

そして最後にとても大切なポイントが、カメラの動きは「ゆっくり」「滑らかに」！ガタガタ・速すぎる・ブレが大きいと、見ていて酔ってしまうこともあります。
カメラを動かすときは、両手でしっかり持つ・体全体で動く・三脚やスタビライザーを使うなどの工夫をしましょう。

音も重要！（録音のポイント）

- 風の音に注意！（風防カバーがあると安心）
- できるだけ雑音の少ない場所で録る
- インタビューはマイクに近づいて録音
- 環境音（波の音、鳥の声など）も撮っておこう



54

続いては、音の重要性についてです。映像づくりでは、「映像がきれい」だけでは伝わりません。“伝わる動画”には、必ず“良い音”があります。
◆ まずは一番多い失敗から：
　風の音に注意！屋外で撮影すると、風が当たったときの“ボフッ”という音がかなり入ってしまいます。これは視聴者にとってとても聞きづらいノイズです。できれば風防カバー（スポンジやモフモフ）を使いましょう。ない場合は、手や服でマイクを軽く覆って風を遮るだけでも効果があります。
◆ 録音のコツは以下の通り：
•できるだけ雑音の少ない場所を選ぶ　→ 車の音、人の話し声、工事音が入ると聞き取りづらくなります。
•インタビューはマイクに近づいて録音　→ 音が遠いと聞こえにくくなります。可能ならスマホを口元近くに近づけましょう。
•環境音も忘れずに！　→ 波の音、鳥の声、風が木を揺らす音など、“その場の雰囲気を伝える音”はあとから動画に入れるBGMの代わりにも使えます。
実際、編集のときに「音がうまく録れてない！」という声がよく出ます。

よくある失敗例

- 手ブレがひどい
  → 両手でカメラを支える、壁や柱を使う
- 逆光で真っ暗
  → 背景と光の向きを意識して立ち位置を調整
- シャッターを止め忘れて無駄な映像が入る
  → こまめにON/OFF



55

ここでは、撮影でよく起こる“もったいない失敗”を3つご紹介します。事前に知っておくだけで防げることばかりなので、ぜひ意識しておきましょう。
① 手ブレがひどい　→ スマホやタブレットを片手で持って撮ると、ブレてしまって映像が見にくくなります。
対策としては、
•両手でしっかり構える
•壁や柱に体を固定する
•三脚やスタビライザーを使う　などが有効です。
② 逆光で真っ暗　→ 太陽や光源を背にすると、人物の顔が真っ黒に見えることがあります。
対策は、
•撮影の位置を少しずらす
•背景と光の方向を意識する
•明るい場所で撮る　など。
スマホによっては、画面タップで明るさを調整できますので活用しましょう。
③ シャッターのON/OFF忘れで無駄な映像が入る　→ 撮り終えた後にシャッターを止め忘れて、「だらだら歩いてるだけの映像」「会話中の音声」が入ってしまうケースも多いです。
対策は、こまめに録画のON/OFFを意識すること！
誰かが「撮影ボタン係」になるのもおすすめです。
この3つは、どれも“もったいないミス”です。
ほんの少し意識を変えるだけで、仕上がりのクオリティが一段上がります。

更に学びたい人へ（参照リンク）

- 動画ビギナー必見の制作TIPS！Vol.1映像制作の基礎知識【Vook×PIXTA 】
  https://pixta.jp/guide/?p=68551
- 【動画ビギナー必見!】知っておきたい基本のカメラワーク
  https://pixta.jp/guide/?p=15795
- 【動画撮影】プロと素人の構図の違い3選。構図を間違えると動画がダサくなるので要注意！
  https://www.youtube.com/watch?v=ehOsVUzvt-0&t=4s

56

今日の授業では、動画撮影の基本を一通り学びましたが、「もっと詳しく学んでみたい」「家でも復習したい」という人のために、参考リンクを紹介します。
◆ 1つ目：
『映像制作の基礎知識』　初心者向けに、撮影前～編集までの流れがまとまっていてとても読みやすいです。
◆ 2つ目：
『カメラワークの基本』　パンやティルト、トラッキングなど今日紹介した内容を、図付きで丁寧に解説しています。
◆ 3つ目：
『プロと素人の構図の違い』YouTube動画
同じ場面でも構図ひとつでこんなに違う！という比較がとてもわかりやすい動画です。

このスライドは、撮影の準備や振り返りのときにも活用してください。授業では時間の都合で説明しきれなかったことも、こうしたサイトで補うことができます。
「もっと上手く撮りたい！」という人は、ぜひ一度のぞいてみてくださいね！



今日の授業で、動画撮影の基礎知識・技術の準備はバッチリです！
ということで次回からはいよいよフィールドワーク！グループごとに実際に外へ出て、計画したシーンの撮影に取りかかります！
撮影は準備も本番もチームワークが命です。事前にもう一度「持ち物チェックリスト」「撮影計画シート」「撮影許可」などを確認しておいてください。
また、当日は
•安全第一で行動すること
•撮影マナーを守ること
•役割分担をきちんと話し合っておくこと
をしっかり意識して進めましょう。
それでは、次回からはいよいよ“実践モード”へ！
自分たちの企画を、映像という形でカタチにしていきましょう！
準備、楽しんで進めてきてくださいね！



第10〜12回

フィールドワーク（撮影）

さあ、いよいよここからは第10回〜12回、フィールドワークの撮影期間です！
これまでに準備してきた企画や構成、撮影計画をもとに、実際に外に出て、動画で使う素材を撮影していきます。
この期間の目標は、ズバリ：「使える映像と音声を、計画どおりにしっかり集める」こと！
もちろん現場では予想外のこともあるかもしれません。
ですが、チームで協力しながら、臨機応変に対応することもこの学びの一部です。

活動中のポイントは次の通りです：
•撮る前に「このカットで何を伝えたいか？」を確認する
•手ブレや逆光、風音などに注意する
•現地でこまめに映像をチェックしておく
•安全とマナーを最優先に行動する
先生たちは随時巡回・サポートに入りますので、困ったことがあれば遠慮なく声をかけてくださいね。
さあ、自分たちの「伝えたい想い」を、カメラに込めていきましょう！
実践、楽しんでいきましょう！

第10〜12回　授業の概要

■授業の狙い
- 事前に計画した撮影対象を現地で撮影し始める

■授業の内容
- 現地集合（もしくは学校発→現地へ移動）
- グループごとに撮影開始（撮影計画に沿って素材収集）
- 現地解散（もしくは学校着→解散）

こちらは、第10〜12回の撮影実習（フィールドワーク）についての授業概要です。
■ 授業の狙い
事前に立てた撮影計画に基づいて、実際に現地で撮影を開始すること。つまり「アイデアを実際の映像としてかたちにしていく」ステップです。
■ 授業の流れ（基本パターン）
1.現地集合（または学校集合 → 移動）→ 時間と場所はグループごとに事前に確認しておきましょう。
2.グループ別で撮影スタート！
　→ 各班は「撮影計画シート」に沿って、必要な映像・音声素材を収集します。
　→ 担当者（カメラ・音声・進行など）も班内で分担しましょう。
3.現地解散（または学校帰着後に解散）→ 撮影が終わったら、機材やデータを整理して終了です。

ポイントは、「ただ撮る」だけでなく、
•計画と実際に違いがあったとき、どう工夫して乗り越えるか
•撮れた素材が「伝えたいメッセージ」に合っているかを、その場で確認すること
みなさんのアイデアが、どんな映像になっていくのか楽しみにしています！
撮影、がんばってくださいね！



第13回

撮影素材チェック

今日は第13回、撮影素材チェックの回です。ここでは、これまでのフィールドワークで撮影してきた素材を整理し、編集に向けた準備を進めます。
まず確認してほしいのは、「素材がきちんと揃っているか」「計画通りに撮れているか」という点です。
✔ 予定していたシーンはすべて撮れていますか？
✔ 音声や映像に問題（ブレ・ノイズ・明るさなど）はありませんか？
✔ 編集に使える長さで撮れていますか？　などを確認していきます。
グループで素材を見ながら、
•足りないものがあれば追加撮影を検討
•複数撮った場合は「どのカットを使うか」選定
•使用しないものは整理・削除して容量確保
といった作業を行います。
この回は、「動画づくりの土台づくり」とも言えます。

第13回　授業の概要

■授業の狙い
- これまでに撮影した素材を確認し、不足しているもの・改善点を把握する

■授業の内容
- 撮影素材の一覧整理
- 実際に映像チェック（ブレ、光量、構図、音など）
- 伝えたいメッセージに合った素材が撮れているか自己確認

61

■ 授業の狙い
撮った映像を振り返ることで、
•使える素材・使えない素材の判断
•足りないカットの洗い出し
•構成やメッセージとのズレの発見
など、編集前に確認すべきポイントを整理することが目的です。
■ 授業の内容
1.撮影素材の一覧を整理する　→ 撮った場所・シーン・カットをリストにして、何があるかを可視化しましょう。
2.映像・音声の実物チェック　→ ブレやピンぼけ、音声のノイズ、逆光、暗すぎる映像などがないか確認。
3.「伝えたいメッセージ」に合っているか？　→ 構成シートと照らし合わせて「この映像で伝わるか」を自己点検してみましょう。
このタイミングで修正できることもたくさんあります。

グループワーク

「この素材は使えそう？」「もっと欲しいシーンは何か？」を話し合う



62

ここからは、グループで素材を見ながら話し合う時間です。
テーマは次の2つです：
①「この素材は使えそう？」　→ ブレていないか？音声は聞こえるか？明るさ・構図はどうか？など、実際に再生して確認してください。
②「もっと欲しいシーンはある？」　→ ナレーションを入れるための“背景映像”、つなぎに使える“自然の風景”、インタビューの補足映像など、不足している素材があればメモしておきましょう。

ポイントは、「伝えたいメッセージが伝わるか？」を基準に判断することです。ただキレイに撮れているだけではなく、見る人に届く映像か？という視点で考えてください。
グループごとに1人、記録担当を決めておくと効率的です。
それでは、グループごとに作業スタートです！
途中で迷ったら、先生に相談してくださいね。

追加撮影計画シート

項目	内容
不足素材	
追加撮影 したい内容	

63

こちらは、今日のグループワークで使う「撮影チェックシート」＝撮影計画シート④です。
このシートでは主に、次の2つを整理します：
① 不足素材　→ 撮影済み素材の中で「ブレていた」「音が入ってなかった」「イメージと違った」など、使えない・足りないと感じた素材をここに書き出しましょう。
② 追加撮影したい内容　→ ①をふまえて、「どんなシーンを、どこで、どう撮るか？」を簡単に計画します。
　例：
　- 商店街のにぎわい（広めのバンショット）
　- インタビュー補足の看板アップ映像
　- ドローンがないので高台からの全景で代替 など
このシートは今後の撮影リカバリー（追加撮影）の計画にも使う大事な資料になります。できるだけ具体的に、そして現実的な案にしておくと、後が楽になりますよ。
それでは、チェックが終わったグループからこのシートを記入していってください。
わからないところはいつでも質問してくださいね！



64

みなさん、今日の素材チェックおつかれさまでした！
さて、次回からは「再度のフィールドワーク」として、今日見つけた不足素材や追加したい映像・音声を実際に撮影しに行きます！
　今日のチェックシートで出てきた
•「もう少しこの場面が欲しい」
•「別アングルで撮り直したい」
•「インタビューの声が聞こえにくかった」
といった課題を、実際に行動して解決する時間になります。



第14～16回

フィールドワーク（撮影）2回目

いよいよ本日から、第2回目のフィールドワーク（撮影）に入っていきます！
今回の目的は、前回のチェックで見つけた「不足素材」や「改善が必要なシーン」の再撮影・追加撮影です。
つまり、動画の完成度を上げるための“仕上げの撮影”となります。
撮影に出かける前に、各班で以下のことをしっかり確認してください：

第14～16回　授業の概要

■授業の狙い
- チェックした内容をもとに再度撮影する

■授業の内容
- 現地集合（もしくは学校発→現地へ移動）
- グループごとに撮影開始（撮影計画に沿って素材収集）
- 現地解散（もしくは学校着→解散）

■ 授業の狙い
今回は、前回（第13回）の素材チェックをもとに、不足していたシーンや改善が必要だった内容を再度撮影していくことが目的です。
■ 授業の内容
1.現地集合 または 学校から現地へ移動
　集合時間・場所は各グループで事前に確認してください。
2.グループごとに撮影開始
　撮影計画シート④（撮影チェックシート）に沿って、素材を効率よく収集していきましょう。
3.撮影終了後は現地解散 または 学校に戻って解散
　時間内に安全に帰れるよう、撮影の段取りや移動手段も事前に話し合っておいてください。

撮影は公共の場所や人が関わることもあるので、マナーと安全第一で！
天候や現地の状況も想定して、予備案や雨天対応の準備もしておきましょう。
撮影した素材は、その日のうちに保存・確認を！
これが、動画完成へのラストチャンスです！妥協せず、しっかり撮り切っていきましょう！



みなさん、おつかれさまでした！ここまでで、必要な映像素材・音素材の撮影が完了しました。次回からはいよいよ、撮った素材を使って実際に動画を制作していくステップに入ります。
•伝えたいメッセージがちゃんと表現できるか？
•素材をどう組み合わせれば見やすくなるか？
•音声・ナレーション・BGMなどの工夫もポイントです。
次回の授業までに、
•撮った素材を整理しておくこと
•「使いたいシーン」「順番のアイディア」なども考えておくとスムーズに進められます。
では、次回も楽しみにしていてください！



第17回～第28回

動画を制作する

全体スケジュール



ここからは、制作パートに突入します！今日から進んでいくのは、この赤枠で囲まれた「動画を制作する」というステップです。
このステップには、全12回の授業時間（50分×12回）を使って取り組みます。

ここまでで、
•地元の魅力を調査し、
•動画の企画を立て、
•素材を撮影してきました。
そして、いよいよ 動画編集の工程 に入っていきます。
この工程では、
•撮った素材をどうつなぐか？
•音声やBGM、テロップをどう加えるか？
•見せたいメッセージが伝わる構成になっているか？
を意識して、「伝わる動画」をつくっていきましょう。

完成後は「中間発表会」で発表し、さらに仕上げていきます。
引き続き、グループで協力して頑張っていきましょう！



第17回

動画制作の基本的な流れを学ぶ

さて、第17回の授業では、いよいよ「動画制作の基本的な流れ」を学んでいきます。
これまで皆さんが撮影してきた素材を、どう編集して「伝わる動画」に仕上げていくのか、その全体の流れと手順を理解していきます。
今日は、
•素材の整理の仕方
•編集ソフトの基本操作
•映像・音声・テロップの扱い方
•書き出し（完成させる）までの一連の流れ
などを確認します。
この回をしっかり理解しておくと、次回からの本格的な編集作業がとてもスムーズに進みます！
では、動画制作の世界に踏み出していきましょう！

第17回　授業の概要

■授業の狙い
- 動画制作全体の流れ（企画～撮影～編集～完成）を理解し、これからの作業イメージを持つ

■授業の内容
- 動画編集とは「素材を整理し、伝えたいことを形にする作業」である
- 簡単なPR動画（最大60秒）を鑑賞
  → どんな流れになっているか確認
- 伝えたいメッセージを中心に構成する
  ・短く、分かりやすく、印象に残る工夫が必要

れでは、第17回の授業内容に入っていきます。
まず今日の狙いは、動画制作の全体の流れ、つまり、「企画 → 撮影 → 編集 → 完成」までを理解し、これからの作業のイメージをしっかり持つことです。
次に、今日の具体的な内容です。
まず最初にお伝えしたいのは、編集とは「素材を並べる作業」ではなく、“伝えたいことを形にする”大事なステップだということです。
今日は、参考として60秒以内のPR動画をいくつか観てもらいます。
どんな流れになっているのか、どこが印象に残ったかなどを一緒に分析していきましょう。
そして最後に大切なポイント。
皆さんが作る動画も「伝えたいメッセージ」が中心です。
それをどうすれば
「短く」「分かりやすく」「印象に残る」形で伝えられるか、編集での工夫のポイントも、これから学んでいきましょう。

PR動画鑑賞

■群馬観光 PR動画
https://www.youtube.com/watch?v=IAMNWRY3T_8

■御殿場市 観光PR動画
https://www.youtube.com/watch?v=pAdsD6ZIL-0

■浅草 地域PR動画
https://www.youtube.com/watch?v=pAdsD6ZIL-0

続いては、実際のPR動画を鑑賞していきます。ここでは3本の動画を紹介します。
それぞれ違った場所の魅力を、どんな映像や言葉で表現しているかに注目してください。
まず1本目は「群馬観光PR動画」です。
こちらは、テンポの良さや音楽の使い方がポイントです。観光地の魅力を一気に伝える構成になっています。
次に「御殿場市 観光PR動画」です。
この動画は、地域の日常風景や人々の表情を丁寧に切り取っていて、あたたかさや親しみが感じられる構成になっています。
3本目は「浅草 地域PR動画」。こちらも同じURLですが、切り口の違いを比較しながら見てみてください。

それでは、動画を観ながら以下の点に注目してみましょう：
•最初のシーン（導入）はどんなふうに始まる？
•どんなメッセージが伝わってきた？
•印象に残ったカットや音楽は？
観終わったあと、みなさんと感想や分析を共有していきたいと思います。

グループワーク

自分たちのグループ動画は「どんな流れで」「どんなメッセージ」を伝えたいか話し合う



今からはグループごとに話し合いの時間です。
テーマは、「自分たちのグループ動画は、どんな流れで、どんなメッセージを伝えたいか？」です。
先ほど鑑賞したPR動画を参考にしながら、
•どんな順番で素材をつなぐか（例：絶景→人々の笑顔→特産品 など）
•見た人にどんな気持ちを持ってほしいか
•一番伝えたいポイントは何か
これらをグループ内で話し合ってみてください。
必要に応じて、ホワイトボードや付箋を使って、アイデアを書き出してみてもOKです。
目標は、「こんな動画にしたい！」というおおまかな構成とメッセージをみんなで共有することです。

編集計画シート

項目	内容
伝えたいこと	
動画の大まかな流れ	
使う素材	

みなさん、今のグループワークで「伝えたいメッセージ」や「動画の流れ」のイメージはつかめてきたでしょうか？
ここからは、それをこの「動画イメージメモ」に具体的にまとめていきましょう。
このシートには、3つの項目があります：
1.伝えたいこと　→ 視聴者にどんな気持ちになってほしいか、どんなメッセージを伝えたいかを一言で書いてみましょう。
2.動画の大まかな流れ　→ はじめ・中・おわり、それぞれどんなシーンをつなげるか、簡単に箇条書きでOKです。
3.使う素材　→ すでに撮影した映像や音声の中から、どれを使う予定か書いておくと、編集時に役立ちます。
このシートは動画制作の設計図になります。あとで編集をするときの土台になるので、しっかり話し合ってまとめてくださいね。



第18回

Premiere Proの基本操作を覚える

今日から、いよいよ本格的な動画編集に入っていきます！
今回はその第一歩として、Adobe Premiere Proの基本操作を覚えていきます。
Premiere Proは、プロも使う本格的な動画編集ソフトですが、最初に覚えるべき操作は限られているので、ポイントをしぼって、順番に体験していきましょう。
まずは「素材の取り込み」から始めて、
・カット編集
・テロップの挿入
・BGMや効果音の追加
などの基本を一緒にやっていきます。
操作がわからないところがあれば、遠慮せずに質問してください。みなさんのペースに合わせて進めますので、ご安心くださいね。
それでは、Premiere Proを立ち上げて、作業に入りましょう！

第18回　授業の概要

■授業の狙い

・Adobe Premiere Proの基本操作（素材の取り込み、並べる、カットする、テロップを入れる）を体験する



では、今回の授業の狙いを確認しましょう。
この授業では、Adobe Premiere Proを使って、動画編集の基本的な操作を体験します。
具体的には…
•素材をパソコンに取り込む
•タイムライン上に並べる
•いらない部分をカットする
•テロップ（字幕）を入れる
というような、編集の基礎となる作業を一つひとつやってみます。
今日の目標は、「とにかく一度やってみること」です。
うまくできなくても大丈夫です！操作に慣れることが最初の一歩です。
それではさっそく、Premiere Proを立ち上げて一緒に作業していきましょう！

第18回　授業の概要

■授業の内容
- 【導入】
  Premiere Proとはどんなソフト？
- 【基本操作レクチャー】
  1. 新規プロジェクトを作る
  2. 素材（撮影した動画など）の取り込む
  3. 素材をタイムラインに並べる
  4. いらない部分をカットする
  5. テロップ（文字）を入れる
  6. 効果音やBGMを入れる
- 【注意点】
  ・こまめに保存すること
  ・タイムラインは「伝えたい順」に並べることが重要

77

では、この時間で行う具体的な作業内容について説明します。
まず導入として、Premiere Proとはどんなソフトか、簡単に紹介します。
Premiere Proは、動画を編集するためのソフトで、プロの現場でも使われていますが、基本的な操作さえ覚えれば、初心者でも簡単に動画を作ることができます。
次に【基本操作レクチャー】に進みます。
ここでは、次の6つの手順で編集の基本を体験してもらいます：
1つ目、新規プロジェクトを作る
2つ目、撮影した動画などの素材を取り込む
3つ目、素材をタイムラインに並べる
4つ目、いらない部分をカットする
5つ目、テロップ（文字）を入れる
6つ目、効果音やBGMを入れる
これらを通じて、伝えたい内容が伝わる編集を体験していきましょう。
最後に、注意点です。
•作業中はこまめに保存してください。万が一に備えるためです。
•また、タイムラインの並べ方がとても重要です。
伝えたいことがきちんと伝わる順番になっているかを意識して編集してください。
それでは、編集作業を始めましょう！

Premiere Proってどんなソフト？

■動画素材を「並べて」「切って」「飾って」、自分だけの作品を作れるソフト



■主な機能
- ■動画や写真を並べる
- ■必要なところだけ切り取る
- ■テロップ（文字）を入れる
- ■音楽やナレーションをのせる
- ■映像に効果（フェードイン・フェードアウトなど）をつける

78

ここでは、これから実際に使う編集ソフト「Premiere Pro」について簡単に紹介します。
Premiere Proは、動画素材を「並べて」「切って」「飾って」、自分だけの作品を作れるソフトです。
とても多機能なソフトですが、今回皆さんが使うのは、その中でも基本的な機能が中心です。
主な機能としては、
•動画や写真を順番に並べる
•必要なところだけを切り取る
•テロップ（文字）を入れる
•音楽やナレーションをのせる
•映像に効果（フェードイン・フェードアウトなど）をつける
これらの操作を使って、自分たちの伝えたいことが分かりやすく伝わる動画を作っていきます。
Premiere Proはプロの現場でも使われているソフトですが、今日の授業では初心者でも扱えるように、基本的なところを中心にレクチャーしていきますので安心してくださいね。

1．新規プロジェクトを作る

■作業手順
1. Premiere Proを起動する
2. 「新規プロジェクト」を選ぶ
3. プロジェクト名をつける
   （例：「グループA_石垣島PR」）
4. 保存場所を決める（USBや指定フォルダ）
5. 画面右下「作成」ボタンをクリック

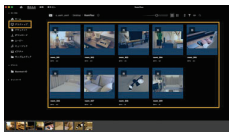


79

それでは、実際にPremiere Proで動画制作を始めていきましょう。
まず最初のステップは、「新規プロジェクトの作成」です。
作業手順は以下のとおりです。
1.まず、Premiere Proを起動します。
2.起動画面で「新規プロジェクト」を選びましょう。
3.次にプロジェクトに名前をつけます。わかりやすく、グループ名や内容が分かるようにしましょう。
　例：「グループA_石垣島PR」など。
4.次に保存場所を決めます。基本的には、USBや指定されたフォルダに保存しましょう。
5.最後に画面右下の「作成」ボタンをクリックすると、編集画面が開きます。
ここまでが、動画制作のスタートラインです！
それでは、各自で実際に操作してみましょう。

2．素材（撮影した動画など）を取り込む

■作業手順
1. 左上の「プロジェクトパネル」で右クリック
2. 「読み込み」を選択
3. 撮影した動画・写真・音声ファイルを選ぶ
4. 素材がパネルに表示されたらOK



80

次に、実際に撮影してきた素材をPremiere Proに取り込みましょう。
操作手順はとても簡単です。
1.画面左上の「プロジェクトパネル」のところで右クリックします。
2.「読み込み」というメニューを選んでください。
3.撮影した動画や写真、音声ファイルを選びます。複数選んでもOKです。
4.素材がプロジェクトパネル内に表示されたら成功です！
この作業で、Premiere Proの中に素材を準備することができます。
うまく表示されない場合は、ファイルの場所や形式を確認してみましょう。
では、みなさんの素材を取り込んでみてください。

3．素材をタイムラインに並べる

■作業手順

1. 使いたい素材をドラッグして、
   タイムライン（下の帯）に持ってくる
2. 上から「映像」「音声」の順に並ぶ
3. 左から右に進む＝時間の流れを作るイメージ

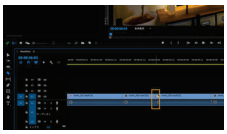


次は、取り込んだ素材を「タイムラインに並べる」作業です。
ここからが、実際の編集のスタートになります。
作業手順は次の通りです。
1.まず、使いたい素材をドラッグして、画面下の「タイムライン」と呼ばれる帯のエリアに持っていきます。
2.タイムラインには「映像は上側」「音声は下側」という並びがあります。
　動画にはすでに音が入っていることもあるので、一緒に入ってくる場合はOKです。
3.タイムラインは左から右に進む＝時間の流れを表しています。映像を再生すると、この順に再生されます。
つまり、ここで「動画の流れ・構成」を作っていくイメージですね。
映像と音声の順番に注意しながら、シナリオに沿って並べてみましょう。

4．いらない部分をカットする

■作業手順

1. タイムライン上で素材を選ぶ
2. カミソリマーク（ツールバーのハサミ）をクリック
3. 切りたい場所をクリック → 必要ない部分を削除



次は「いらない部分をカットする」作業に入ります。
動画の中で、使わない部分やミスのある部分はここで削除していきましょう。
作業手順はこちらです：
1.まず、タイムライン上でカットしたい素材をクリックして選びます。
2.次に、ツールバーの「カミソリマーク」を選びます。これはハサミのアイコンですね。
3.そして、切りたい場所をクリックすると、そこが分割されます。
　必要のない方を選んで、Deleteキーで削除しましょう。
カット作業は、「見せたいものだけを残す」ための重要なステップです。
映像がテンポよく進むよう、間延びしている部分なども思い切ってカットしてみましょう。

5．テロップ（文字）を入れる

■作業手順

1. ツールバーから「T」（テキストツール）を選ぶ
2. プログラム画面（上中央）でクリック
   →文字を打つ
3. テロップをタイムライン上に配置して長さを調整
4. フォントや色も自由に変更できる



ここでは「テロップ（文字）を入れる」方法について解説します。
テロップは、場所の名前を表示したり、説明を加えたりするためにとても便利です。
入れるだけで動画がぐっと見やすく、伝わりやすくなります。
手順は次のとおりです：
1.ツールバーから「T」のアイコン、テキストツールを選びます。
2.次に、上のプログラム画面（プレビュー画面）の好きな場所をクリックして、直接文字を打ち込みます。
3.入れたテロップは、タイムラインに表示されるので、位置や表示の長さも調整できます。
4.フォントや文字の色も自由に変更できますので、見やすく・雰囲気に合ったデザインにしてみましょう。
文字が小さすぎたり、背景と同化して読みにくくならないように気をつけてくださいね。

6．効果音やBGMを入れる

■作業手順

1. 音楽ファイルを読み込む（動画と同じ方法）
2. タイムラインの音声トラックにドラッグ
3. 音量はタイムライン上でバーを動かして調整



続いて、効果音やBGM（音楽）を入れる方法について説明します。
音の演出は、動画全体の雰囲気を大きく左右します。
シーンに合った音楽や、ちょっとした効果音を入れることで、ぐっと完成度が上がります。
手順は以下の通りです：
1.まずは音楽ファイルを読み込みます。方法は動画と同じで、プロジェクトパネルで右クリック→「読み込み」を選びます。
2.読み込んだ音楽を、タイムラインの音声トラック（下の段）にドラッグします。
3.音量の調整は、タイムライン上のバーを上下に動かすことでできます。
インタビューや環境音とBGMが重なるときは、BGMの音量を少し下げるように工夫してみましょう。
聞き取りやすさと雰囲気のバランスが大切です。

学習サイト（Adobe公式サイト）

■Premiere Proを学ぶ
https://www.adobe.com/jp/learn/premiere-pro
■新規プロジェクト作成方法
https://www.adobe.com/jp/learn/premiere-pro/web/video-editing-project
■ビジュアルエフェクトの入れ方
https://www.adobe.com/jp/learn/premiere-pro?topic=visual-effects
■タイトルの入れ方
https://www.adobe.com/jp/learn/premiere-pro?topic=titles
■BGMの入れ方
https://www.adobe.com/jp/learn/premiere-pro?topic=audio

最後に、Premiere Proに関する学習サイトをいくつかご紹介します。
こちらはすべてAdobeの公式サイトで、基本操作から応用まで、わかりやすく解説されています。
授業中に理解が追いつかなかった部分や、もっと詳しく知りたい機能がある場合は、ぜひこちらを活用してください。
•Premiere Proを学ぶ：初めての方におすすめの基礎ガイド
•新規プロジェクト作成方法：立ち上げから素材の読み込みまで
•ビジュアルエフェクトの入れ方：映像に動きや特殊効果を加えたいときに
•タイトルの入れ方：テロップや見出しのデザイン方法
•BGMの入れ方：音の調整方法などが載っています
各リンクは資料にも載せていますので、自分のペースで復習や学習を進めてみてくださいね。

85



はい、そして次回以降は、各グループで動画制作に入ります！
Premiere Proの使い方や編集のポイントは、今日紹介した内容や学習サイトを参考にしながら、分からないところはチームで相談したり、私たち講師にも積極的に質問してくださいね。

86



第19回～第28回

動画を制作する

87

グループワーク

各グループで動画制作を進めてください。



では、本日も各グループで、動画編集ソフトを使いながら、制作作業を進めてください。
編集の流れに迷ったら、第18回で学んだ「タイムラインへの素材配置」や「テロップの入れ方」などを参考にしてみてくださいね。

88

動画制作進捗記録シート（1/2）

項目	内容
日付	
作業内容	
担当者	
進捗状況	
課題・ 困っていること	
次回やること	

このシートは、みなさんのグループが動画制作を進める過程を記録するためのものです。いわば、チーム全体の「制作日誌」のような役割を持っています。
記入する項目は6つあります。
1つ目は「日付」です。作業を行った日やこの内容を記入した日を書きましょう。
2つ目は「作業内容」。たとえば、「カット編集を始めた」「ナレーション録音を行った」といった具体的な内容を書いてください。
3つ目の「担当者」は、その作業を実際に行った人の名前を記入します。
4つ目の「進捗状況」では、「完了」「途中」「未着手」など、作業の進み具合を簡潔に書きましょう。
5つ目の「課題・困っていること」では、「パソコンの動作が重い」「BGMの選定で意見が割れている」など、今チームで悩んでいることを共有します。
最後の「次回やること」は、次の作業内容の見通しを記入します。
たとえば「ナレーションを録り直す」「テロップの位置を調整する」など、次の一手を書いておくことで、作業がスムーズになります。
この記録シートは、教員や支援スタッフがチームをサポートする上でもとても重要な手がかりになります。
また、後から「自分たちがどんな工夫や苦労をして動画を完成させたか」を振り返るための資料にもなります。
1回の活動ごとに、できるだけ正確に記録していきましょう。

動画制作進捗記録シート（2/2）

項目	内容
画面キャプチャ	

こちらは「動画制作進捗記録シート」の2ページ目です。このページでは、「画面キャプチャ」を貼り付けます。
記録してもらいたいのは、Premiere Proや編集アプリ上の制作中の画面の様子です。作業中のタイムラインやカットの並び、使用している素材、タイトルの入れ方など、その日の作業を視覚的に確認できるように、スクリーンショットを貼り付けてください。
このキャプチャは、あとで「どんな工夫をしたのか」「どんな構成で作っていたか」を思い出すための証拠資料になります。また、教員側も進捗を把握しやすくなり、アドバイスもしやすくなります。操作ミスやデータ消失があったときのバックアップ的役割も果たします。
キャプチャは、できるだけ編集作業中の特徴が出ている場面を選んでください。たとえば、「ナレーションを入れた直後」「BGMと映像をタイミング合わせしたカット」などが良いですね。



次回はいよいよ、中間発表を行います！
皆さんがこれまでに撮影・編集してきた動画をグループごとに発表していただきます。
発表の目的は、「どんなコンセプトで作ったのか」「何を伝えたいのか」を共有し、
他のグループの視点からも良かった点や改善点を見つけることです。
発表の準備として、完成していなくても途中までの編集内容で構いません。
自分たちが今できているところまでをしっかりまとめておいてください。



第29回

中間発表会

それでは第29回 中間発表会を始めます！
今日は、各グループでこれまでに制作してきた動画の途中経過（ドラフト）を発表していただきます。

全体スケジュール



発表の目的は、
•現時点での進捗を共有すること
•他のグループからの意見やフィードバックをもらうこと
です。
発表を通して、自分たちの作品を客観的に見つめ直す良い機会にしましょう。

第29回　授業の概要

■授業の狙い
- 完成間近の動画を他グループに見てもらう
- 感想・コメントをもらい、自分たちの作品をより良く仕上げるヒントを得る

■授業の内容
- 各グループの発表（1グループ 10分以内）
  - 動画上映
  - 質疑応答と感想・フィードバック
- 講師フィードバック
- 全体のまとめ

本日の授業の狙いと内容を確認しておきましょう。
まず、今日の授業の目的は2つあります。
1つ目は、完成間近の動画を他のグループに見てもらうこと。
そして2つ目は、感想やコメントをもらい、自分たちの動画をさらに良く仕上げるヒントを得ることです。
内容としては、
•各グループの発表（1グループ10分以内）を行っていただきます。
　・まずは動画を上映し、
　・その後に、質疑応答や感想の時間を設けます。
•私（講師）からのフィードバックも合わせてお伝えします。
•最後に、全体のまとめも行います。
見る側の皆さんも、ぜひ「良かったところ」「もう少しこうした方がよいかも？」という視点で積極的にコメントしてくださいね。
それでは発表の準備ができているグループから、始めていきましょう！

フィードバックシート（中間発表）

項目	内容
良かったところ 印象に残ったところ	
もっと良くなるかもと思ったところ	
感想 応援メッセージ 質問	

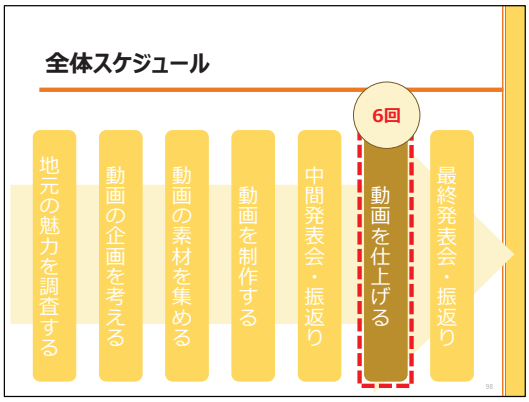
発表を見たあとは、フィードバックシートを使って感想を記入してもらいます。
記入するポイントは3つです。
1つ目は、「良かったところ」「印象に残ったところ」です。どんなシーンが心に残ったか、映像や音楽、構成など、良かったと思った点を自由に書いてください。
2つ目は、
「もっと良くなるかもと思ったところ」です。例えば「この部分、少し長く感じた」「音が聞こえにくかった」など、改善のヒントになりそうな意見をお願いします。あくまで相手のためになるコメントを意識してください。
3つ目は、
自由記述欄です。ここには、感想や応援メッセージ、聞いてみたい質問などを自由に書いてください。このフィードバックは、これから動画を仕上げる上でとても大切な材料になります。
ぜひ、あたたかくも具体的なコメントをお願いします。



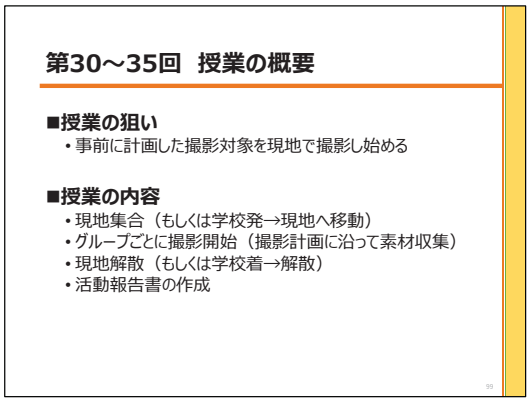
中間発表おつかれさまでした！
皆さんの動画には、それぞれに魅力的なアイデアや工夫がありましたね。
次回からは、
今日の発表やフィードバックシートで得た意見をもとに、動画をさらにブラッシュアップしていく作業に入ります。
「もっと伝わるようにするにはどうすればいいか？」
「音や構成に改善の余地はないか？」
などをグループで相談しながら、完成度を高めていきましょう。
作品として仕上げる大事な段階です。
グループ内で役割分担もしっかり確認し、計画的に取り組んでいきましょう！



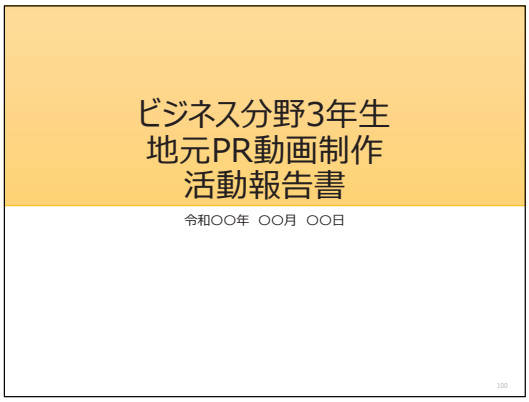
ここからの授業（第30回～第35回）は、動画を完成させる仕上げの期間です。
前回の中間発表で出たフィードバックや、自分たちで気づいた点をもとに、構成の見直しやテロップの追加、音量・BGMの調整などを行い、より完成度の高い動画にしていきます。
編集作業では、次の点を意識してください：
•伝えたいメッセージがはっきりしているか？
•映像と音が見やすく・聴きやすくなっているか？
•テンポや長さに無駄がないか？
また、グループで役割を分担し、進捗状況を共有しながら協力して作業を進めることも大切です。
この期間を使って、自信をもって発表できる作品に仕上げていきましょう！



ここからは、最終仕上げパートに突入します！今日から進んでいくのは、
この赤枠で囲まれた「動画を仕上げる」というステップです。
このステップには、全6回の授業時間（50分×12回）を使って取り組みます。



みなさん、いよいよ動画制作の最終段階です！
第30回から第35回までは、撮影の仕上げと報告書作成が主な内容になります。
■授業の狙い
この授業の目的は、
事前に計画した対象を実際に現地で撮影し、素材を完成させることです。
これまでの中間発表やグループ内の振り返りをもとに、必要なカットや音声を再度確認しながら撮影を行いましょう。
■授業の内容
•現地集合（もしくは学校出発 → 現地へ移動）
•グループごとに撮影開始　→ 撮影計画に沿って素材を丁寧に収集していきます。
•現地解散（または学校到着後に解散）
•撮影が終わったグループから「活動報告書」の作成にも取り組みます。→これまで作成した各シートをもとに、気づいたことなどをまとめる作業です。
•報告書では、どのような工夫をしたかや困ったこと・対応策も記録に残しておくと、今後のプレゼンや編集作業にも役立ちます。
次回からは本格的な編集に移りますので、
ここでしっかり素材を揃えておくことが完成度を左右します。
グループ内で役割分担しながら、効率的に進めていきましょう！



実施主体

グループ名	
構成メンバー	
PR動画のタイトル	

101

101

動画制作のコンセプト・伝えたかったこと

※伝えたかった地元の魅力

※想定した視聴者（ターゲット）

※この動画で一番伝えたかったメッセージ

102

102

動画制作の流れ

※テーマ決定までの流れ

※調査・素材集めの方法

※撮影時に工夫したこと

※編集作業でこだわった点

103

103

困ったこと・課題と、その乗り越え方

※撮影場所が急遽変更になった／意見が割れた／編集ソフトに苦戦した　など

104

104

完成した動画をふりかえって

※良かった点・自分たちで誇れる点

※もっと工夫できたと思う点

※この経験を通して学んだこと

105

105

メンバーへの一言メッセージ

※お互いへの感謝・ねぎらい・感想などを自由に書いてください

106

106



107

皆さん、ここまでの取り組みお疲れさまでした！
いよいよ次回は「最終発表会」です。
これまで撮影・編集してきた動画を、他のグループや講師の前で発表します。
自分たちの伝えたいことがしっかりと伝わるか、見やすい構成や演出になっているかを今一度チェックしておきましょう。
また、発表に向けて：
•動画ファイルが正しく再生できるか？
•ナレーションやテロップの文字に誤りはないか？
•グループで役割分担して発表準備ができているか？
こうした点も万全にしておくことが大切です！
次回は、皆さんの作品が完成する「晴れの舞台」です。
ぜひ、自信を持って発表できるように準備しておいてください！

107



第36回

最終発表会と振り返り

108

皆さん、いよいよこの授業も最終回となりました。
本日は、これまで取り組んできた動画の最終発表会と、活動全体の振り返りを行います。
まずは各グループの動画を順番に上映し、そのあとで、発表・講評・質疑応答という流れで進めていきます。
発表では：
•どんなテーマ・メッセージを伝えたかったか
•撮影・編集で工夫した点
•苦労したことや改善した点
こういった内容も交えて話してもらえると、視聴者により伝わりやすくなります。
最後に、これまでの活動を通して得た気づきや学びを、ぜひ全員で共有して、次のステップへつなげていきましょう！

108

全体スケジュール



ご覧のとおり、全体スケジュールの最終ステップ、
「最終発表会・振り返り」までたどり着きました！
このプロジェクトは、「地元の魅力を動画で発信する」というテーマのもと、
1.調査
2.企画
3.撮影
4.編集
といった本格的な制作フローをすべて経験してきました。
今日の最終発表は、この長いプロセスの集大成です。
ぜひ、これまでの努力を出し切って、堂々とプレゼンしてください！
そして、最後に全体を振り返って、自分自身の成長や、これからの課題にも目を向けていきましょう。

第36回　授業の概要

■授業の狙い
- 自分たちの作品を堂々と発表し、活動の成果を共有する
- 他グループから感想をもらい、お互いを称え合う
- 最後にグループでふりかえり、成長や学びをまとめる



の授業では、皆さんがこれまで取り組んできた動画制作の成果を、しっかりと発表してもらいます。
授業の狙いとして、まず1つ目は、
自分たちの作品を堂々と発表し、活動の成果を共有することです。自分のグループの取り組みを、他のグループにもぜひ知ってもらいましょう。
2つ目は、
他グループからの感想やコメントを受け取ることです。良かった点や伝わったことなど、率直な意見を通して、学びがさらに深まります。
そして最後に、
グループでのふりかえりの時間をとります。ここでは、「自分たちの成長」や「学びの発見」を整理し、次につなげていきましょう。
これまでの努力をしっかり形にして終える時間です。
みんなで温かく、前向きな雰囲気で進めていきましょう！

最終発表会の流れ

1. 各グループの発表（1グループ 7分以内）
   - 動画放映（60秒以内）
   - 活動報告（3分）
   - 質疑応答（3分）
2. 講師フィードバック（各グループ後 2分）
3. グループで振り返り（10分）

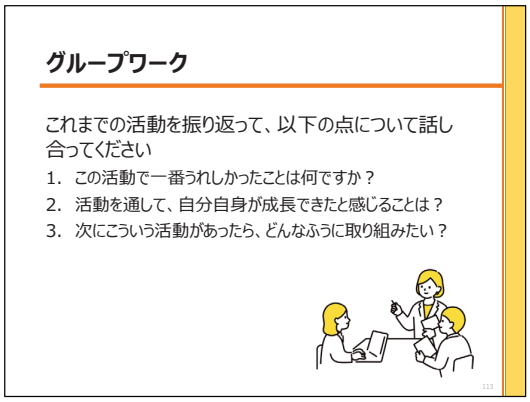


それでは、本日の最終発表会の流れについて説明します。
1. 各グループの発表（1グループ 7分以内）
順番に、各グループごとに以下の流れで発表してもらいます。
•動画放映（60秒以内）
　これまで制作してきた動画を上映します。
•活動報告（3分）
　どんなテーマで撮影したのか、撮影の工夫や苦労したこと、編集で工夫した点などを話してください。
•質疑応答（3分）
　他のグループや先生からの質問に答えてもらいます。ぜひ積極的に聞いてくださいね。
2. 講師フィードバック（各グループ後 2分）
各発表のあとに、私から短くフィードバックを行います。
よかった点や、さらに伸ばせそうな点をお伝えします。
3. グループでの振り返り（10分）
全体発表が終わったら、最後にグループでふりかえりを行います。
自分たちの取り組みを通して学んだことや、印象に残っていることを話し合ってください。
発表は緊張するかもしれませんが、これまでの頑張りを自信をもって伝えましょう！

フィードバックシート（最終発表）

項目	内容
特によかったところ	
印象に残ったポイント	
感想 応援メッセージ	

最後に、発表を聞いたあとにこのフィードバックシートを使って、感想やコメントを記入してもらいます。
【記入内容】
•特によかったところ
　どの部分に感心したか、魅力を感じたかを書いてください。
　映像の構成、編集の工夫、音の使い方、ナレーションなど、どんな点でもOKです。
•印象に残ったポイント
　「この場面が印象的だった」「こんなアイデアが面白かった」など、心に残ったことを書きましょう。
•感想・応援メッセージ
　全体の感想や、「よかったよ！」という気持ちを素直に伝えてください。
　質問がある人は、この欄に書いてもかまいません。
注意点としては、
•コメントは、相手が読んで前向きな気持ちになれるような言葉を意識しましょう。
•具体的に書くと、相手に伝わりやすくなります。
作品を見て感じたことを、ぜひ言葉でプレゼントしてくださいね！



さて、最後にグループでの振り返りを行います。
これまでの活動を思い出しながら、次の3つの問いについて話し合ってください。
話し合うポイントは、
一つ目は、「この活動で一番うれしかったことは何ですか？」です。
　どんな場面で「やってよかった！」と感じたかを話してみましょう。成果物が完成した時、人から褒められた時、など何でもOKです。
二つ目は、「活動を通して、自分自身が成長できたと感じることは？」です。
　例えば、「伝え方がうまくなった」「チームで協力できるようになった」など、自分の中の変化や気づきを共有してみてください。
最後は、次にこういう活動があったら、どんなふうに取り組みたい？
　今回の経験を踏まえて、「もっとこうしたい」という気持ちを話し合ってみましょう。
話し合いの進め方は、
•1人ずつ順番に話していくと、全員が話しやすくなります。
•メモを取っておくと、後での発表や振り返りにも役立ちます。
今回の活動を「やりっぱなし」にせず、しっかり振り返ることで、次の挑戦にもつながる学びになりますよ！



皆さん、これで全36回の授業がすべて終了となります。本当にお疲れさまでした！
この授業では、ただ映像を「作る」だけではなく、企画して、現場に出て、仲間と協力して完成させるという、
とても実践的で濃い学びの時間を皆さんと一緒に過ごせたことを嬉しく思います。

動画制作は、「伝えたい」という気持ちが何より大切です。今回の経験を、今後の学びや活動にもぜひ活かしてください。

これまでの頑張りに、心から拍手を送ります。そして、またどこかで、皆さんの「伝える力」が輝くことを願っています！

自動車整備分野

【第一回】自動車整備士に必要な資格・技術力、自動車整備業界の現状

①自動車整備士に必要な資格及び技術力
- 自動車整備士資格取得への道
- ３級自動車整備士／ １級自動車整備士／１級自動車整備士
- ３級整備士と２級整備士の違い（分解整備）
- 特殊自動車整備士

②自動車整備業界の現状
- 就業数／賃金／資格別の年収／労働環境の推移と特徴
- エンジニアのバックグラウンド
- 細かなタスク

③エンジニアの一日（例）



第一回講座では、自動車整備士に必要な資格・技術力、自動車整備業界の現状について学びます。目次は、ご覧のとおりです。

1. 自動車整備士資格取得への道



【資料出所】Career View HP

POINT！
- 受験する上で満たしていなければならない受験資格がある
- 卒業した高校や専門学校に通ったかどうかなどで異なる

まず、自動車整備士になるには「受験資格」が必要です。これは、学校の種類や整備の仕事をした経験によって変わります。

実務経験とは、整備工場などで車を整備した経験のことです。

進学せずに資格を目指す場合は、①整備士資格がなくても働ける職場を探す、②そこで経験を積む、という方法もあります。

つまり、働きながら整備士になる道もあります。

2. ３級自動車整備士

種類	内容
3級自動車ガソリン・エンジン整備士	・ガソリンエンジンで動く普通自動車と四輪・三輪の小型自動車、軽自動車の整備ができる ・点検やタイヤ交換、オイル交換や簡単な点検といった基本的な業務を担当
3級自動車ジーゼル・エンジン整備士	・ディーゼルエンジンで動く普通自動車と四輪・三輪の小型自動車、軽自動車の基本的な整備ができる ・エンジン部分の基本的な整備に従事することができる資格
3級自動車シャシ整備士	・普通自動車、四輪・三輪の小型自動車、軽自動車のシャシ部分の基本的な整備ができる
3級二輪自動車整備士	・二輪自動車や原動機付自転車の基本的な整備ができる

【参考資料】Career View HP

自動車整備士の資格には、1級・2級・3級の3つがあります。

3級は入門レベルの資格で、車やバイクの基本構造や点検の基礎を学びます。
基本的な整備作業はできますが、細かい分解や高度な修理はできません。

3級には4つの種類があり、自分が働きたい車種や職場にあわせて選べます。

3. ３級自動車整備士試験の合格率・概要

試験	筆記	実技
3級ガソリン	71.9%	61.1%（※実技はR3年度データ）
3級ジーゼル	60.6%	—
3級シャシ	63.8%	48.8%
3級二輪	84.1%	—

学科試験	方法	4択のマークシート方式
	試験時間	60分
	出題数	30問
	出題範囲	①構造、機能及び取扱い法に関する初等知識 ②点検、修理及び調整に関する初等知識など
実技試験	試験時間	30分
	出題範囲	①基本工作、②点検、分解、組立て、調整及び完成検査など

【参考資料】Career View HP

POINT！
- 3級自動車整備士は、整備士としての「基礎力」を身につける第一歩！
- 学科と実技の両方に合格する必要がある

試験は「学科試験」と「実技試験」に分かれていますが、実際には実技試験の合格率の方が低い傾向にあります。

実技では、ただ作業ができればいいというわけではなく、正確な作業の流れや手順をしっかり理解し、安全でスムーズに整備できる技術力が求められます。

3級自動車整備士は、最も初めに挑戦しやすい整備士資格です。最初の一歩として、3級整備士を目指してチャレンジしてみましょう。

4. ２級自動車整備士

種類	内容
2級自動車ガソリン・エンジン整備士	・ガソリンエンジンで動く普通自動車と四輪・三輪の小型自動車、軽自動車の整備ができる ・自動車の中で重要なエンジンやブレーキなど部品の分解、整備など高度な整備も担当 ・加えてディーゼル自動車やシャシの整備も行うことができる
2級自動車ジーゼル・エンジン整備士	・ディーゼルエンジンで動く普通自動車と四輪・三輪の小型自動車、軽自動車の整備ができる ・自動車の中で重要なエンジンやブレーキなど部品の分解、整備など高度な整備も担当
2級自動車シャシ整備士	・普通自動車、四輪・三輪の小型自動車、軽自動車のシャシ部分のほとんどの整備ができる
2級二輪自動車整備士	・二輪自動車や原動機付自転車の整備に関する国家資格の中で、最高度な資格

【参考資料】Career View HP

2級自動車整備士は、整備士として現場で活躍するための大切な資格です。

3級ではできなかったエンジンの分解修理や、足回りの整備も任されるようになり、自動車の多くの整備作業に対応できるようになります。

資格は4つの分野に分かれており、自分の目指す仕事に合わせて選ぶことができます。

5. ２級自動車整備士試験の合格率・概要

試験	筆記	実技
2級ガソリン	88.3%	41.7%
2級ジーゼル	96.3%	33.3%（※実技はR3年度データ）
2級シャシ	73.7%	48.8%
2級二輪	73.1%	―

学科試験	方法	4択のマークシート方式
	試験時間	自動車シャシ整備士のみ60分、他は80分
	出題数	自動車シャシ整備士のみ30問、他は40
	出題範囲	①構造、機能及び取扱い法に関する一般知識 ②点検、修理、調整及び完成検査の方法など
実技試験	試験時間	30分
	出題範囲	①基本工作、②点検、分解、組立て、調整及び完成検査など

【参考資料】Career View HP

POINT！

・2級を持つと、現場での信頼度がぐんと高まり、仕事の幅が大きく広がる
・自動車整備士の約７割が２級を取得している

2級自動車整備士になると、ほとんどの整備業務を担当できるようになり、仕事の幅も大きく広がります。

実際に現場で働いている整備士のうち、約7割の人が2級自動車整備士の資格を持っているといわれています。

6. １級自動車整備士試験の合格率・概要

試験	学科	実技
1級小型自動車整備士 ※（）内は口述試験	53.0%（97.6%）	64.3%

学科試験	方法	4択のマークシート方式
	試験時間	100分
	出題数	50問
	出題範囲	①構造・機能・取扱方法 ②点検・修理・調整・完成検査の方法など ※合格者には「口述試験」（試問形式）も実施される
実技試験	試験時間	30分
	出題範囲	①基本工作、②点検・分解・組立て・調整・完成検査など

【参考資料】Career View HP

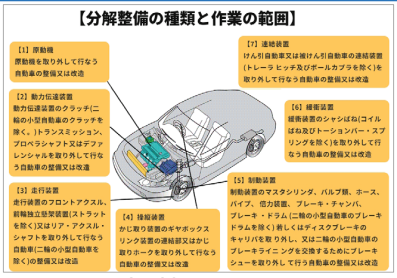
POINT！

・筆記試験の合格率は53.0%と難易度が高め
・高度な知識・技術だけでなく、「総合的な判断力」や「リーダーシップ力」も求められる

１級自動車整備士は、すべての車を整備できる最高ランクの資格で、筆記試験の合格率は53.0%と難易度が高めです。

電気や電子制御などの高度な知識と技術が求められ、現場のリーダーや診断のスペシャリストとして活躍します。
整備士としてプロを目指すなら、大きな目標となる資格です。

7. ３級と２級の違いは、分解整備



【資料出典】「分解整備と道路運送車両法と整備認証の関係性」水谷自動車HP

POINT！

２級を取得すると、「分解整備」ができる！

3級と2級の自動車整備士の大きな違いは「分解整備」ができるかどうかです。
「分解整備」とは、車の安全に関わる大事な部品、たとえば、エンジン（原動機）やブレーキ（制動装置）、ハンドル（操縦装置）などを分解して修理する作業のことです。

これは法律で、資格のある人と認められた工場でしか行えないと決められています。

3級では基本的な整備のみ可能ですが、2級になると分解整備もでき、整備士として活躍の場が広がります。

8. 特殊自動車整備士

種類	内容
自動車電気装置整備士	・自動車に使われている電気装置の修理に特化した資格
自動車車体整備士	・車体やフレームの点検整備に特化した資格 ・自動車の板金塗装業や自動車の組み立て工場において役立つ
自動車タイヤ整備士	・タイヤのスペシャリスト ・タイヤの交換作業は資格が必要なく、タイヤについての知識を独学で身に着ける人が多いので平成12年から試験は実施されていない

【参考資料】Career View HP

POINT！
・それぞれ一つの分野に特化した資格
・各試験に合格する事で特殊整備士の資格を得ることができる

「特殊自動車整備士」は、普通のクルマとは違う、特別な車両、たとえば建設現場で使われるブルドーザーやショベルカー、農業で使うトラクターなどを整備するための専門資格です。

まずは2級整備士を取得し、その後ステップアップとして目指すのが一般的です。

この資格を持つと、整備工場は「優良整備事業者」として国の認定を受けやすくなります。
資格は3種類あり、それぞれ専門分野ごとに分かれています。

9. 特殊自動車整備士への道

卒業過程	受験資格
自動車整備、機械工学科以外の学校を卒業	2年以上の実務経験
2級整備士課程	1年以上の実務経験
特殊整備士課程	卒業と同時

試験	学科	実技
自動車電気装置整備士	74.2%	―
自動車車体整備士	60.6%	―
自動車タイヤ整備士	92.8%%	―

【参考資料】Career View HP

POINT！
・資格取得を目指す場合、自身がどの卒業課程であるのか確認しよう
・自動車タイヤ整備士は近年の実施はなし

特殊整備士の試験を受けるには、受験資格が必要です。

たとえば、整備工場などで2年以上働いた人、整備系の学校を卒業して1年以上働いた人、または専門学校で「特殊整備士課程」を終えた人は、実務経験なしでもすぐに受験できます。進学と就職、どちらの道からでも目指せる資格です。

10. 特殊自動車整備士

種類	学科	実技
自動車電気装置整備士	①構造、機能及び取扱法 ②点検、修理、調整及び完成検査の方法 ③整備用機械に関する初等知識 ④整備用の試験機、計量器及び工具の構造、機能及び取扱法 ⑤材料の性質及び用法 ⑥図面に関する一般知識 ⑦ 保安基準その他の自動車の整備に関する 法規	①基本工作 ②点検、分解、組立、調整及び完成検査 ③修理 ④整備用の試験機、計量自動車電気・電子 器及び工具の取扱い
自動車車体整備士		
自動車タイヤ整備士		

【参考資料】Career View HP

POINT！
・科目数は7つと多めに見えるが、出題内容は「基礎的な知識」中心
・1級整備士レベルの勉強をしている人には大きな壁ではない

特殊整備士の試験は7科目ありますが、内容は基本的で、合格率も50～80％と高めです。
しっかり勉強すれば、十分に合格が狙えます。

また、この資格があると、建設機械や農業機械など、整備の幅が広がり、就職時の強みにもなります。将来のために、挑戦する価値のある資格です。

11. 統計データから知ろう　就業者数・賃金



【資料出所】「自動車整備士」職業情報提供サイトjob tag

POINT！
・自動車整備士は、全国で37万人以上が働く安定した専門職
・収入はスキルや経験によって伸ばすことができ、将来性もある職業

自動車整備士は、全国に約37万人が働く専門職です。沖縄でも約4,930人が活躍しています。

勤務時間は1日約8時間で、ほかの仕事と大きく変わりません。

年収は全国平均で約487万円、沖縄では約364万円。経験や技術で収入もアップします。

年齢は全国で平均約40歳。若手からベテランまで長く働ける仕事です。スキルが身につけば、安定して働き続けられる職業です。

12. 統計データから知ろう　資格別の平均年収

	平均年収
3級自動車整備士	300~350万円
2級自動車整備士	380~420万円
1級自動車整備士	400~500万円
自動車検査員	400~500万円

【資料出所】Career View HP

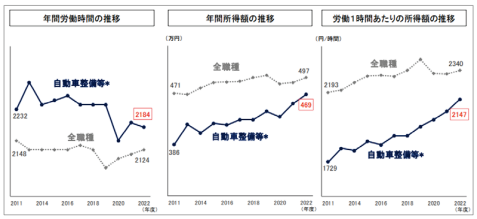
POINT！ 高度な資格の方が責任のあるポジションにつく機会が多く、その分年収も高い

2023年度の整備士の平均年収は約417万円で、11年連続で少しずつ上昇しています。

収入は資格によって変わり、3級より2級、2級より1級の方ができる作業が増えるため、年収も上がります。

資格を取ってスキルアップすれば、それが収入にもしっかり反映されるのです。

13. 統計データから知ろう　労働環境の推移



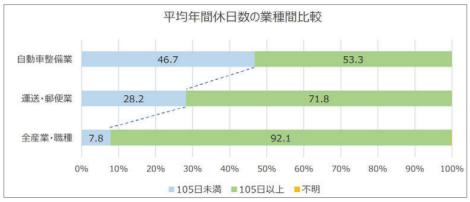
【資料出所】「自動車整備士等の働きやすい・働きがいのある 職場づくりに向けたガイドライン」国土交通省

POINT！
・自動車整備の仕事は、景気が悪くなっても大きな影響を受けにくい安定した業種
・整備士の年収・待遇は改善されてきている

整備士の働き方を、他の職種と比べてみましょう。

労働時間は年間で約2,184時間と、平均より少し長めですが、改善が進んでいます。
年収は約469万円で、全体平均には届きませんが、年々上昇しています。
時給換算では約2,147円で、こちらも右肩上がりとなっており、全体的な働きやすさや待遇は少しずつ良くなっています。

14. 統計データから知ろう　労働環境の特徴



【資料出所】「自動車整備士等の働きやすい・働きがいのある 職場づくりに向けたガイドライン」国土交通省

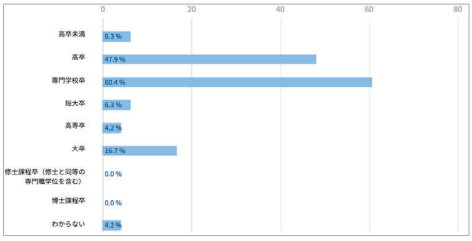
POINT！
・自動車整備士の仕事は、休みが少ない業種のひとつ
・整備士として働く人たちの働き方を見直す動きが進んでいる

このグラフは、業種ごとの年間休日数を比べたものです。

自動車整備業界は、他の業界に比べて休日が少ない傾向があり、年間105日未満の企業が約47%にのぼります。これは、車検など法律で定められた業務があるためです。

ただし最近では、週休二日制や交代制を導入する整備工場も増えてきており、働き方の改善が進んでいます。

15. 統計データから知ろう　バックグラウンド



【資料出所】「自動車整備士」職業情報提供サイトJob tag

POINT！
・自動車整備士として活躍する人のバックグラウンドは様々
・高校卒業後に専門学校で学んでから就職する人が多い

このグラフは、整備士として働く人の最終学歴を示しています。
最も多いのは「専門学校卒」で、全体の約60%。
次に「高校卒業後に就職した人」が約48%です。

また、「大学卒」や「高専卒」の人も一定数おり、進路はさまざまです。
特に専門学校を経て整備士になる人が多いのが特徴です。

16. 自動車整備士の細かなタスクトップ20（実施順）

実施順	実施率（%） ①	重要度（1~5点）	タスク内容
1	97.8%	3.8	不具合のある車の状況や状態を顧客から聞き取る。
2	93.5%	4.4	エンジン、操舵、制動、緩衝、動力伝達などの各装置や燃料・電気関係の部品などを点検する。
3	95.7%	4.0	車両を点検した結果、損傷や不調の程度を顧客に説明する。
4	97.8%	4.5	不具合のあった部分を修理、または交換する。
5	95.7%	3.8	ワイパーなどの装備品の消耗または破損部分を交換して据え付ける。
6	95.7%	4.2	ラジエターの漏れを修理する。
7	95.7%	4.0	緩衝器を修理または交換する。
8	78.3%	3.7	損傷を受けた自動車の車体を修理する。
9	87.0%	3.9	手動式および自動変速装置を修理する。
10	91.3%	4.5	ブレーキの修理、部品の付け替え、交換、調節をする。

【資料出所】「自動車整備士」職業情報提供サイトjob tag

POINT！
・「点検・説明・修理・交換」が整備士の基本的な仕事
・命に関わる部品ほど、重要度が高い

自動車整備士の仕事には、たくさんの種類がありますが、日々どんな作業をしているのか、またそれがどれくらい重要なのかをランキングで見てみましょう。
この表からわかることは、大きく分けて次の２点です。

自動車整備士の基本の仕事は、「点検・説明・修理・交換」です。たとえばブレーキやエンジン、電装系の点検や、タイヤやオイルの交換などが毎日の作業です。

また、重要度が高いのは命に関わる部品です。ブレーキやエンジン関連の作業は特に大切にされており、事故を防ぐ重要な仕事といえます。

17. 自動車整備士の細かなタスクトップ20（実施順）

11	87.0%	3.6	計器盤の配線を直す。
12	91.3%	3.8	自動車のタイヤを交換する。
13	89.1%	2.3	カーナビなどの電装品を取り付ける。
14	91.3%	2.5	車を洗車する。
15	91.3%	3.7	自動車の定期点検をする。
16	89.1%	4.4	車検をする。
17	89.1%	3.8	車の完成後の検査を行う。
18	97.8%	2.7	車の引き取りや納車を行う。
19	84.8%	3.0	顧客に電話をかけ、定期点検や車検を促す。
20	82.6%	2.5	関連物品を販売する。

【資料出所】「自動車整備士」職業情報提供サイトjob tag

POINT！
・整備士の仕事は「工具を使う作業」だけではない
・一つひとつが安全と満足につながっている

整備士の仕事というと、工具を使った作業を思い浮かべるかもしれません。

でも実は、電話対応や納車・引き取り、部品の手配など、お客様とのやりとりも大事な仕事で、一つ一つが安全と満足に繋がています。

つまり、整備士は技術者でありながら、接客力も求められる職業なのです。

18. エンジニアの一日（例）



POINT！
・「技術」だけでなく「人との関わり」も重要
・毎日の積み重ねが、信頼される整備士へとつながる

ここで、整備士のある1日の仕事の流れをみてみましょう。

整備士の仕事は、修理だけではありません。
朝はミーティングで1日の予定を確認し、点検やお客様対応を行います。午後は本格的な整備作業と、整備内容の説明や次回点検の案内をし、そして、片付けと報告をして1日が終わります。

整備士には、技術とコミュニケーション、どちらの力も大切なのです。

19. まとめ ①

1．自動車整備士資格取得への道

① 高校・専門学校など養成施設で学び、実技試験免除で筆記試験に合格する
② 現場で働きながら実務経験を積み、筆記・実技試験に合格する

2．３級自動車整備士～１級自動車整備士

資格	主な内容	実技
3級自動車整備士	基本的な点検・タイヤ・オイル交換などができる	入門レベル、日常整備中心
2級自動車整備士	分解整備や電装系の整備などができる	多くの整備業務に対応可能
1級自動車整備士	高度な診断力とマネジメント力が必要	工場内でのリーダー、教育係など

それでは、まとめです。

整備士になるには国家資格が必要で、進学か実務経験のどちらかで受験資格が得られます。
資格は3級から始まり、2級、1級とステップアップします。3級は基礎、2級は分解整備、1級は診断やマネジメントまで対応できます。

20．まとめ　②

3．３級整備士と２級整備士の違い（分解整備）

・「分解整備」とは、エンジンやブレーキなど、安全に関わる重要部品を分解して修理する作業
・３級整備士には認められておらず、2級以上の資格が必要

4．特殊自動車整備士

・一般車両とは異なる特殊車両（例：建設機械、農業機械、フォークリフトなど）の整備に必要な資格
・1級〜3級のステップアップ制度ではなく、分野ごとの専門資格
・取得には、実務経験や専門の養成課程が必要

3級と2級の大きな違いは「分解整備」ができるかどうかです。

ブレーキやエンジンのような命に関わる作業は、2級以上の国家資格が必要です。

また、建設機械や農業機械などを扱う「特殊自動車整備士」という専門資格もあり、これはそれぞれの分野ごとに独立した資格となっています。

21．まとめ　③

1．就業数・賃金・年収・労働環境

・整備士の就業者数は全国で約37万人、沖縄では約5,000人
・平均年収は全国で約487万円、沖縄では約365万円
・労働時間は月平均約167時間と他職種と比較して長め
・年間休日数は少なめで、「105日未満」が約47%、労働環境には改善の余地がある
・近年は賃金改善や労働時間短縮の取り組みも進み、**1時間あたりの所得額は上昇傾向**

2．エンジニアのバックグラウンド

・「専門学校卒卒業」が最多（約60%）、次いで「高校卒業」が約48%
・大卒や短大卒は少なく、**高卒〜専門卒でのキャリアスタートが一般的**

3．細かなタスクと求められるスキル

・「点検」「修理」「検査」だけでなく、部品の取付や交換・不具合問診・お客様説明・清掃・接客など多岐にわたる。
・技術力だけでなく、**説明力・接客力・チームワーク・報告書作成力なども必要**
・エンジニアは人とクルマの橋渡し役であり、**技術＋人間力が求められる職業**

統計データから学んだ自動車整備士の現状についても復習しましょう。

全国に約37万人、沖縄では約5,000人が働く自動車整備士。
平均年収は約487万円、労働時間は月167時間とやや長めですが、働き方は改善中です。

多くの整備士は専門学校出身で、高卒から現場経験で資格を取る人もいます。

整備だけでなく、接客や説明も大切な仕事で、整備士には、技術力と人との関わりの両方が求められます。

22．ワークシート①　（振り返り）

NEXT　自分の理解度をチェックしましょう。
3点（できた）　2点（まあまあ）　1点（残念）

	チェックのポイント	評価
レベル1	①自動車整備士になる道は、様々であることが理解できた	／3
	②自動車整備業界の概ねの労働環境や特徴を理解できた	／3
	③特殊自動車整備士について、理解できた	／3
レベル2	④自動車整備士の基本的な仕事について、説明できる	／3
	⑤3級自動車整備士と２級自動車整備士の違いのポイントを説明できる	／3
レベル3	⑥「分解整備」について、説明できる	／3
	⑦２級整備士の需要が高い理由を説明できる	／3
	合計	／21

【15点以上】よくできた
【10〜15点】もう少し！
【10点以下】頑張ろう！



振り返り　今回の講座で感じたこと、考えたこと、気づいたことなどを書きましょう。

今回の講座で、どれだけ理解できたか、ワークシートで振り返りましょう。

理解が不十分だったところは、復習しましょう。

23．ワークシート②　（進路選択に向けて）



【資料出所】「自動車のお仕事一覧」学校法人ホンダ学園HP

進路選択に向けて、関心がある仕事、今考えていること、卒業までに取り組みたいことなどを書きましょう。

これまで、自動車業界の現状や整備士の仕事、資格や職種について学んできました。

その中で、自分がどんな分野に興味があるのか、将来どんな仕事をしてみたいのか、少しずつ考えが深まってきたと思います。

「なんとなく気になる」でも構いません。今の自分の気持ちを言葉にして、進路を考えるきっかけにしてみましょう。

自動車整備分野

【第二回】会社の仕組みと自動車整備士としてのキャリア

①会社の仕組みについて知ろう
・人事制度
・等級制度
・評価制度
・報酬制度
・昇格と昇進の違い

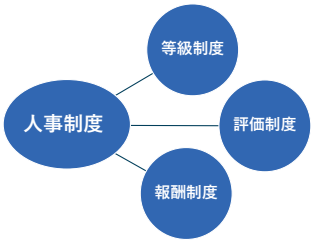
②自動車整備士としてのキャリア
・トヨタ編
・ホンダ編
・日産編



第二回講座を始めます。

今講座では、会社の仕組みと自動車整備士としてのキャリアについて学びます。
目次は、ご覧のとおりです。

1．会社の仕組みについて知ろう　人事制度



【参考資料】「人事制度とは？図解でまるごとわかる基礎知識と現場で役立つ最新情報」Unipos HRコラム

POINT！ **頑張りや役割に応じて処遇（ポジションや給料など）を決める制度**

まずは、会社で働くうえで大切な人事制度について見ていきましょう。

人事制度には、大きく分けると、等級制度・評価制度・報酬制度の3つの仕組みがあります。
等級制度は、仕事のレベルに応じて段階が決まる仕組みです。
評価制度では、作業の正確さやお客様への対応などがチェックされます。そして報酬制度は、がんばった分だけ給料が上がる仕組みです。
か？

2．会社の仕組みについて知ろう　等級制度

等級制度のイメージ

1等級	取締役
2等級	部長
3等級	課長
4等級	社員
5等級	社員
6等級	社員

【参考資料】「人事制度とは？図解でまるごとわかる基礎知識と現場で役立つ最新情報」Unipos HRコラム

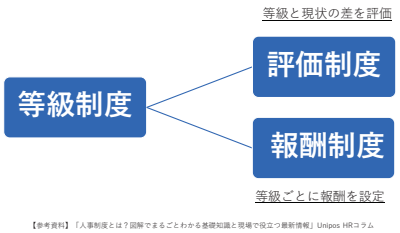
POINT！ **・等級が上がると「仕事のレベル」も「求められる力」も変わる**
・次のステップ・目標に向かって頑張りやすくなる

「等級制度」について説明します。

会社では、できることや仕事の内容によってレベルが決まります。これが等級制度です。
等級が上がると、任される仕事のレベルも求められる力も大きくなり、給料もアップします。

この制度によって、自分の今の位置や、次に目指す目標がはっきりし、頑張りやすくなります。成長の道すじが見える、そんな仕組みになっています。

3．会社の仕組みについて知ろう　等級制度



【参考資料】「人事制度とは？図解でまるごとわかる基礎知識と現場で役立つ最新情報」Unipos HRコラム

POINT！ **・目指す姿を分かりやすくする**
・評価（評価制度）や給料（報酬制度）のルールを分かりやすくする

等級制度の利点は2つあります。

まず、「目指す姿」が見えること。どんな力を身につければ次に進めるのかがわかり、モチベーションが高まります。

もう一つは、評価や給料がわかりやすいこと。自分のレベルが明確になるので、会社も公平に評価しやすくなります。等級制度は、努力を形にする大事な仕組みです。

4．会社の仕組みについて知ろう　評価制度



【参考資料】「人事制度とは？図解でまるごとわかる基礎知識と現場で役立つ最新情報」Unipos HRコラム

POINT！

・等級制度で決めた役割に対して、どれだけ貢献したかを測る
・数字だけでなく、努力の過程や仕事への姿勢も含まれる

次は評価制度についてです。

評価制度とは、仕事の成果や成長を会社が公平に見て判断する仕組みで、等級制度で決めた役割に対して、どれだけ貢献したか、数字だけでなく、努力の過程や仕事への姿勢も測ります。

評価は主に3つの視点から行われます。
1つ目は業績評価。売上や目標の達成などの数字を見ます。
2つ目は能力評価。資格やスキル、学ぶ姿勢が見られます。
3つ目は情意評価。やる気やチームワークなど、心の面も大切にされます。

5．会社の仕組みについて知ろう　報酬制度

区分	等級	役職	評価項目	報酬
管理職	1	取締役	①組織目標の達成度 ②マネージメント上級 ③リーダーシップ上級	1000万円～
	2	部長	①組織目標の達成度 ②マネージメント中級 ③リーダーシップ中級	800万円 ～1000万円
	3	課長	①組織目標の達成度 ②マネージメン初級 ③リーダーシップ初級	600万円 ～800万円
一般社員	4	社員	①業務目標の達成度 ②コミュニケーション ③仕事の質	500万円 ～600万円
	5	社員	①業務目標の達成度 ②コミュニケーション ③仕事の質	400万円 ～500万円
	6	社員	①業務目標の達成度 ②コミュニケーション	300万円 ～400万円

【参考資料】「人事制度とは？図解でまるごとわかる基礎知識と現場で役立つ最新情報」Unipos HRコラム

POINT！

・報酬は、等級（レベル）と評価（働きぶり）で決まる
・人事制度は「時代の流れとともに変遷していく」

最後に、報酬制度についてです。

報酬制度とは、給料やボーナスを決めるしくみのこと。頑張った人にきちんと報いるため、等級制度や評価制度と連動しています。最近では、多様な働き方に合わせて、評価や報酬の仕組みも見直されつつあります。

6．昇格と昇進の違い

	昇進	昇格
意味	役職・肩書が上がる	等級・ランクが上がる
一般的な例	係長　→　課長 課長　→　部長	係長２級　→　係長１級 課長３級　→　課長２級
変わるもの	指導の立場、チームのまとめ役	権限、責任、処遇の基準
相互の関係性	昇格とセットで起きることもある	役職がなくても昇格することがある

POINT！

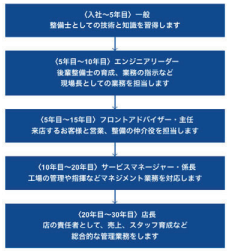
・「昇進」とは、会社の中での立場（肩書）が上がること
・「昇格」とは、その人の等級・ランクが上がること

「昇進」と「昇格」、よく似た言葉ですが意味は違います。

昇進は、係長から課長へと役職が上がること、一方の昇格は社内の等級やランクが上がることを指します。

昇格すると給料が上がり、より難しい仕事を任されることもあります。どちらも、成長の証として大切なステップです。

7．トヨタディーラーでのキャリアアップイメージ



【資料出所】トヨタのディーラーで働く整備士の年収は？」整備士JOBS HP

POINT！

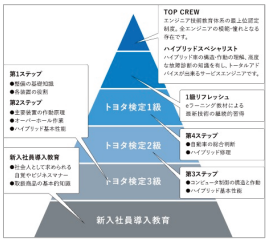
・最初は整備のプロとしての技術力をしっかり身につける
・中堅になると教える側やリーダーにもステップアップ

会社の仕組みが理解できたところで、後半では、自動車ディーラーでのキャリアアップについて説明します。

まずはトヨタディーラーでの例です。最初は整備の基礎を学び、技術力をつけ、中堅になると、後輩の指導やお客様対応にも挑戦します。

経験を積むと、工場長や店長などマネジメント職も目指せます。

8．社内資格制度（トヨタ編）



【資料出所】「サービスエンジニアの育成」ネッツトヨタ福井HP

POINT！

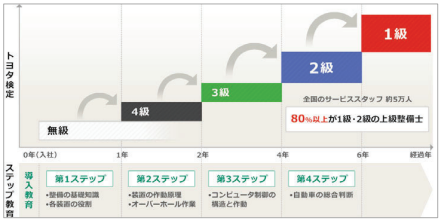
・お客さまの大切な車を整備する心構えを学ぶ
・先輩についてマンツーマンで仕事のやり方を学ぶ

トヨタには整備士の育成制度があります。

まずは、あいさつや身だしなみなど、社会人としての基本を学びます。
現場では、先輩についてマンツーマンで学ぶ「ジョブトレーナー制度」があり、実践を通して成長していきます。

また、「トヨタ検定」に向けた講習で、スキルアップや資格取得もサポートされます。

9．キャリアパスイメージ（トヨタ編）



【資料出所】「サービススタッフの技術」TOYOTA HP

POINT！

・4つの検定と教育ステップを受けながらスキルアップ
・80%以上のサービススタッフが、1級・2級の上級資格を取得

この図は、トヨタで整備士として成長していくための「検定」と「教育」の流れを表したものです。

トヨタでは、整備士として成長するための検定と教育制度が整っています。入社後はまず基礎を学び、経験に応じて4級から1級までステップアップします。

また、新型車や最新技術の講習もあり、常にスキルを磨けます。

10．社内資格　トヨタサービス技術検定

ステップ	習得すべき知識・技術
第1ステップ（4級）	・自動車の各校正装置の名称・役割・構造の理解 ・定期交換部品の交換作業ができる
第2ステップ（3級）	・自動車の各校正装置の作業原理・点検・修理に関する知識の理解 ・オーバーホール、機械的な故障部位の判断ができる
第3ステップ（2級）	・自動車の各校正装置の制御・電気回路（基礎診断）の理解 ・基礎的な電気的・機械的な故障の診断ができる
第4ステップ（1級）	・自動車の総合診断に必要な知識の理解 ・総合的な電気的・機械的な故障の診断ができる

POINT！

・検定は4段階で、段階ごとにできることが増える
・1級まで進むと、整備のリーダーやアドバイザー的な立場に

トヨタの「サービス技術検定」は、整備士の成長を支える4段階の制度です。
4級から始まり、1級を目指してステップアップします。

知識や技術を高めることで、最終的には現場のリーダーとしても活躍できる力が身につきます。

11．社内資格　トヨタサービス検定

ステップ	習得すべき知識・技術
第1ステップ（D級）	ご来店のお客さまに失礼のない応対ができる
第2ステップ（C級）	定期点検でご来店のお客様に対応ができる
第3ステップ（B級）	サービスで入庫された全てのお客様に対応ができる
第4ステップ（A級）	お店にご来店の全てのお客様に対応ができる

POINT！

・お客様対応が中心となる、「人間力」が問われる認定制度
・整備士としての技術だけでなく、「信頼される人間力」を磨

続いては、「トヨタサービス業務認定」です。

トヨタでは、車の整備だけでなく「人と接する力」も大切にしています。その力をチェックするのが「トヨタサービス業務認定」で、接客力、指導力、提案力、対応力を見ます。

このように総合的な力を磨くことで、お客様に安心してもらえる整備士を目指します。

12. 社内資格　トヨタエスティメーション検定

ステップ	習得すべき知識・技術
第1ステップ（3級）	・ボデー：ボデー修理全般の基礎知識、外板パネルの修正 ・ペイント：補修塗装全般の基礎知識、平面部の下地処理 ・エスティメーション：外板、外装部品の損傷を診断し見積りができる
第2ステップ（2級）	・ボデー：材料に関する知識、外板パネルの取替 ・ペイント：塗装に関する知識、複合面の下地処理 ・エスティメーション：内板骨格部の軽微な損傷を診断し見積りができる
第3ステップ（1級）	・ボデー：ボデーに関する幅広い知識、全損傷の修正 ・ペイント：塗装に関する幅広い知識、全塗色の補修塗装 ・エスティメーション：全ての損傷を診断し見積りができる

POINT！

・修理の前に必要な「見積もりと説明」の力が身につく
・車の修理だけでなく、お客様対応や保険処理まで学ぶ

最後は、エスティメーション検定です。エスティメーションとは、見積もりの意味で、この検定では、事故などで壊れた車の修理にかかる費用を正確に見積もり、説明する力を身につけます。

整備士やサービススタッフとして、車の修理だけでなく、お客様対応や保険処理を学びます。

13. 社内資格　トヨタハイブリッドスペシャリスト



【資料出所】「トヨタのハイブリッド車検」トヨタ自動車HPより

POINT！

・ハイブリッドに関する深い専門知識と高い技術力を持つ
・1級整備士で、特別カリキュラムを受講後、試験合格者だけがなれる

トヨタには、ハイブリッド車を専門に扱う「ハイブリッドスペシャリスト」がいます。
高度な電気系の知識と技術を持ち、特別な研修や試験を経て認定されます。最先端の車に対応する、プロフェッショナルな整備士です。

14. 社内資格　トヨタトップクルー



【資料出所】「トヨタ最高峰のトップクルー」ネットトヨタ福島HPより

POINT！

・最先端の整備や診断に関する知識と技術を持つ
・指導力やエンジニアとしての人となりも評価基準となる

トップクルーは、トヨタ整備士の最高ランクで、1級合格者の中から、厳しい選考を経て認定されます。

全国でもわずか570名と、整備力だけでなく、人間性や指導力も問われる「プロ中のプロ」です。

15. 社内コンテスト トヨタサービススキルコンテスト



【資料出所】「サービススタッフの技術」TOYOTA HP

POINT！

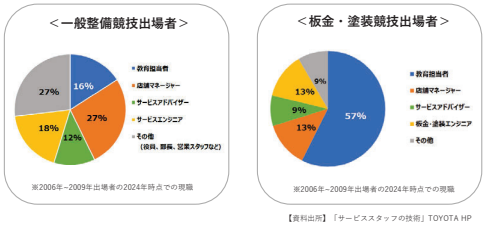
・点検整備＋故障診断を中心とした競技内容
・お客様対応力を問う内容、幅広い能力を問う内容

トヨタでは毎年、全国の整備士が技術や接客力を競う「サービススキルコンテスト」が開催されます。

販売店で働く整備士たちが、点検整備、故障診断、お客様対応力を競います。
「一般整備部門」と「板金・塗装部門」の2つに分かれ、全国の代表が集まって競い合います。

整備の力だけでなく、仲間との連携やお客様対応も評価される、整備士にとって大きな成長の場です。

16. 社内コンテスト　出場者のその後のキャリア



【資料出所】「サービススタッフの技術」TOYOTA HP

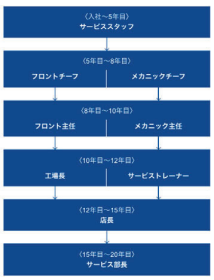
POINT！

・マネジメント職や自社スタッフの教育担当者など幅広く活躍
・技術＋人間力が認められた証しとして、将来の道が広がる

トヨタのサービススキルコンテストで全国大会に出場した選手たちは、整備のプロとして第一線で活躍しています。中には、マネジメント職や後輩を育てる教育担当になっている人もいます。

コンテストへの出場は、高い技術力と人間力が認められた証ともなり、キャリアアップにもつながっています。

17. ホンダディーラーでのキャリアアップイメージ



POINT！

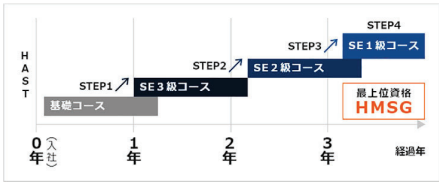
メカニックから始まり、教育・管理・マネジメントへと着実に成長

続いて、ホンダディーラーでの自動車整備士としてのキャリアアップイメージを見てみましょう。

ホンダの整備士も、まずは5年ほどで基本を習得し、チーフや主任として後輩育成や接客へと成長します。

その後は、工場長や店長、サービス部長など、教育やマネジメント職へとキャリアアップしていくことができます。

18. キャリアパスイメージ（ホンダ編）



POINT！

・知識や技術を段階的に高めていくための制度がある
・最上位の資格はHMSG
（ホンダ・マスター・オブ・サービス・ジェネラリスト）

ホンダのキャリアパスについて、見てみましょう。

ホンダにも、知識や技術を段階的に高めていく制度があり、の最高ランク資格「HMSG」は、1級整備士、ホンダ独自の1級資格、接客資格のすべてを持つ人に与えられます。全国でわずか400人ほどしかおらず、整備・接客・指導すべてに優れた、特別な整備士です。

19. 社内資格　HAST（ホンダ編）

ステップ	習得すべき知識・技術
STEP1（基礎コース）	・必須講座はなく、社内教育とHonda DキャンパスProによる自己学習が基本。
STEP2（SE3級コース）	・テキストと視聴覚教材（DVD）のセットを使った自己学習。 ・Honda車の機械的な各部の機能・構造を学び、併せてサービスの基本業務、初歩のフロント業務を学ぶ。
STEP3（SE2級コース）	・テキストと視聴覚教材（DVD）のセットを使った自己学習。 ・Honda車の電子制御技術と故障診断技術を学び、併せてフロント業務とお客さま対応のスキルを学ぶ。
STEP4（SE1級コース）	・テキストと視聴覚教材（DVD）のセットを使った自己学習。 ・難度の高い故障の診断技術を学び、併せてサービス部門のマネジメントやリーダースキルを学ぶ。

POINT！

・「HAST（Honda四輪サービス技能修得制度）」がある
・整備士としての知識や技術を段階的に身につける

続いて、ホンダ四輪サービス技能修得制度について、説明します。

ホンダには、整備士の成長を支える「HAST」という制度があります。入社後、基礎からSE3級・2級・1級へと段階的にスキルアップし、整備技術や接客力、リーダーシップを身につけていきます。

20. 社内コンテスト ホンダ四輪サービス技術コンクール



【資料出所】「Team HONDAの技コン」HONDA HP

POINT！

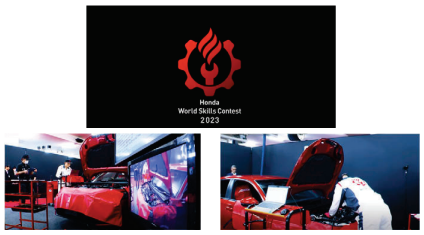
・サービス技術、整備知識、商品知識、接客対応を競い合うコンクール
・サービスエンジニアコースの成績優秀者は、世界大会への切符をつかむ

ホンダでは、整備の技術や接客スキルを競う大会「技コン（ホンダ四輪サービス技術コンクール）」を毎年開催しています。

全国のHonda Carsから1万人以上がエントリーし、厳しい予選を勝ち抜いたスタッフだけが全国大会に進みます。

大会は3つの部門に分かれ、学科と実技の両方で競い、優秀な成績をおさめた人は、世界大会に出場するチャンスを得ます。

21. 社内コンテスト　Honda World Skills Contest



【資料出所】「Honda World Skills Contest 2023」本田技研工業株式会社（Youtube）

POINT！

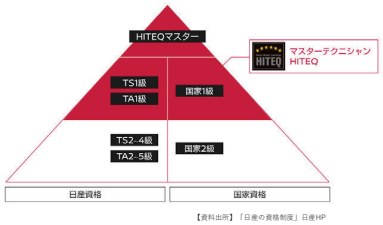
・世界のホンダ四輪販売店で活躍する整備士が各地域を代表して参加
・“確実性とスピード”を競う世界大会

Honda World Skills Contest、つまりホンダ世界大会は、世界中のホンダの整備士が日本に集まり、整備の技術やお客様対応の力を競う世界大会です。

各地の大会で優秀な成績を収めたエンジニアが、世界一を目指して挑戦します。

2023年は、世界7地域から選ばれた35名が参加し、「確実性」と「スピード」をテーマに腕を競い合いました。

22. 社内資格制度（日産編）



【資料出所】「日産の資格制度」日産HP

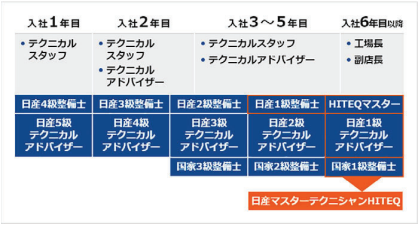
POINT！

・『技術力』と『応対力』の修得を目指す資格制度
・最上級のHITEQマスターの資格は3年ごとの更新制

続いて、日産の社内資格制度を見てみましょう。

日産では、国家1級資格に加え、独自の上級資格を取得した人が「マスターテクニシャン」に認定されます。さらに、全国で約250人しかいない「HITEQマスター」は、技術・説明・指導すべてがトップレベルの整備士に与えられる特別な資格です。

23. キャリアパスイメージ（日産編）



【資料出所】「【整備士専門サイトが解説】日産のディーラーで働く整備士の年収は？」整備士JOBS HP

POINT！

国家資格と日産独自の認定をバランスよく取得できる

日産のキャリアパスについて、見てみましょう。

日産では、整備士として基本を学び、経験を積むことで高度な診断やリーダー業務に挑戦できます。国家資格と独自の認定をバランスより取得でき、最終的には「マスターテクニシャン」や「HITEQマスター」といった、トップクラスの資格取得も目指せます。

24. 社内資格　日産テクニカルスタッフ資格制度

ステップ	習得すべき知識・技術
日産４級整備士（TS４級）	・点検、車検が確実にできる ・自動車の基本的な構造、機能、作動を理解している ・基本的なお客様対応を理解している
日産３級整備士（TS３級）	・部品の点検整備および脱着ができる。簡単な装置の構造、機能、作動を理解している ・交換部品、メンテナンスオーダーシート（MOS）、メンテナンスメッセージシート（MMS）を使用して整備結果説明、次回入庫アドバイスができる ・点検、車検が基準時間内で確実にできる
日産２級整備士（TS２級）	・システムの点検整備ができる。複雑な装置の構造、機能、作動を理解している。故障診断の考え方を理解している ・不具合問診ができて、メンテナンスオーダーシート（MOS）が正確に作成できる ・点検、車検を新人に対して指導できる
日産１級整備士（TS１級）	・クルマの総合診断ができる ・難解な不具合の的確な問診ができる ・点検、車検の作業効率改善指導ができる
HITEQマスター	・新技術、新機構を常に理解していて、故障診断に必要な情報収集を的確にできる ・短期間で不具合原因を特定して、整備ができる

POINT！

・整備士のスキルは、5段階でレベルアップ
・段階を追って技術と知識を身につけられる仕組み

続いて、日産テクニカルスタッフ資格制度についてです。

日産の整備士資格はTS4級から始まる５段階の仕組みです。レベルアップするごとに点検、故障診断、後輩指導とスキルを高めていきます。最上位のHITEQマスターは、技術・対応力ともに最高レベルのプロです。

25. 社内コンテスト　日産サービス技術大会



【資料出所】「2023 全国日産サービス技術大会」日産自動車株式会社 (You tube)

POINT！

・大会スローガンは「最高の技術をお客さまの笑顔のために！」

日産では、整備士と接客スタッフが技術や接客スキルを競う大会が毎年開催されています。

この大会は1966年から続く伝統あるイベントで、合言葉は「最高の技術をお客様の笑顔のために！」です。

整備の正確さや速さ、わかりやすい説明など、普段の仕事で磨いてきた力を発揮します。
2024年には全国の販売店から370名が参加し、予選を勝ち抜いた121名が、2025年の全国大会へと進みます。

26. まとめ　①

1. 人事制度
・社員が安心して働けるよう、人事や仕事に関するルールを決めた仕組み
・採用、評価、昇進、給与など

2. 等級制度
・社員の「能力」や「役割」に応じて、会社内でのレベル（等級）を段階的に決めた仕組み
・等級が上がると給与や仕事の範囲も広がる

3. 評価制度
・社員がどれだけ成果を出したか、どう努力しているかを評価する仕組み
・業績評価（売上）、能力評価（スキルや経験）、情意評価（やる気、協調性）

「会社の仕組みについて知ろう」のまとめです。

働く人が安心して力を発揮するために、「人事制度」という仕組みがありましたね。
その中には、等級制度・評価制度・報酬制度の3つの柱がありました。

等級制度では、できる仕事の内容に応じて、社内でのレベルが決まります。
評価制度は、努力や成長を公平に見て、次のステップにつなげるための仕組みです。

27. まとめ　②

4. 報酬制度とは
・評価結果や等級に応じて、給与・賞与（ボーナス）などを決める仕組み
・一般的に「等級」→「評価」→「報酬」の順に決まるのが一般的

5. 昇格と昇進の違い
・昇格: 等級が上がること（例: 2級 → 1級）
・昇進: 役職が上がること（例: 主任 → 課長）
・等級が上がっても、役職が変わらないこともある。逆に役職が上がると、等級も一緒に上がることが多い

POINT！

等級制度・評価制度・報酬制度・昇進はつながっている

そして、報酬制度は等級や評価に応じて、給料やボーナスが決まる仕組みでしたね。

また、「昇格」と「昇進」の違いについても学びました。
昇格は、仕事のレベルや等級が上がること。たとえば、2級から1級になることを指します。一方、昇進は、肩書や役職が上がること。主任から課長になるといった変化です。

このように、等級、評価、報酬、そして昇進はすべてつながっていて、キャリアを考えるうえで大切なポイントになります。

28. まとめ ③

6．各自動車メーカーに共通するポイント

・それぞれのメーカーが自社独自の教育制度を整備している
・整備士として、段階的にスキルアップできる仕組みがある
・資格取得 → 昇格・昇進 → マネジメント職へとキャリアパスが広がる
・お客様への対応力やコミュニケーション能力も重視されている
・技術だけでなく、人間力の向上も目指す教育内容が多い

POINT！ **自動車整備士は、「技術」＋「接客」の両立が求められる**

ここまで学んできた、自動車メーカーに共通する資格制度や人材育成の特徴をまとめてみましょう。

各メーカーでは、社員が着実に成長できるよう、独自の研修や資格制度が用意されています。

まずは、点検や基本的な整備からスタートし、経験を積んでスキルアップし、高度な診断や最新技術への対応も可能になります。

資格の取得にあわせて、昇格や昇進の道も広がり、工場長やマネージャーなど、上のポジションを目指すこともできます。

さらに、整備士に求められるのは技術だけではありません。お客様への丁寧な説明や、信頼関係を築く接客、「人間力」も大切にされています。

つまり、整備士とは、自動車を扱うプロであると同時に、人と向き合うプロでもあります。

29. まとめ ④

メーカー	主な社内資格	特徴的な制度・ポイント
トヨタ	・トヨタ検定1～3級 ・ハイブリッドスペシャリス ・TOP CREW（最上位）	資格に応じて階層的な研修・大会も開催
ホンダ	・サービスエンジニア1～3級 ・HMSG（最上位）	技術＋接客スキルで世界大会も実施
日産	・日産TS/TA1～4級 ・HITEQマスター ・マスターテクニシャン ・NISSAN GT-R認定テクニシャン	技術＋応対の両面から評価、マスターテクニシャン制度

POINT！ **社内制度を活用すれば、 一流の整備士やリーダーを目指せる**

表は、今回の講座で解説した自動車メーカー３社の社内資格のまとめです。

入社後も、社内制度を活用して、一流の整備士やリーダーを目指せることが分かりましたね。今回の講座を通して、関心がわいた資格やコンテストがあれば、調べてみましょう。

30. ワークシート

NEXT 自分の理解度をチェックしましょう。
３点（できた）　２点（まあまあ）　１点（残念）

	チェックのポイント	評価
レベル1	①人事制度の基本的な内容を理解できた	／3
	②経験を積むと、業務内容や求められる能力が変わることが理解できた	／3
	③自動車整備士は、技術力だけでなく、コミュニケーション力や接客力も必要であることが理解できた	／3
レベル2	④各メーカーそれぞれに、自動車整備士のキャリアアップに関する資格制度があることが理解できた	／3
	⑤技術大会（スキルコンテスト）で評価されるポイントを説明できる	／3
レベル3	⑥評価制度で重視される３つの観点について説明できる	／3
	⑦トップクラスの整備士になるために必要な要素を説明できる	／3
	合計	／21

【15点以上】よくできた
【10～15点】もう少し！
【10点以下】頑張ろう！



振り返り　今回の講座で感じたこと、考えたこと、気づいたことなどを書きましょう。

今回の講座で、どれだけ理解できたか、ワークシートで振り返りましょう。

理解が不十分だったところは、復習しましょう。

進路について考えよう①

専門学校生講話

第１回「進路について考えよう①」は、専門学校生講話です。

専門学校在学中の先輩に、進路選択で悩んだこと、進路を決めた経緯、現在の生活、今後の目標などをテーマについて講話をしてもらい、生徒が進路選択について考える機会とします。

目次

1．様々な進路
2．なぜ今から進路を考えるの？
3．進学のスケジュール（例）
4．就職のスケジュール（例）
5．進路を決めるときに考えたいこと
6．専門学校生講話から学びたいこと
7．専門学校生のリアルな経験から学ぼう
8．専門学校ってどんなところ？
9．専門学校生講話で注目してほしいこと
10．専門学校生講話を聞くときの姿勢
11．まとめ
12．ワークシート①、②、③
13．教員用参考資料

本講座の目次は以下のとおりです。

1．専門学校生のリアルな経験から学ぼう
2．専門学校生講話から学びたいこと
3．こんな気持はありませんか？
4．進路を考える時の気持ち
5．進路を選択する時の悩み
6．進路を決めるときに考えたいこと
7．なぜ今から進路を考えるの？
8．様々な進路
9．専門学校ってどんなところ？
10．専門学校生講話で注目してほしいこと
11．ワークシート①、②、③
12．まとめ
13．教員用参考資料

１．様々な進路

学校種	特徴	修業年限
専門学校	・特定の職業に必要な能力を、実践を重視したカリキュラムで学習することができます。 ・一般的に、企業などのニーズに応じた教育が行われるため、就職後に即戦力として活躍することが期待できます。	1年以上 (2年が多い)
大学	・幅広い分野の知識・教養を身に付けられると同時に、特定分野の学芸を深く学習・研究することができます。 ・短期大学は、大学よりも期間が短いことが特徴です。 ・専門学校に比べ、理論が重視されることや、教養科目が多いことが特徴です。	4年※
短期大学		2~3年
専門職大学	・専門性が求められる職業を担うために必要な知識・理論、実践的スキルの両方を学習することができます。 ・専門学校が実践を重視しているのに対し、理論・実践の両方を重視していることが特徴です。	4年
専門職短期大学		2~3年

【資料出所】「未来につながる専門学校」文部科学省

■具体的な仕事が見えてきたら、その仕事をするためには進学が必要か調べよう
■特定の資格が必要な場合は、その資格を取得する方法を調べよう

高校卒業後の進路は、大学・短大・専門学校・就職の4つがあります。正解は一つではなく、自分に合った選択が大切です。「好きなこと」や「やってみたい仕事」からヒントを探し、必要な進学ルートや資格についても調べておきましょう。

将来やってみたい仕事があれば、そのために必要な進学ルートや資格も調べておくと安心です。
どこで学び、どう資格を取るかも含めて、進路を考えていきましょう。

２．なぜ今から進路を考えるの？



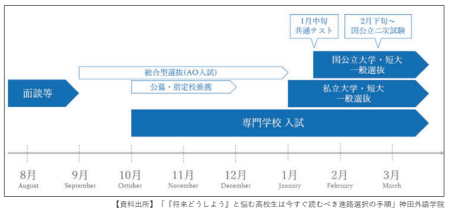
■進路選択は、近い将来のあなた自身に直結する決断
■ 入試・就職活動は目前
■ 「なんとなく」で選ぶと後悔しやすい

進路の選択は、すぐ近い将来のあなた自身に大きく関わる大切な決断です。

入試や就職活動は、すでに目前に迫っています。

「なんとなく」で選ぶと、あとで後悔することもあります。だからこそ、自分の意思でしっかり考えることが重要です。

3．進学のスケジュール（例）



【資料出所】「『将来どうしよう』と悩む高校生は今すぐ読むべき進路選択の手順」神田外語学院

■専門学校：原則的には**10月頃から願書の受付開始。**
翌年3月末頃まで試験を行っているところもあるため、就活や大学・短大入試の結果を受けてからでも受験・入学が可能。

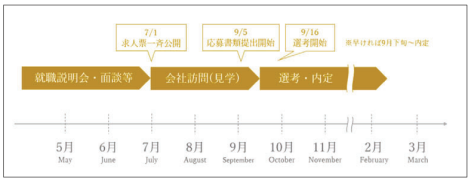
■国公立大学・短大：一般選抜(一般入試)は、**1月中旬に実施。**
共通テストの点数を考慮した上で、1月下旬に出願し、2月下旬から二次試験。

進学を考えるうえで、入試の時期を知ることはとても大切です。

専門学校は10月から出願が始まり、翌年3月まで受験できる学校もあります。

国公立大学は1月に共通テスト、2月に二次試験が行われ、結果は3月に出ます。スケジュールの流れをしっかり把握しておきましょう。

4．就職のスケジュール（例）



【資料出所】「『将来どうしよう』と悩む高校生は今すぐ読むべき進路選択の手順」神田外語学院

■**7月1日から本格的にスタートする**ため、就職するか進学するかは、3年生の6月頃までに決めておくのが望ましい

■夏休みなどを利用して企業研究したり、職場見学に行ったりして会社を絞る

■応募書類は高校を通して9月上旬に提出、選考開始は9月中旬から

続いては、就職を希望する人向けのスケジュールです。

就職活動は、準備を始めるタイミングがとても重要です。時期ごとの流れをしっかりつかんでおきましょう。

就職活動は、スタートが早く、しっかり準備することが求められます。6月までに進路を決め、夏休みでしっかり企業研究をして、9月には本番を迎えます。この流れをおさえて、焦らず、計画的に動いていきましょう。

5．進路を決めるときに考えたいこと

■ **やりたいこと・関心（何が好き？得意？）**
■ **興味のある業界や仕事**
■ **これから学びたいこと**
■ **現実的な準備（学費・期間・資格など）**
■ **将来どのような生活がしたいか（働き方など）**



進路を考えるときに大切なのは、「どこに行くか」だけでなく、「どんな自分になりたいか」です。そのために、次の5つの視点を意識しましょう。

① やりたいこと・関心
好きなことや得意なことがヒントになります。

② 興味のある仕事や業界
まずは、どんな仕事があるかを知ることから始めましょう。

③ 学びたいこと
もっと知りたい分野が、進学先を決めるカギです。

④ 現実的な準備
学費、通学、資格なども大事な判断材料です。

⑤ 将来の生活
どんな働き方・暮らし方をしたいかも考えてみましょう。

6．専門学校生講話から学びたいこと



■「進路をどう考えるか」のヒントを得る
■ 専門学校という選択のリアルを知る
■ 自分の未来と向き合う

今回の講話では、専門学校に通う先輩の話を聞きながら、進路選択のヒントを探していきます。

まず1つ目は、「進路をどう考えるか」です。
何を大切にし、どう決断したのか、そのプロセスから学びましょう。

2つ目は、専門学校のリアルな生活です。
授業や就職活動の実際、入学前とのギャップなど、普段は聞けない話に注目してください。

3つ目は、自分の未来と向き合うことです。
「自分だったらどうするか？」と考えることで、進路選択がより現実的になります。

7．専門学校生のリアルな経験から学ぼう

今、あなたはどんな未来を想像していますか？



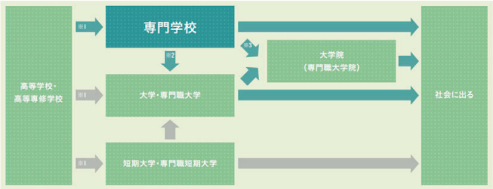
今回の講話では、専門学校に通う先輩の話を聞きながら、進路選択のヒントを探していきます。

まず1つ目は、「進路をどう考えるか」です。
何を大切にし、どう決断したのか、そのプロセスから学びましょう。

2つ目は、専門学校のリアルな生活です。
授業や就職活動の実際、入学前とのギャップなど、普段は聞けない話に注目してください。

3つ目は、自分の未来と向き合うことです。
「自分だったらどうするか？」と考えることで、進路選択がより現実的になります。

8．専門学校ってどんなところ？



【資料出所】「未来につながる専門学校」文部科学省

POINT

- **実践的なスキルが学べる**
- **卒業後すぐに現場で活かせる力がつく**
- **資格取得や就職に直結したカリキュラム**
- **明確な目標を持っている人が多く、職業意識が高い**

今回の講話では、専門学校に通う先輩の話を聞きながら、進路選択のヒントを探していきます。

まず1つ目は、「進路をどう考えるか」です。
何を大切にし、どう決断したのか、そのプロセスから学びましょう。

2つ目は、専門学校のリアルな生活です。
授業や就職活動の実際、入学前とのギャップなど、普段は聞けない話に注目してください。

3つ目は、自分の未来と向き合うことです。
「自分だったらどうするか？」と考えることで、進路選択がより現実的になります。

9．専門学校生講話で注目してほしいこと



■ 話を聞くときのポイント

・進路をどうやって決めたか　　・どんな学びがあって、どんな苦労があるのか
・高校時代に何を考えていたか　　・自分に置きかえると、どこが参考になるか

■ 5W 1H

・いつ（when）、どこで（where）、誰が（who）、何を（what）、なぜ（why）、どのように（how）を意識しながら、キーワードや心に響いた言葉を書き取ろう。

進路選択のヒントを得るために、次の4つの視点を意識して専門学校生の講話を聞きましょう。

① どうやって進路を決めたか
その人がなぜその道を選んだのかに注目してみましょう。

② どんな学びや苦労があったか
リアルな経験から、専門学校の学生生活を感じてみましょう。

③ 高校時代に何を考えていたか
不安や悩み、当時の思いを聞くことで、共感できる部分を探してみましょう。

④ 自分に置きかえるとどうか
「自分だったら？」と考えることで、話が自分ごとになります。
さらに、5W1H（いつ・どこで・誰が・何を・なぜ・どうやって）を意識しながら、心に残った言葉をメモしてみましょう。

10．専門学校生講話を聞くときの姿勢



【5つのポイント】

①姿勢を正して前を向く
②目と表情で聞く
③メモを取りながら聞く
④相づち・うなずきで反応する
⑤最後まで集中して聞く

POINT **「相手の時間を大切にする」ことが、聞く姿勢の基本**

進路選択のヒントを得るために、次の4つの視点を意識して専門学校生の講話を聞きましょう。

① どうやって進路を決めたか
その人がなぜその道を選んだのかに注目してみましょう。

② どんな学びや苦労があったか
リアルな経験から、専門学校の学生生活を感じてみましょう。

③ 高校時代に何を考えていたか
不安や悩み、当時の思いを聞くことで、共感できる部分を探してみましょう。

④ 自分に置きかえるとどうか
「自分だったら？」と考えることで、話が自分ごとになります。
さらに、5W1H（いつ・どこで・誰が・何を・なぜ・どうやって）を意識しながら、心に残った言葉をメモしてみましょう。

11．まとめ



POINT

■今日の講話は、進路について考える「材料」のひとつ
■大切なのは、「自分にとっての正解」を探すこと
■小さな気づきを、今後の選択につなげよう
■「相手の時間を大切にする」ことが、聞く姿勢の基

本講座のまとめです。

進路は「なんとなく」ではなく、情報を集めて考えることが大切です。講話はそのヒントのひとつ。「自分だったら？」と考えてみましょう。

大切なのは、人と比べず「自分にとっての正解」を選ぶこと。気づいたことがあれば、それを次の行動につなげてください。そして、話を聞くときの姿勢も、学びの一部です。

ワークシート①
（講話を聞く前）

今の気持ちや講話に期待すること

氏名（　　年　組　番）

①今、進路について悩んでいることや、気になっていることはありますか？
②どんなことを聞いてみたいですか？質問を考えてみましょう。

ワークシートに、講話を聞く前の今の気持ち、講話に期待すること、質問したいことをまとめましょう。

ワークシート②
（講話を聞きながら）

氏名（　　年　組　番）

講話の内容	気づき・感じたこと 印象に残ったことなど
進路を決めた理由	
専門学校での学び・生活	
高校生の時にやっておいて良かったこと	
これからの目標や夢	

講話を聞きながら、気づいたことや感じたことを書きましょう。

ワークシート③
（振り返り・まとめ）

講話を聞いて感じたこと、考えたこと

氏名（　　年　組　番）

①講話で印象に残った言葉・考え方
②自分の進路選択に活かせそうなこと
③講話を聞いて、「今からやってみよう」と思ったこと

講話を聞いて感じたこと、考えたことを書きましょう。

【参考】こんな気持はありませんか？

■「何となく大学が安心…でも本当にやりたいことがない」
■「手に職をつけたいけど、向いてるか不安」
■「何を基準に進路を選べばいいのかわからない」

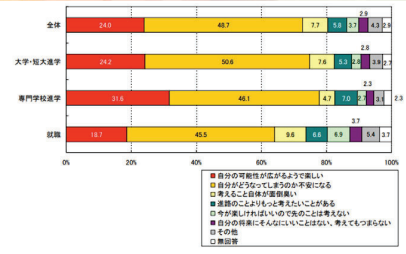


POINT 今日は、少し先を歩く「先輩の声」を聞いて考えるチャンス！

進路に不安やモヤモヤを感じるのは、将来を真剣に考えている証拠です。
焦らず、比べず、迷う気持ちを大切にしてください。

今そばにいる大人たちも、かつて同じように悩みながら進路を選んできました。だからこそ、少し先を歩く先輩の声に耳を傾けてみましょう。きっとヒントが見つかるはずです。

【参考】進路を考える時の気持ち



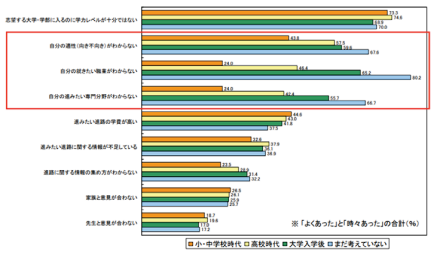
【資料出所】「進路を考える時の気持ち」文部科学省

POINT 「自分の可能性が広がるようで楽しい」より、
「自分がどうなってしまうのか不安になる」高校生が多い

進路を考えるとき、「ワクワクする」よりも「不安になる」と感じるのは自然なことです。

迷いや不安があっても大丈夫です。
「話すこと」「情報を集めること」で、少しずつ前に進みましょう。

【参考】進路を選択する時の悩み

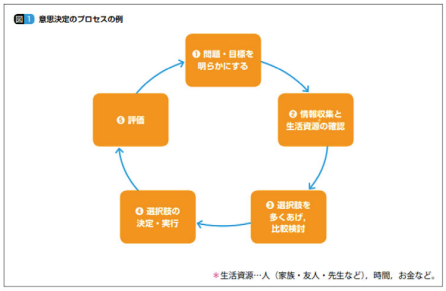


POINT 「自分の適性（向き不向き）がわからない」「就きたい職業がわからない」
「進みたい専門分野がわからない」高校生が多い

大学生に聞いた高校時代の進路の悩みで多かったのは、「自分の適性がわからない」「職業が決まらない」といった声です。

こうした悩みは、進路を考え始めた時期が遅いほど多い傾向があります。だからこそ、「まだ先」と思わず、今のうちから少しずつ考えていくことが、不安を減らし、準備につながります。

【参考】人生における意思決定



【資料出所】「高校生のライフプランニング」文部科学省

進路や人生の選択は、直感ではなく段階的に考えることが大切です。目標を明確にし、情報を集めて選択肢を比較し、行動に移しましょう。結果をふり返り、必要なら進路を見直すことも大切です。

進路は一度決めたら終わりではなく、いつでも考え直して良いということを覚えておきましょう。

マナー講座

（面接対策）

第２回は、マナー講座です。

面接に向け、マナー、基本的な立ち居振る舞いについて学習します。

目次

P.１－２：身だしなみ・身だしなみのポイント
P.３－４：正しい立ち姿勢
P.５　　：３種類のお辞儀
P.６　　：挨拶のポイント
P.７－８：正しい着席姿勢・立ち上がり方
P.９－10：面接の評価ポイント（進学・就職）
P.11　　：面接の評価方法
P.12　　：面接の準備
P.13　　：面接の心構え
P.14　　：面接の流れ
P.15ー16：入室～退室
P.17ー22：面接で良く聞かれる質問例（進学・就職・共通）

【参考】　模擬面接の動画
【ワークシート】①②

本講座の目次は、ご覧の通りです。

１．身だしなみ

身だしなみ

・容姿や見た目
・服装や髪型を良くしようという心がけ
・またはそうしたマナーのこと
・社会人としてふさわしい服装や髪型



おしゃれ

・自分の好きなように楽しむもの
・プライベートなもの
・流行を取り入れた服装や髪型



Learn Now

身だしなみは「相手のため」、おしゃれは「自分のため」

面接では、第一印象がとても大切です。

話の内容よりも、見た目の印象が評価を左右することがあります。だからこそ、身だしなみは重要です。

「身だしなみ」とは、社会人としてふさわしい服装や髪型のこと。相手に信頼や安心感を与えるためのものです。

一方で「おしゃれ」は、自分のために楽しむものです。

面接では「相手のための身だしなみ」を意識し、好印象を与えられるよう準備しましょう。

２．身だしなみのポイント

① 清潔で、健康的に

② 品良く（好感が持てる）

③ 機能性とTPOを考えた服を着用



Learn Now

身だしなみは「信頼」、「安心感を与えるもの」

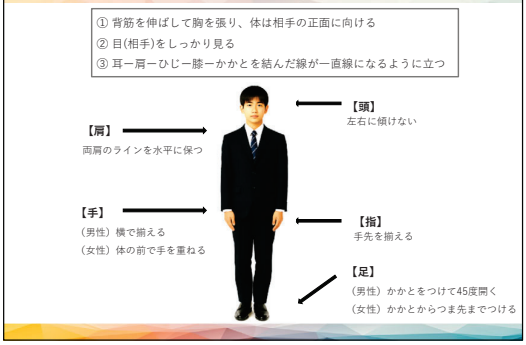
面接では、身だしなみが第一印象を左右します。

大切なのは清潔感、品の良さ、そしてTPOに合った服装です。しわや汚れのない服装、整った髪型、落ち着いた色の服で「信頼できる人」と思ってもらえる準備をしましょう。

制服がない場合はスーツやシャツが基本です。

身だしなみは「この人と働きたい」と思ってもらうための第一歩です。

3．正しい立ち姿勢　（正面）

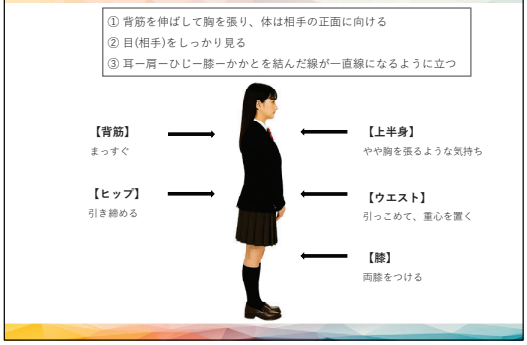


姿勢や歩き方は、印象を大きく左右します。

背筋を伸ばし、相手の目を見て、正面を向き、耳、肩、ひじ、膝、かかとを結んだ線が一直線になるように立ちます。

はつらつとした信頼感のある印象を与えられるよう、手や指先にも気を配り、自然で整った立ち姿を心がけましょう。

4．正しい立ち姿勢　（横向き）

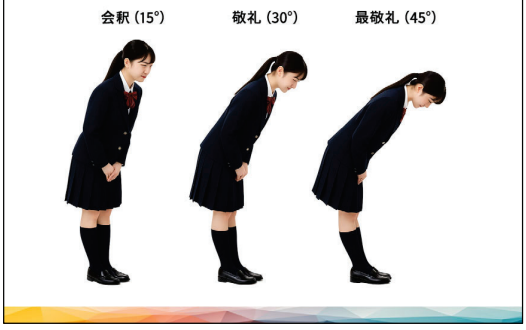


横から見た姿勢もとても大切です。

胸は軽く張る意識で、背筋はまっすぐに、お腹は軽く引っ込めて、体の重心を足の裏全体で支えるイメージを持ちましょう。

ヒップを引き締め、両膝をつけて立つと、すっきりとした美しい立ち姿になります。

5．３種類のお辞儀



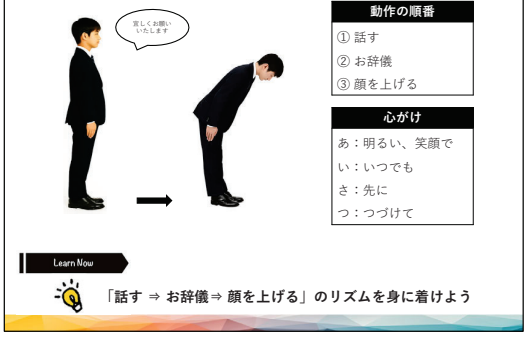
お辞儀には、会釈、敬礼、最敬礼の3種類があります。

会釈は軽い挨拶、敬礼は丁寧なあいさつ、最敬礼は深い謝意や謝罪のときに使います。

基本となる敬礼は30度です。面接時に、「失礼します」や「ありがとうございました」という際に使います。

お辞儀は気持ちを表す大切な動作です。場面に応じた角度で、誠実な姿勢を伝えましょう。

6．挨拶のポイント



挨拶は、相手への礼儀と思いやりを伝える基本のコミュニケーションです。

漢字で「挨拶」は「押す・開く」と書きます。つまり、自分の心を開いて、相手の心に近づく第一歩です。

明るい笑顔ではっきりと話し、相手の目を見て、言葉のあとにお辞儀を入れましょう。話す、お辞儀、顔を上げるのリズムがポイントです。

あいさつは、「あ＝明るく」「い＝いつでも」「さ＝先に」「つ＝つづけて」を意識しましょう。

7．正しい着席姿勢

① 背筋を伸ばす
② 面接官を真っ直ぐ見る



【背】
・背もたれにもたれかからない
・椅子と体の間を空ける

【手】
（男性）手は軽く握って太ももの上におく
（女性）両手は膝の上で軽く重ねる

【膝】
（男性）足幅は肩幅くらいに開く
（女性）両膝をつける

【腰】
浅めに腰を掛け背筋を伸ばす

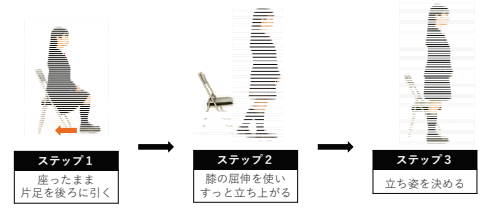
面接では、椅子の座り方や立ち方も見られています。

背筋を伸ばして面接官をまっすぐ見ることが大切です。

男性は手を軽く握って太ももの上に、女性は両手を膝の上で軽く重ねます。足は男性は肩幅、女性は膝をそろえます。

椅子には浅めに腰を掛け、背もたれにもたれないようにしましょう。
集団面接では、特に姿勢の違いが目立つため、日頃から正しい姿勢を心がけましょう。

8．立ち上がり方



ステップ1
座ったまま
片足を後ろに引く

ステップ2
膝の屈伸を使い
すっと立ち上がる

ステップ3
立ち姿を決める

Learn Now

「自信」と「丁寧さ」が見えると、面接官に好印象

面接での退室時の姿は、面接の最後の印象を決めます。

立ち上がるときは、まず片足を後ろに軽く引き、静かに立ち上がる準備をします。

次に、膝を使ってゆっくり、背筋を伸ばしたまま立ち上がり、最後に立った姿勢を整えます。

静かでスムーズな動きは、自信と落ち着きをアピールできます。

9．面接の評価ポイント（進学）

① 志望分野や資格の内容を理解しているか
② 学習意欲や心がまえが備わっているか
③ 自主性、積極性、協調性、表現力は豊かかどうか
④ 高校生としての教養とマナーを身につけているか
⑤ 将来的なビジョンや夢など、学問に対する熱意はあるか

Learn Now

自信を持って、自分の言葉で話せるように準備しよう

進学の面接では、「上手に話すこと」だけでなく、自分の進路をきちんと考え、伝えようとする姿勢が大切です。

志望分野について理解し、学ぶ意欲を持っているか、自分の言葉で語れるかが評価されます。また、協調性や礼儀も見られています。

服装や話し方、態度も重要なポイントです。将来の夢に向けて「なぜこの学校を選んだか」もしっかり伝えられるようにしておきましょう。

10．面接の評価ポイント（就職）

① 第一印象・身だしなみ・マナー
② あいさつ・声の大きさ・話し方
③ コミュニケーション力・受け答えの分かりやすさ
④ 志望動機・意欲
⑤ 人柄・協調性
⑥ 柔軟な対応力・素直さ

Learn Now

回答は丸暗記せず、自分の言葉で話せるようにしよう

就職の面接では、学力よりも人柄や意欲、社会性などが重視されます。

服装や姿勢、あいさつなど第一印象も大切です。

質問には簡潔に、自分の言葉で答えましょう。また、志望理由や将来の目標をしっかり伝えることも重要です。準備をしっかりして、自分らしさを表現しましょう。

11. 面接の評価方法



① 多くは、「A～Cの3段階」や「A～Eの5段階」

② 面接で判断されるのは「人物」

③ 何を答えたかだけでなく、どう伝えたかも重要

④ 相手に分かりやすい順番で伝える

Learn Now

自分の考えを“伝える工夫”が評価される

面接では答えの内容だけでなく、話し方、印象、伝え方など総合的に評価されます。

評価は、三段階評価や五段階評価で実施されることが多く、複数の面接官が話し合って決めます。

大切なのは、自分の考えをどう伝えるか、伝える工夫をすることです。

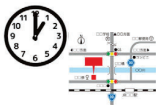
結論、理由、具体例、まとめの順で話すと、伝わりやすくなります。話の流れを大切にしましょう。

12. 面接の準備



【面接当日の持ち物】

- スマートフォン
- 履歴書やエントリーシート（ES）
- クリアファイル
- 筆記用具・メモ帳
- 交通系ICカードや現金
- ハンカチ・ティッシュ



【時間と場所】

- 約束の時間の5～10分前には到着
- 事前にどの交通手段で行くかを決めておく
- 事前に時刻表をチェックする
- 事前に何時に家を出るか決めておく

面接当日は緊張するものです。

忘れ物をすると焦ってしまい、本来の力が出せなくなることもあります。必要な持ち物は前日に確認し、クリアファイルやメモ帳、ハンカチなどを準備しておきましょう。

また、会場には約束の5～10分前には到着できるように、事前に移動手段や出発時間を調べておきましょう。

13. 面接の心構え



① 「緊張するのは、当たり前！」と思う
「緊張しちゃダメ」と思わない

② 深呼吸する
ゆっくり呼吸して気持ちを整える

③ 早めに会場に着く
心に余裕を持つ

④ 「完璧じゃなくていい」と思う
「うまく話す」より「誠実に伝える」

⑤ 結論 → 理由 → 具体例の順に話す
相手に分かりやすく話すことが大切

⑥ 暗記より“自然な会話”
自分の言葉で話す

面接で緊張するのは当たり前のことです。

大切なのは、深呼吸で落ち着くこと、早めに会場に行くこと、そして「完璧じゃなくていい」と思う心構えです。

言葉に詰まっても、自分の言葉で相手に分かりやすく伝えることを意識しましょう。

暗記ではなく、内容を理解して話すと、自然な会話ができるでしょう。

14. 面接の流れ



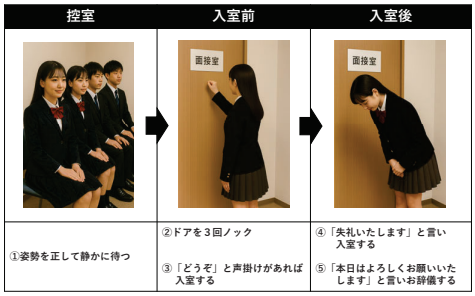
Learn Now

受付～退室まで、一つひとつの所作や態度が評価対象

面接は「最初から最後まで」が評価対象です。
受付から退室まで、一つひとつの所作や態度が印象を左右します。

安心して本番に臨むために、各場面の所作を確認していきましょう。

15. 入室の仕方



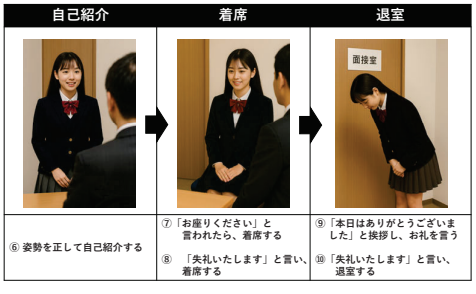
面接では、入室前から見られています。

控室ではスマホを使わず、静かに正しい姿勢で待ちましょう。

入室時はドアを3回ノックし、「どうぞ」と言われてから入ります。

ドアを静かに閉め、「本日はよろしくお願いします」とあいさつし、お辞儀をしましょう。

16. 自己紹介・着席・退室



面接では椅子の横に立ち、「〇〇高校の〇〇と申します。本日はよろしくお願いします」と自己紹介をして、お辞儀をします。

話しながらお辞儀しないよう注意しましょう。

「お座りください」と言われたら「失礼します」と一礼して着席します。

終了後は「ありがとうございました」と伝え、立ってお辞儀し、丁寧にドアを閉めて退室します。

17. 面接でよく聞かれる質問例（進学）

志望理由

- なぜこの大学/専門学校を志望したのですか？
- 数ある学部・学科の中で、なぜこの分野を選んだのですか？
- この分野を学ぼうと思ったきっかけは何ですか？
- 本校のどんな点に魅力を感じましたか？
- 他校ではなく、この学校を志望する理由は何ですか？

入学後の目標

- 入学後に取り組みたいことは何ですか？
- 大学（または専門学校）でどんな力を身につけたいですか？
- サークルや課外活動にも興味はありますか？あれば理由も教えてください。
- 卒業後の進路について考えていることはありますか？
- この学校で学ぶことが、将来どのように役立つと思いますか？

推薦入試や総合型選抜では、面接が合否に大きく影響します。

志望理由書と内容が重なるため、準備は並行して進めましょう。

面接では、志望の強さや学ぶ意欲、入学後の目標、将来のビジョンなどが問われます。「なぜこの学部か」「何を学びたいか」などを自分の言葉で語れるようにし、大学での学びや活動のイメージを具体的に伝えることが重要です。

18. 面接でよく聞かれる質問例（進学）

大学・専門学校の印象

- 学校案内やオープンキャンパスで印象に残った点は？
- 学校の教育方針について、どんな印象を持っていますか？
- 学びの環境や施設設備について、調べたことはありますか？印象はどうですか？
- 在学生や卒業生について調べたことはありますか？印象はどうでしたか？

他大学・他校の受験状況

- 他にどのような学校を受験していますか？
- 第一志望は本校ですか？
- 本校に合格した場合、入学の意思はありますか？
- 保護者や先生とは、どのように進路を相談してきましたか？

進学の面接では、学校についての印象や事前調べの状況についても質問されることがあります。

「なぜこの学校なのか」「他校と比較してどうか」などを、オープンキャンパスやパンフレットの情報をもとに話せるようにしておきましょう。

また、他校の受験状況や入学の意思について聞かれる場合もあります。迷う質問でも正直に、丁寧に答える姿勢が大切です。

19. 面接でよく聞かれる質問例（就職）

志望理由

- なぜこの会社を志望したのですか？
- 当社のどんなところに魅力を感じましたか？
- 同じ業種の中で、なぜ当社を選んだのですか？
- 企業見学や説明会で印象に残ったことはありますか？
- 当社に入って、どのような働き方をしたいと考えていますか？

入社意欲

- 入社後にどんなことを頑張りたいですか？
- 仕事を覚えるのに苦労したとき、どう向き合いますか？
- 将来、会社でどのような役割を担いたいと考えていますか？
- 会社で長く働くことについて、どう考えていますか？
- この仕事を通じて、社会にどう貢献したいですか？

就職の面接では、「なぜこの会社なのか」「長く働く意欲があるか」が聞かれます。

企業について調べ、自分の興味や適性と仕事内容が合っていることを具体的に伝えましょう。「近いから」などの理由だけではなく、前向きな将来の目標や働き続ける意志を示すことが大切です。

21

20. 面接でよく聞かれる質問例（就職）

職種や業務内容

- 会社のホームページやパンフレットを見て、印象に残った点はありますか？
- どのような姿勢で仕事に取り組みたいと考えていますか？
- 業務で必要な知識や技能には、どんなものがあると思いますか？
- 働く時間や勤務場所について、理解していますか？

性格や価値観

- 周りからどんな性格だと言われますか？
- これまでの経験で自分が成長したと感じたことは何ですか？
- 協調性とは何だと思いますか？それを実践した経験はありますか？
- 人と接するときに心がけていることはありますか？
- あなたにとって“働く”とはどのような意味を持ちますか？

就職の面接では、「会社や仕事の内容を理解しているか」「仕事が合っているか」も大切な確認項目になります。

また、性格や考え方、人との協力姿勢についても質問されます。まずは自分の性格や強みを理解し、そのうえで企業についてよく調べ、なぜその会社で働きたいのかを自分の言葉で伝えられるよう準備しましょう。

22

21. 面接でよく聞かれる質問例（共通）

自己PR

- あなたの長所を教えてください。また、それがどのように活かせると思いますか？
- これまでに頑張った経験や、成長を感じたエピソードはありますか？
- 自分の性格や強みを一言で表すとしたら、何と言いますか？

高校生活

- 高校生活の中で、最も印象に残っている出来事は何ですか？
- 部活動には参加していましたか？どんな役割を担っていましたか？
- 学校行事や委員会活動での経験を教えてください。
- 苦手だったことや失敗したことをどう乗り越えましたか？
- 学習面で努力したこと、成果を感じたことはありますか？
- 高校生活を通じて、自分が最も成長したと感じる点は何ですか？

面接では、「自己PR」と「高校生活」についてもよく質問されます。自分の強みがどのように活かせるかを伝えることが大切です。

また、部活や学校生活での努力や工夫、成長した経験を通して、取り組む姿勢や継続する力が見られます。成果よりも過程や気づきを語りましょう。

23

22. 面接でよく聞かれる質問例（共通）

将来の夢・進路

- 将来、どのような仕事に就きたいと考えていますか？
- その仕事を目指したきっかけは何ですか？
- 夢を実現するために、どのようなことを身につけていきたいですか？
- 進路について悩んだことはありますか？その時、どうしましたか？
- 5年後・10年後の自分をどのように想像していますか？

その他

- 最近気になったニュースや社会問題はありますか？
- 最近読んだ本はありますか？どのような感想をもちましたか？
- 自分の性格を一言で表すとしたら？
- 尊敬する人物は誰ですか？その理由は？
- 壁にぶつかったとき、どのように乗り越えてきましたか？

「将来の夢や進路」についてもよく聞かれます。

夢がはっきりしていなくても、「なぜその道を選びたいのか」を自分の言葉で伝えることが大切です。

また、趣味やアルバイトなどの質問では、人柄や会話力を見られています。どんな質問でも、落ち着いて自分らしく話すことがポイントです。

24

【参考】入室の場面



NHK高校生講座【国語表現　第16回模擬面接をする】の動画を参考に、面接のイメージをつかみましょう。

1つ目は、入室の場面です。
https://www2.nhk.or.jp/kokokoza/watch/?das_id=D0022110328_00000#in=312&out=343

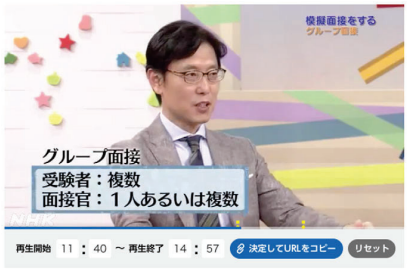
【参考】個人面接の様子



NHK高校生講座【国語表現　第16回模擬面接をする】の動画を参考に、面接のイメージをつかみましょう。

2つ目は、個人面接の様子です。
https://www2.nhk.or.jp/kokokoza/watch/?das_id=D0022110328_00000#in=164&out=533

【参考】グループ面接の様子



NHK高校生講座【国語表現　第16回模擬面接をする】の動画を参考に、面接のイメージをつかみましょう。

3つ目は、グループ面接の様子です。
https://www2.nhk.or.jp/kokokoza/watch/?das_id=D0022110328_00000#in=700&out=897

ワークシート①

STEP 1 「面接でよく聞かれる質問例」から、質問を選択し、回答を作成しましょう。

年　組　番
氏名（　　）

【質問】
【回答】

【質問】
【回答】

【質問】
【回答】

一部のよくある質問については、事前に答えを準備しておくとよいでしょう。

「面接でよく聞かれる質問例」から、質問を選択し、回答を作成しましょう。

ワークシート②

STEP 2　身だしなみ、正しい姿勢・挨拶、面接マナーをチェックしましょう。
3点（できた）　2点（まあまあ）　1点（残念）

氏名（　　年　　組　　番）

	チェックのポイント	評価
身だしなみ	①身だしなみとおしゃれの違いを説明できる	／3
	②身だしなみのポイントを2つ上げることができる	／3
正しい姿勢	③正しい立ち姿勢を保つために、注意すべきことを3つ上げることができる	／3
	④座り姿勢について、足と手の正しい位置・姿勢を説明できる	／3
挨拶	⑤3種類のお辞儀の違いを説明できる	／3
	⑥面接の際にするお辞儀の角度が何度か説明でき、また実践できる	／3
	⑦挨拶をする際の正しい順番（お辞儀、話す、顔を上げる）を説明でき、また実践できる	／3
	⑧恥ずかしがらずに、しっかりと声を出すことができる	／3
面接	⑨面接の評価ポイントが理解できた	／3
	⑩自分の考えを自分の言葉で話すこと、伝え方の工夫が大切だということを理解できた	／3
	⑪面接の当日までに、準備すべきことを説明できる	／3
	⑫面接の心構えのポイントを3つ説明できる	／3
	⑬面接の流れ、各場面で注意することを理解できた	／3
	⑭入室から退室までの動作を理解でき、また実践できる	／3
	⑮面接で質問されやすい質問について、自分なりの答えを準備できた	／3
	合計	／45

面接に向けて、これから取り組んでいく具体的な内容を書きましょう。

いつまでに何の準備をするか、どのような練習をするかなど、時期を意識すると尚良いでしょう。

ワークシート③

氏名（　　年　　組　　番）

①身だしなみ・マナー・挨拶について、これから具体的に取り組んでいくこと
②面接に向けて、これから具体的に準備していくこと （うまく答えられない質問、挨拶の所作など）

面接に向けて、これから取り組んでいく具体的な内容を書きましょう。

いつまでに何の準備をするか、どのような練習をするかなど、時期を意識する尚良いでしょう。

進路について考えよう②

進路選択発表会に向けたプレゼン資料作成

「進路について考えよう②」では、これから行う進路選択発表会に向けて、自分の考えを伝えるプレゼン資料を作成していきます。

目次

1．進路選択発表会に向けて準備しよう
2．進路選択発表会の目的
3．発表準備ワークシート①、②
4．【参考】なりたい自分をイメージしてみよう
5．【参考】みなさんが生きる「人生100年時代」
6．【参考】様々な進路
7．【参考】進学・就職のスケジュール（例）

この講座では、「進路選択発表会」に向けた準備を進めていきます。

まずは発表の目的を確認し、ワークシートを使って自分の考えを整理します。

さらに、「なりたい自分」や「人生100年時代」をテーマに、これからの生き方を考えるヒントも紹介していきます。

進学や就職に関する情報も確認しながら、自分らしい進路を見つけていきましょう。

1．進路選択発表会に向けて準備しよう



【発表対象】クラスメイト

【発表時間】1人3~5分



【発表対象】クラスメイト

【発表時間】各グループ10分

進路選択発表会は、2回に分けて行います。1回目は個人発表、2回目はグループ発表です。

この発表会は、ただの発表ではありません。自分の考えを「言葉で伝える」ことを練習する大事な機会です。

入試や就職の面接にもつながるよう、自分の意見を伝える力、時間内でまとめる力、聞き手に伝わりやすいよう工夫することを意識しましょう。

2．進路選択発表会の目的



POINT

■進路決定に向けてどうすべきか考え、**より具体的に行動するきっかけを作る**ため
■今後の進路活動に**どのような知識・情報・準備が必要か理解を深める**ため
■面接や面談で自身の進路選択について、**言語化して表現する力を身につける**ため

進路選択発表会は、自分の将来について考えたことを「言葉で伝える」大切な場です。

準備を進める中で、「なぜこの進路を選んだのか」「何を準備すればいいのか」がより明確になります。

また、発表することで、面接などに必要な「伝える力」も自然と身につきます。今の考えを整理し、次の行動につなげていきましょう。

発表準備ワークシート①

高校入学からの歩みを振り返ろう

年　組　番
氏名（　　）

1年生の自分（高校に入って最初にがんばったこと、戸惑ったことなど）
2年生の自分（部活・行事・検定・資格・授業などで力を入れたことなど）
3年生の自分（進路決定に向けて動いたこと、取り組んでいることなど）

ワークシートを活用して、高校入学からの歩みを振り返りましょう。

発表準備ワークシート②

年　組　番
氏名（　　）

①進路先	あなたの進路先はどこですか？（学校名・職種など）
②進路を決めた理由	その進路を選んだ理由を教えてください。
③取り組んできたこと	その進路に向けて、3年間でどんなことをしてきましたか？ （授業・部活・課外活動・資格・検定など）
④やっておいてよかったこと	今振り返って、「やっておいてよかった」と思うことや、「もっとやっておけばよかった」と思うことは？
⑤卒業までに取り組むこと	卒業までに頑張ること、取得を目指している資格は？

まずはワークシートに、今考えている進路を書いてみましょう。

その進路を選んだ理由や、これまで取り組んできたこと、やっておいてよかったこと、そして卒業までにやりたいことも整理して書いていきます。

自分の考えを文字にすることで、進路への理解がより深まります。

「伝わるプレゼン」のコツ



POINT

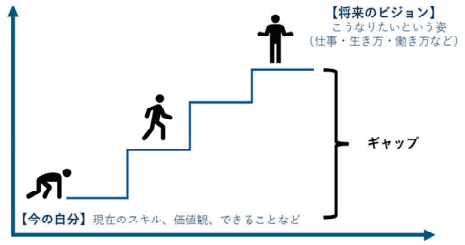
① 大きな声でゆっくりと話す
② 話し方に抑揚をつける
③ ジェスチャーを取り入れる
④ 相手の目を見て話す
⑤ 姿勢を正す
⑥ 無表情ではなく、時折笑顔を見せる

プレゼンを成功させるには、伝え方がとても大切です。

まず、大きな声でゆっくり話しましょう。
話に抑揚をつけると、強調したい部分がより伝わります。
手を使った自然なジェスチャーも効果的です。
聞き手の目を見て、背筋を伸ばして立つこともポイントです。
そして何より、時々笑顔を見せることで、前向きな気持ちも伝わります。

この6つのコツを意識して、聞き手の心に届くプレゼンを目指しましょう。

【参考】なりたい自分をイメージしてみよう



POINT 「**今の自分**」と「**なりたい自分（ビジョン）**」との間にある「**ギャップ**」を意識しながら、キャリア形成の成長をイメージしよう

キャリア形成とは、「なりたい自分」に近づいていくプロセスです。

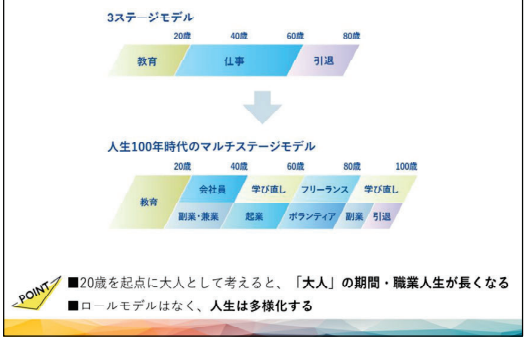
まずは今の自分を見つめ直し、「現在のスキル」「価値観」「できること」を整理してみましょう。

次に、「こうなりたいという姿」「どんなふうに生きたいか」「どんな自分でいたいか」といったビジョンを描いてみましょう。

そして、今の自分と目指す自分との間にあるギャップを考えましょう。その差を埋めるには、スキルを伸ばす、経験を積む、情報を集めるといった行動が必要です。

階段を一歩ずつのぼるように、成長のステップを意識して進んでいきましょう。

【参考】みなさんが生きる「人生100年時代」



POINT

■20歳を起点に大人として考えると、**「大人」の期間・職業人生が長くなる**

■ロールモデルはなく、**人生は多様化する**

「人生100年時代」という言葉を聞いたことがありますか？

これはイギリスのリンダ・グラットン教授が広めた考え方で、私たちの人生はこれからもっと長くなると言われています。

これまでは「学ぶ・働く・引退する」という3つのステージで人生を考えるのが一般的でしたが、これからはもっと多様に、何度も学び直したり働き方を変えたりしながら生きていく「マルチステージの人生」になります。

高校卒業後、社会との関わりが始まる「大人の時間」は、実は50年以上続く長い道のりです。
さらに今は「こう生きれば正解」というモデルがない時代です。

だからこそ、自分が大切にしたいこと、どんなふうに生きていきたいかを自分で考えて選ぶ力、つまり「キャリアデザイン力」がとても大事になります。

【参考】様々な進路

	強み	弱み
大学	・進路の幅が広がる ・初任給や生涯賃金が高い傾向 ・授業以外でも見聞を広める機会が多い	・４年間の学費が必要 ・入試の難易度が高い ・自己管理が必要
短大	・教養や専攻科目を２年間で習得できる ・大学よりも早く社会に出ることができる	・大学に比べて、就職先の選択肢の幅が狭い ・学科の選択肢が少ない ・大学に比べて忙しい傾向
専門学校	・実務能力が身につき、即戦力になれる ・専門分野の求人が多い ・固い目標を持つ仲間と切磋琢磨できる	・就職先の幅が狭い ・専門分野以外の知識を得る機会が少ない ・進路変更が難しい
就職	・10代のうちから社会経験を積める ・学費などの経済的な負担が少ない ・就活サポートを受けやすい	・就職先の選択肢が少ない ・初任給や生涯賃金が少ない傾向 ・一度に一社しか応募できない

■具体的な仕事が見えてきたら、その仕事をするためには進学が必要か調べよう

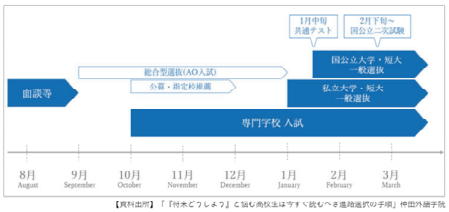
■特定の資格が必要な場合は、その資格を取得する方法を調べよう

高校卒業後の進路は、大学、短大、専門学校、就職の4つが主な選択肢です。
どれが正解ということはなく、「自分に合った道」を選ぶことが大切です。

まだ決まっていない人も、「好きなこと」や「得意なこと」からヒントを見つけてみましょう。もし目指したい仕事があるなら、その職業に就くために必要な進学ルートや資格を調べてみてください。

たとえば、看護師を目指すなら、看護系の大学や専門学校へ。
保育士や美容師、介護福祉士などは国家資格も必要です。
「なりたい自分」から逆算して、進路を考えていきましょう。

【参考】進学のスケジュール（例）



【資料出所】「『将来どうしよう』と悩む高校生はやすべき進路選択の手順」仲田外語学院

■専門学校：原則的には**10月頃から願書の受付開始**。
翌年3月末頃まで試験を行っているところもあるため、就活や大学・短大入試の結果を受けてからでも受験・入学が可能。

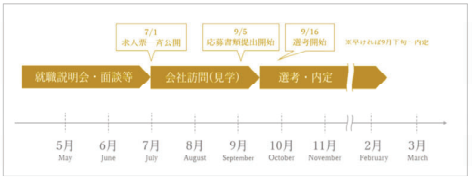
■国公立大学・短大：一般選抜(一般入試)は、**1月中旬に実施**。
共通テストの点数を考慮した上で、1月下旬に出願し、2月下旬から二次試験。

進学を考えるうえで、入試の時期を知ることはとても大切です。

専門学校は10月から出願が始まり、翌年3月まで受験できる学校もあります。

国公立大学は1月に共通テスト、2月に二次試験が行われ、結果は3月に出ます。スケジュールの流れをしっかり把握しておきましょう。

【参考】就職のスケジュール（例）



【資料出所】「『将来どうしよう』と悩む高校生はやすべき進路選択の手順」仲田外語学院

■7月1日から本格的にスタートするため、就職するか進学するかは、3年生の6月頃までに決めておくのが望ましい

■夏休みなどを利用して企業研究したり、職場見学に行ったりして会社を絞る

■応募書類は高校を通して9月上旬に提出、選考開始は9月中旬から

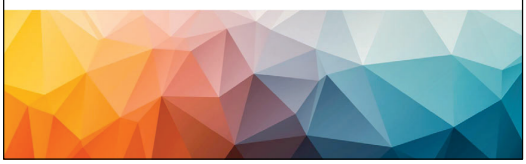
続いては、就職を希望する人向けのスケジュールです。

就職活動は、準備を始めるタイミングがとても重要です。時期ごとの流れをしっかりつかんでおきましょう。

就職活動は、スタートが早く、しっかり準備することが求められます。6月までに進路を決め、夏休みでしっかり企業研究をして、9月には本番を迎えます。この流れをおさえて、焦らず、計画的に動いていきましょう。

進路選択発表会

組　　番　　氏名（　　）



いよいよ進路選択発表会です。

ワークシートを使って、自分の考えをしっかり整理し、将来について言葉で伝える準備をしていきましょう。

ここから、あなたの進路の第一歩が始まります。

進路と取り組み

年　組　番
氏名（　　）

進路先
進路を選んだ理由
進路に向けて取り組んできたこと、今取り組んでいること

まずは、今考えている進路について書きましょう。

そして、その進路を選んだ理由、自分がどんな努力をしてきたのかを振り返って整理します。自分の選んだ道に、自信を持って言葉にしていきましょう。

キャリアプランニング

将来の目標を立てて、その目標を達成するために必要なことを逆算して考えてみよう

年　組　番
氏名（　　）

私が将来やってみたい仕事は…	①
上記①の仕事につくために必要なのは…（勉強・経験・資格など）	②
上記②を身につけるためにやるべきことは…	③
上記③のための高校卒業後の進路は…	④
①～④を実現するために明日からやることは…（具体的な目標を設定しましょう）	明日から取り組む今月の目標
	卒業までの目標

次は、キャリアプランを立ててみましょう。

やってみたい仕事をイメージし、そのために必要なこと、今できること、高校卒業後の進路を考えていきます。

今月の目標欄には、すぐにできる行動、例えば、オープンキャンパスへの参加、資格の申込などを書きましょう。

卒業までの目標は、将来の長期目標を踏まえて、段階的に考えて、設定します。未来の自分から逆算して、今の行動に反映していきましょう。

将来デザインシート

将来を想像して「○年後の自分」のことを書き出してみよう

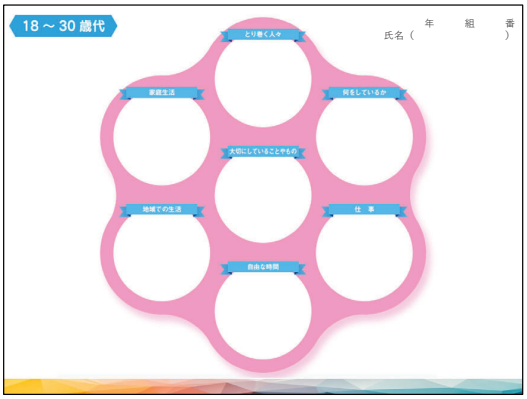
年　組　番
氏名（　　）

今後の目標
**　年後の私**
**　年後の私**

【将来を考えるヒント】①勉強、② 仕事、③家族、④ 結婚、④ 何が好き、⑤ 何が嫌い
⑥ どこに住んでいる？、⑦ 平日は何をしている？ ⑧ 休日は何をしている？など

ここでは、明日から始められる具体的な目標を考えてみましょう。

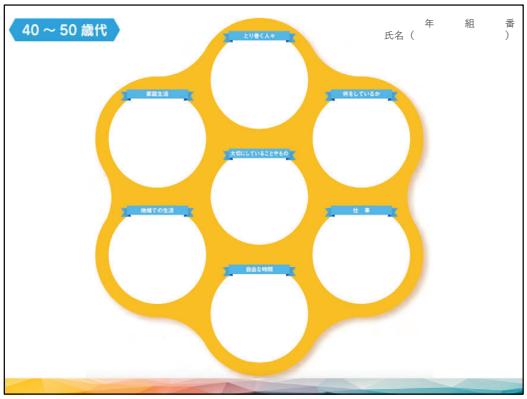
数年後の自分をイメージしながら、将来へとつながる目標を段階的に立てることが、実現への第一歩です。



将来の自分を想像してみましょう。

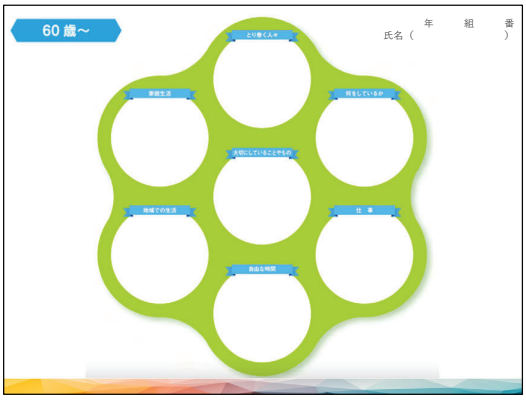
5年後、10年後、どんな場所で、どんな風に過ごしているでしょうか？

仕事、生活、趣味、人とのつながりなど、自分らしい未来を自由に描いてみてください。



20年後、30年後、どんな場所で、どんな風に過ごしているでしょうか？

仕事、生活、趣味、人とのつながりなど、自分らしい未来を自由に描いてみてください。



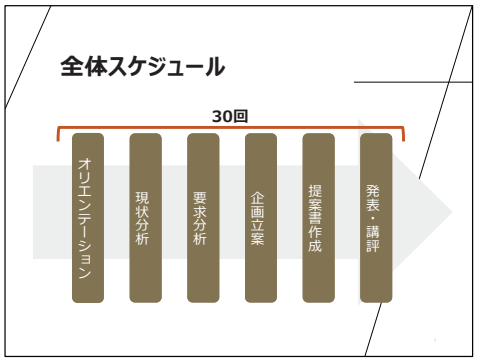
今は「人生100年時代」と言われています。
60歳は、「引退のゴール」ではなく、「新しい人生のスタート地点」です。

かつては、60歳で仕事を辞めるのが当たり前でしたが、今は違います。働き続ける人、学び直す人、趣味や地域活動に力を入れる人など、生き方はさまざまです。

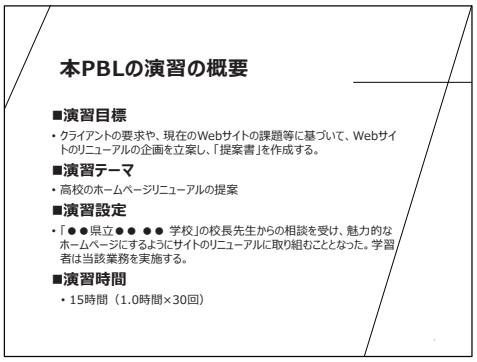
これからの長い人生、あなたはどんな60歳を迎えていたいですか？
自由な発想で、未来の自分を思い描いてみましょう。
文章でも、イラストでも、自分らしく表現してみてください。



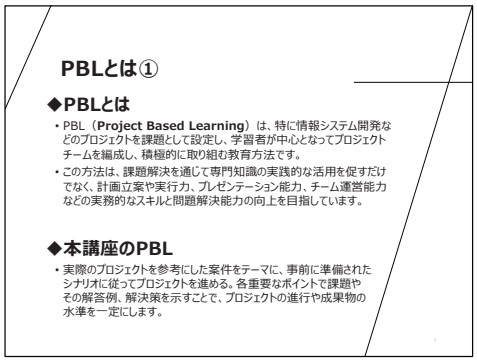
このPBLでは、学校のホームページを「もっと魅力が伝わるサイト」にするためのリニューアル企画を立て、提案書としてまとめます。
大事なのは、見た目を変えることよりも、誰に何を伝えるべきかを整理し、根拠をもって改善案を示すことです。
みなさんは制作会社のチームになったつもりで、現状把握から企画、提案までを段階的に進めていきましょう。



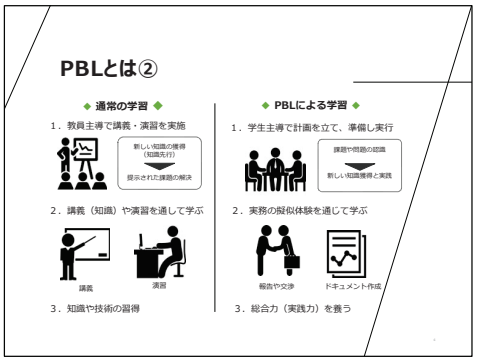
全体スケジュールは、オリエンテーションから始まり、現状分析、要求分析、企画立案、提案書作成へと進みます。
順番には意味があり、前の成果物が次の作業の材料になります。
例えば現状分析が浅いと、要求分析や企画がズレて説得力が下がります。
チームで進行管理しながら進めましょう。



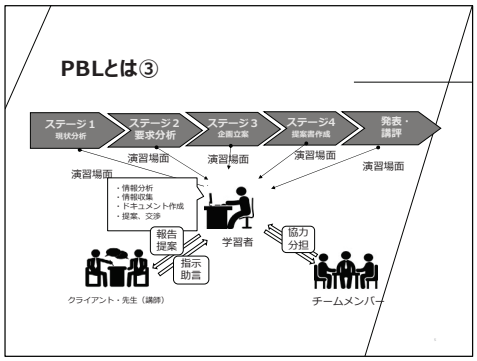
この演習の目標は、クライアントの要求と現行サイトの課題をもとに、ホームページのリニューアル企画を立案し、提案書を作成することです。
テーマは高校のホームページリニューアル。
設定として、校長先生から「魅力が十分伝わっていない」と相談を受けた想定で進めます。
学習時間は30回。
最後に形だけ整えるのではなく、根拠ある提案にすることを意識してください。



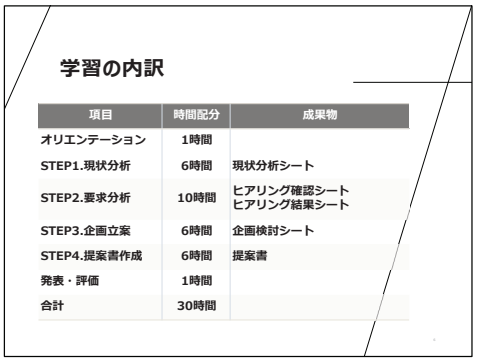
PBLはProject Based Learning、課題解決型学習です。
情報システム開発のように、チームで進めるプロジェクトを題材にして、計画、実行、発表までを経験します。
知識を覚えるだけでなく、実務で使える形にすることが目的です。
今回のPBLは、実案件を参考にしたシナリオに沿って進め、重要ポイントごとに課題と解決の方向性が示されています。安心してチャレンジしましょう。



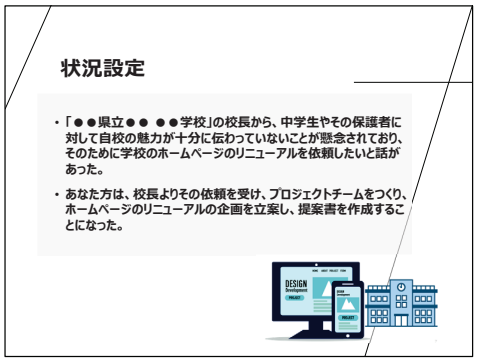
PBLで伸びるのは、Webの知識だけではありません。
情報収集と整理、チームでの合意形成、役割分担、スケジュール管理、そして提案力が鍛えられます。
商業で学ぶ「相手に価値を伝える」力がそのまま活きる場面です。意見が割れたときは、好みで決めず、目的に合うか、根拠があるかで判断します。
議論の記録を残すと、提案書の説得力が上がります。



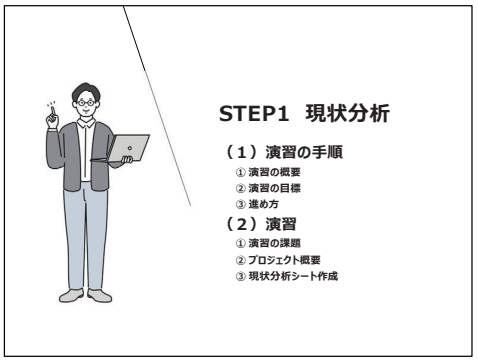
現場の仕事では、要望が最初から整理されているとは限りません。
むしろ曖昧な相談を質問で具体化し、条件や制約を踏まえて提案にまとめます。
今回も同様に、校長先生の「魅力が伝わっていない」をそのまま受け取らず、誰に、何を、どう伝えるべきかを要件として整理します。答えは一つではありません。根拠と一貫性のある提案を目指してください。



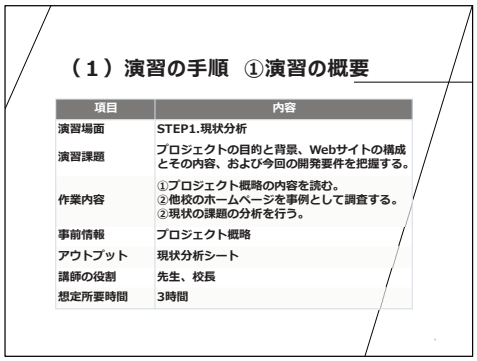
学習の内訳は、現状の分析と要求分析、企画の立案、発表に分かれます。
特に前半の現状や要求の分析が甘いと、後半の企画立案が「思いつき」になってしまいます。
逆に、調査で得た事実を根拠として使えると、少ない言葉でも説得力が出ます。基本は「個人で集める→グループで統合する→成果物に落とす」。
作業の重複を減らし、質を上げる進め方を意識しましょう。



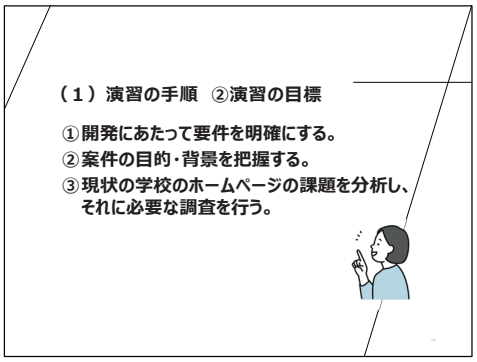
状況設定です。校長先生は「中学生や保護者に学校の魅力が十分伝わっていない」と感じ、特にホームページの訴求力を強化したいと考えています。
みなさんは依頼を受けたチームとして、現状の問題点を分析し、改善方針を立て、提案書としてまとめます。
重要なのは、“魅力”を具体化することです。
どの魅力が、どの相手に、どのページで伝わっていないのかを明確にしましょう。



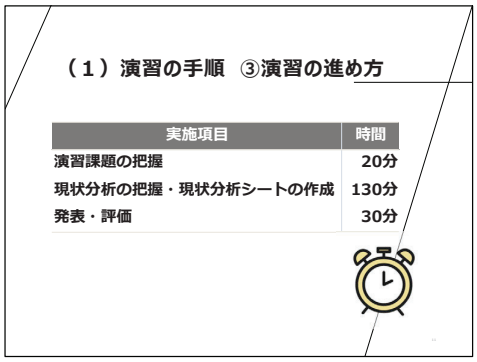
STEP1は現状分析です。今のサイトが、目的に対して十分かどうかを客観的に確認します。
見た目の好みで判断せず、情報の探しやすさ、更新性、スマホ対応、導線、コンテンツの不足など観点を決めて評価します。
比較として他校サイトも調査し、「良い例」との差分を根拠に課題を整理します。良い点も必ず拾い、強化ポイントとしてまとめましょう。



ここでは、STEP1で何をするかの概要を確認します。
依頼内容を読み解き、現状サイトを観点に沿って評価し、他校サイトも調べて比較します。
中学生・保護者の目線で、必要な情報にたどり着けるか、学校の強みが短時間で伝わるかを意識してください。
チーム内で評価基準を揃えることが重要です。
同じ物差しで分析できると、後の議論がスムーズになります。



STEP1の目標は、現状の課題を言語化し、次の要求分析につながる材料を作ることです。
「どこが悪い」だけでなく、「なぜ問題か」「誰にとって困るか」まで説明できる状態を目指します。
例えば、入試情報が見つけにくいなら、受験生の不安が増える、といった形で影響まで考えます。
最後は現状分析シートにまとめ、根拠となる画面例や比較結果を添えて報告しましょう。



進め方のポイントは、個人作業とグループ作業を切り分けることです。
まず個人でサイトを見て気づきを集め、次にグループで重複を整理し、重要度で優先順位を付けます。そのうえで、課題を「観点」「根拠」「影響」のセットでまとめます。スクリーンショットやURLを残しておくと、後で提案書の根拠として使えます。感想ではなく、証拠のある分析を意識してください。

（２）演習　①演習の課題

◆状況

- 本プロジェクトの依頼は「沖縄県立●●高等学校」の校長である。
- 校長は、学校の魅力が本校を受験する中学生やその保護者に十分に伝わっていないことを懸念しており、特に、現行の自校のホームページのアピール強化が必要と考えている。
- この問題を解決するために、学校側はホームページのリニューアルを検討しており、あなた方生徒に依頼が寄せられた。
- 皆さんは、プロジェクトチームを組み、このリニューアル企画を立案することを担任の先生より指示された。
- まずは、校長の開発要件と、現在の学校のホームページの問題点を分析し、どのような改善点があるのかを明確にすることが必要である。
- そのため、現状分析し、その結果を先生に報告することになった。

STEP1の状況説明です。
校長先生は、学校の魅力が中学生や保護者に十分伝わっていないことを懸念し、ホームページのリニューアルを検討しています。
みなさんはプロジェクトチームとして、まず校長の要望と現行サイトの問題点を分析し、改善点を明確にする必要があります。
ここで大切なのは、問題を“雰囲気”で語らず、具体的に示すことです。
まずは、校長の開発要件と、現在の学校のホームページの問題点を分析し、どのような改善点があるのかを明確にすることが必要です。
分析のうえ、先生に報告します。

（２）演習　①演習の課題

◆作業手順

- 手順１　プロジェクト概要を確認する。
- 手順２　事例として他校のホームページを調査する。
- 手順３　手順１，２を比較して、自校のホームページの課題を検討する。
- 手順４　チーム内で話し合い、チームとしての現状分析シートをまとめる。
- 手順５　検討結果をグループで発表する。



STEP1の作業手順です。
まずプロジェクト概要を確認します。
次に他校のサイトを調査します。
続いて、自校との比較で課題を検討します。
そのうえで、チームで話し合い、現状分析シートとしてまとめます。
最後に、グループ発表で報告します。
発表は「結論→根拠→改善の方向性」の順にすると伝わりやすいです。
役割分担は、調査担当、比較担当、シート統合担当などに分けると効率的です。
時間内にまとめ切る進め方を意識しましょう。

（２）演習　②プロジェクト概要（１/２）

項目	内容
プロジェクトテーマ	学校のホームページのリニューアルの検討と提案
目的・背景	現状の学校のホームページは一般的で特徴が乏しいため、リニューアルすることで、学校の魅力を強調し、入学してくる中学生や保護者に対して学校の特色を強くアピールしたい。
開発概要	「沖縄県立○○高等学校」のリニューアル http://www.○○○○.open.ed.jp/ ・予算とスケジュールの関係から、新しいコンテンツは部分的にし、基本的に現在のコンテンツの再配置にとどめる。 ・テキストおよびコストのかからない、著作権問題が発生しないコンテンツであれば利用可能。

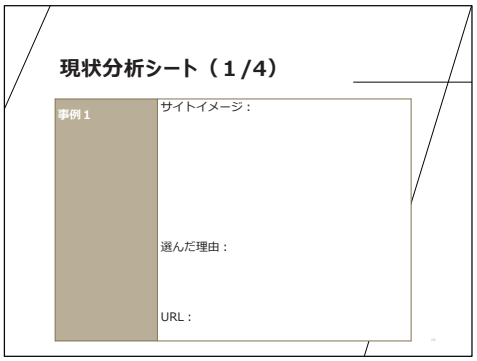
プロジェクト概要では、依頼の背景と目的を確認します。
校長先生は、受験生や保護者に向けて学校の魅力をもっと伝えたい。つまりサイトは「知りたい情報がすぐ見つかる」「学校の強みが一目で分かる」ことが重要です。ここで、ターゲットを明確にするのがポイントです。
中学生なのか、保護者なのか、両方なのかで必要な情報や言葉づかいが変わります。次の分析の前提として整理しましょう。

（２）演習　②プロジェクト概要（２/２）

PC版　　スマートフォン版

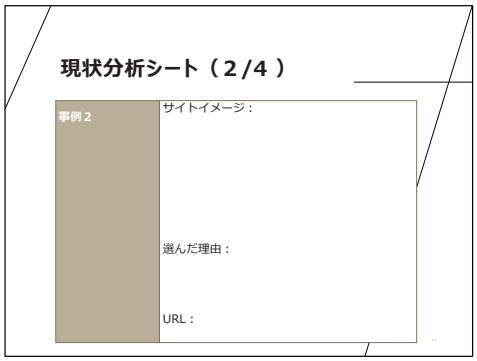


最終的には、リニューアル方針を提案書としてまとめ、校長先生に説明する状態を目指します。提案は「やりたいこと」ではなく「なぜ必要か」「どう実施するか」「期待効果は何か」まで含めます。
現状分析の段階では、ページ構成、情報の探しやすさ、スマホ対応、更新の仕組みなど、後で提案に直結する観点を意識してください。ここを押さえると、次の要求分析がスムーズになります。



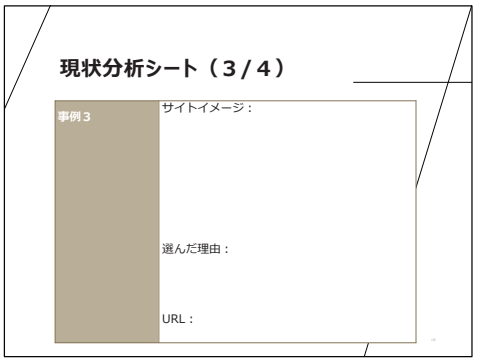
現状分析シートです。
まずは、比較対象となる他の高校のホームページを挙げていきます。
「サイトイメージ」には、スクリーンショットなどで画面を貼り付け、
視覚的にわかりやすいようにしましょう。
次に、事例として選んだ理由も記述してください。
最後に、その学校のURLも追記してください。

16



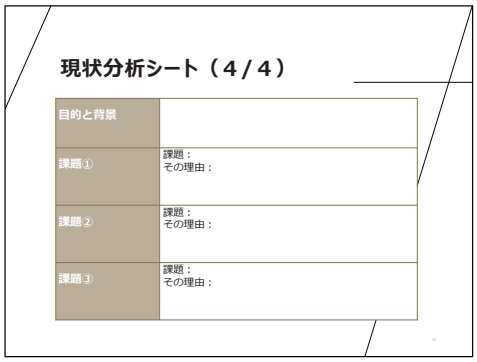
分析シート２は、１と同様です。
サイトイメージと比較として選んだ理由、URLを記載してください。

17



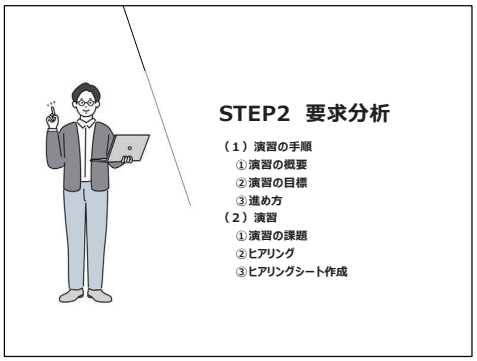
シート３も同様です。

18

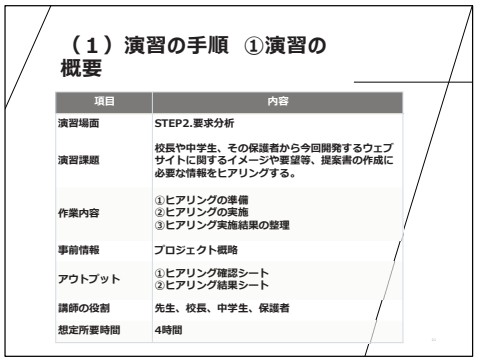


シート４では、目的と背景、課題を記述します。
課題については、課題となる理由も併せて記述してください。

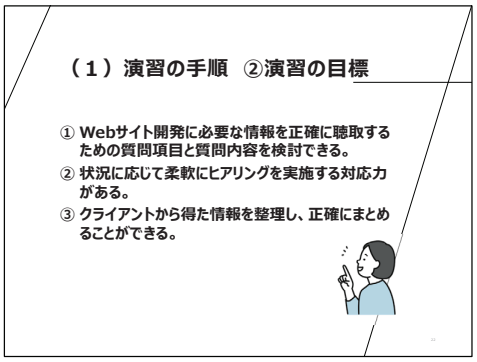
19



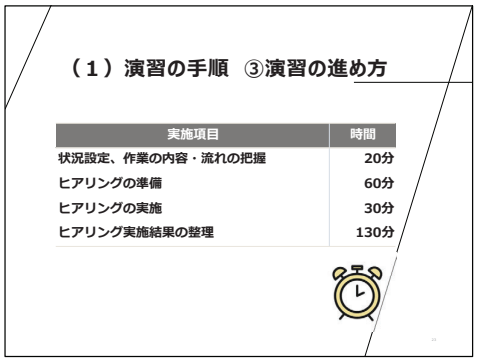
STEP2は要求分析です。現状分析の結果を踏まえて、校長先生がどのようにリニューアルしたいのかをヒアリングし、要件として整理します。
さらに、中学生・保護者の視点も取り入れるのが重要です。Webサイトは「作り手が言いたいこと」ではなく「見に来る人が知りたいこと」を中心に設計します。ヒアリングで得た内容は、優先順位と具体例をセットにし、曖昧な表現を減らしていきましょう。



要求分析の概要です。校長先生や保護者へのアンケートやヒアリングを計画し、質問項目を作り、実施した内容を整理して報告します。
ポイントは、Yes/Noで終わる質問より、「なぜ」「具体的には」「理想はどんな状態か」を引き出す質問を増やすことです。
また、中学生・保護者が知りたい情報や不安も想定して整理します。
最後は、ヒアリング結果をシートにまとめ、企画に反映できる形にすることがゴールです。



要求分析の目標は、ヒアリングで得た情報から、クライアントの希望をリニューアルにどう反映するかを検討し、企画の前提となる要件を明確にすることです。
単に要望を並べるのではなく、背景や理由を整理し、優先順位を付けます。
また、プロジェクトメンバーが理解しやすいように、言葉を簡潔に揃えることも重要です。
「魅力」「ターゲット」「強み」など、曖昧になりやすい言葉は定義して共有しましょう。



進め方の基本は、①作業や流れの把握②ヒアリングの準備、③ヒアリングの実施、④結果の整理となります。
準備では、校長先生向けと中学生・保護者向けで質問を分け、聞きたいことを整理します。
実施後は、発言をそのまま書くだけでなく、「要望」「背景」「具体例」「優先度」に分類すると企画につながります。
最後に、次の企画立案で使えるように、要件を一文で表せる形に整えておきましょう。
議事メモの質が企画の質を左右します。

（２）演習　①演習の課題

◆状況

- あなた方は、現状分析の結果を先生に報告した。
- その報告を受けて、先生からの指示があった。
- 具体的には、沖縄県立中部商業高等学校の校長に対して、どのようにホームページをリニューアルしたいのかを詳細にヒアリングするよう求められた。
- またその際に、中学生、保護者についてもヒアリングするように求められた。
- そのヒアリング結果をまとめ、先生に報告することが指示された。
- これを受けて、あなた方はヒアリングの実施に向けた準備を開始し、校長へのヒアリングを行う計画を立てることになった。

現状分析を先生に報告したところ、次は校長先生に「どのようにリニューアルしたいか」を詳細にヒアリングするよう指示されました。
加えて、中学生や保護者の視点についても確認することが求められます。
つまり、校長の希望だけでなく、利用者のニーズも整理する段階です。
ここでの成果が、企画の“軸”になります。聞き漏らしがないよう、準備段階で質問を丁寧に作りましょう。

（２）演習　①演習の課題

◆作業手順

手順１　作成するホームページのイメージや要望について、ヒアリングを行う準備として、ヒアリングの流れや質問項目を検討して、ヒアリング確認シートを作成。

手順２　ヒアリング確認シートを使ってヒアリングを実施。

手順３　ヒアリング時に聴取した情報をヒアリング結果シートにまとめる。



要求分析の作業手順です。①ヒアリングの目的と質問項目を作る、②シートを活用してヒアリングを実施する。また、必要に応じて中学生・保護者の視点も確認する、③結果を整理し、ヒアリング結果シートにまとめます。
ヒアリングは「聞いたら終わり」ではなく、「企画に使える言葉」に変換することが重要です。
最後に、要件の優先順位を決め、企画立案で迷わない状態にしておきましょう。

ヒアリング確認シート（１/２）

日付：　年　月　日

No	対象者	質問項目	ヒアリング記録

ヒアリング確認シートの使い方です。まず、校長先生に確認すべき基本事項を整理します。例えば、ターゲットは誰か、学校の強みは何か、どの情報を最優先で見せたいか、更新は誰が担当するか、予算やスケジュールの希望はあるか、などです。質問は「理想の状態」を引き出す形にするのがコツ。「今のサイトで困っている場面は？」「どんな反応が増えたら成功？」のように、具体例を引き出す問いを入れましょう。

ヒアリング確認シート（２/２）

日付：　年　月　日

No	対象者	質問項目	ヒアリング記録

このページでは、中学生・保護者の視点も含めて質問を整えます。中学生は「学校生活の雰囲気」や「学べること」を知りたく、保護者は「進路実績」や「安心材料」を重視しやすい、など立場で関心が違います。
想定質問として、知りたい情報、見たい写真や動画、サイトの使いにくさ、最初に見るページ、などを整理しましょう。ヒアリング後に比較できるよう、質問の意図もメモしておくと整理が早くなります。

ヒアリング結果シート（1/3）

	項目		回答
顧客情報	クライアント名（企業名）		
	URL		
	担当者		
顧客理解	何を達成したいか		
	課題	課題の内容	
		原因	

ヒアリング結果シートの1枚目です。
まず「顧客情報」と「顧客理解」を整理します。「顧客情報」には、クライアント名、URL、担当者名を正確に記入しましょう。
次に「顧客理解」では、何を達成したいか、相手がホームページで実現したいゴールを一文でまとめます。
さらに「課題」の欄は、上段に“課題の内容”、下段に“原因”を書き分けます。困っている現象だけで終わらず、なぜ起きているのかまで整理することで、後の企画や提案がぶれにくくなります。

ヒアリング結果シート（2/3）

	項目	回答
要件①	サイト名	
	サイトの目的	
	ターゲット	
	希望するコンテンツ	
	利用環境	
	資料・素材の有無	
	参考サイト	

2枚目は「要件①」を整理するページです。ここでは、サイト名、サイトの目的、ターゲットを具体的に書きます。目的は「何をしてほしいサイトか」、ターゲットは「誰が見るか」を明確にします。次に「希望するコンテンツ」では、掲載したい情報やページ案をできるだけ具体的に挙げましょう。さらに「利用環境」はスマホ中心かPC中心かなど想定を確認します。「資料・素材の有無」では、写真や原稿、ロゴなど提供できる素材を把握し、制作の現実性につなげます。最後に「参考サイト」は、好みや目指す方向性を掴む重要な手がかりです。

ヒアリング結果シート（3/3）

	項目	回答
要件②	予算	□20万円 □50万円 □80万円 □100万円 □それ以上 □その他（ ）
	公開予定日	
	競合他社サイト	
	その他	

3枚目は「要件②」を整理します。まず「予算」はチェック形式なので、20万・50万・80万・100万・それ以上、またはその他に当てはまるものを確認し、必要なら補足を書きましょう。次に「公開予定日」は、いつまでに公開したいかを具体的な日程で押さえます。これがスケジュール設計の前提になります。「競合他社サイト」では、比較対象となる学校や参考にしているサイトを聞き取り、強みや差別化ポイントを考える材料にします。最後の「その他」には、更新担当、運用ルール、禁止事項、優先順位など、後で抜けがちな条件をまとめておくと、提案の質が上がります。



STEP3 企画立案

（1）演習の手順

①演習の概要
②演習の目標
③進め方

（2）演習

①演習の課題
②企画検討シート

STEP3は企画立案です。現状分析と要求分析を材料に、サイトのコンセプト、ページ構成、掲載コンテンツ、デザイン方針、運用方法をまとめます。重要なのは「やることの列挙」で終わらせず、課題と要件に対して“なぜその施策が必要か”を説明できる状態にすることです。例えば「写真を増やす」なら、どのページで、どんな写真を、どんな印象づくりのために使うのかまで具体化します。企画は具体であるほど信頼されます。

（1）演習の手順　①演習の概要

項目	内容
演習場面	STEP3.企画立案
演習課題	クライアントへのヒアリング結果に基づき、クライアントのニーズを整理・分析し、要求仕様と開発要件をまとめ、企画立案する。
作業内容	①ヒアリング結果を分析する。 ②企画を検討する。
事前情報	① プロジェクト概略 ② ヒアリング結果シート
アウトプット	企画検討シート
講師の役割	先生
想定所要時間	3時間

企画立案の概要です。ヒアリング結果をもとに、クライアントの要望を満たす企画をグループで検討し、企画検討シートにまとめます。必要に応じて、他校事例やWebの成功事例も調べ、根拠を補強します。ここでは「ターゲット→課題→狙い→施策→期待効果」が一本のストーリーになっているかが重要です。提案書の前段階として、企画の骨格を固め、チーム内で同じイメージを共有できる状態を作りましょう。

（1）演習の手順　②演習の目標

① ヒアリングで収集した情報をもとに、クライアントの希望をどのようにリニューアルに反映させるかを検討し、企画を明確にすることができる。

② 企画のアイデアをプロジェクトメンバーが理解しやすいように、わかりやすく簡潔にまとめることができる。



企画立案の目標は、ヒアリングで収集した情報をもとに、クライアントの希望をどのようにリニューアルに反映するかを検討し、企画を明確にすることです。
さらに、企画のアイデアをメンバーが理解しやすいよう、簡潔で分かりやすくまとめることも求められます。
ここで曖昧さが残ると、提案書作成で迷いが増えます。

（1）演習の手順　③演習の進め方

実施項目	時間
状況設定、作業の内容・流れの把握	20分
企画の検討・企画検討シートの作成	130分
発表・講評	30分



進め方は、ヒアリング結果から要件を再確認し、グループで企画案を出し合い、企画検討シートを作成します。そのうえで発表・共有、という流れです。
コツは、最初に「ターゲット」と「最重要課題」を固定することです。ここが揺れると施策が散らばります。議論では、アイディアの良し悪しを好みで決めず、「要件に合うか」「実現できるか」「運用できるか」で判断します。
最後に、提案書にそのまま持ち込める文章に整えておきましょう。

（2）演習　①演習の課題

◆状況

- あなた方は、ヒアリング結果を先生に報告した。
- 先生からは、ヒアリングで得た情報をもとに、具体的な開発要件を整理し、企画としてまとめるよう指示された。
- これを受けて、あなた方はクライアントのニーズや要望を反映した企画を検討し、それを報告するための準備を行うことになった。
- このプロセスを通じて、プロジェクトの方向性を明確にする。

ヒアリング結果を先生に報告した後、先生から「得た情報をもとに具体的な開発要件を整理し、企画としてまとめる」よう指示がありました。つまり、要望を整理する段階から、実際の企画へ落とし込む段階に進みます。ここで重要なのは、クライアントの言葉をそのまま並べるのではなく、サイトの構造やコンテンツとして“形”にすることです。方向性が決まれば、提案書作成も一気に進みます。

（２）演習　①演習の課題

◆作業手順

- **手順１　ヒアリング結果のまとめを元に、クライアントの要望を把握し、グループで企画を検討する。**
- **手順２　必要に応じて作業分担し調査等を行う。**
- **手順３　検討した結果を企画検討シートにまとめる。**
- **手順４　検討結果をグループで発表する。**



企画立案の作業手順です。まず、ヒアリング結果を基に要望を把握し、グループで企画を検討を行います。
次に、必要に応じて分担して追加調査などを実施します。
続いて、企画検討シートにまとめます。
最後に、検討結果の発表を行います。
ここでの成果は、次の提案書作成の“設計図”です。
細部よりも、筋道が通っているか、一貫性があるかを優先してまとめましょう。

企画検討シート（１/２）

項目	内容
目的（何を達成するか）	
手段（どのような方法で）	
ターゲット	
運用・保守性	
セキュリティ	
制約条件	

このスライドは企画検討シートの1枚目で、企画の骨格を項目ごとに整理します。
まず「目的」には、リニューアルで何を達成するのかを一文で書きます。
次に「手段」には、その目的を達成する方法を具体化します。ページ構成の見直し、導線改善、コンテンツ追加、トップの訴求強化など、実施内容の柱を書きましょう。
「ターゲット」では主対象を明確にし、必要なら中学生／保護者で分けます。
「運用・保守性」では更新担当や更新頻度、テンプレ化の有無など“続けられる設計”を記入します。
「セキュリティ」では個人情報・写真利用の同意、問い合わせフォームの扱い等を整理します。
最後に「制約条件」で予算・期間・体制などの前提を明記します。

企画検討シート（２/２）

項目	内容
リニューアル方針（期待される効果）	
備考	

このスライドは企画検討シートの2枚目で、1枚目の整理をもとに「リニューアル方針」と「備考」をまとめます。
「リニューアル方針」には、企画の方向性と期待される効果を、Before/Afterが想像できる形で書きます。
例えば「トップで強みが一目で分かる構成にし、入試・学科・学校生活への導線を短縮することで、閲覧者の迷いを減らし、問い合わせや見学申込につなげる」など、課題→施策→効果が一続きになる文章が理想です。
数値化できるなら、問い合わせ件数やアクセス、滞在時間など“測る指標”も添えると説得力が上がります。
「備考」には、実施優先順位、段階導入案、素材不足や更新体制などの懸念点、追加で確認すべき事項を残します。ここを丁寧に書くと、提案書作成が迷わず進みます。



STEP4　提案書作成

（１）演習の手順

- **①演習の概要**
- **②演習の目標**
- **③進め方**

（２）演習

- **①演習の課題**
- **②提案書の作成**

STEP4は提案書作成です。
企画検討シートをもとに、校長先生に提出する提案書として整え、プレゼンテーションまで行います。
提案書では「現状と課題→要件→提案内容→実施手順→期待効果→導入上の課題」の流れで筋道を作ると分かりやすくなります。ここで重要なのは、専門用語を使いすぎないことと、根拠を示すことです。比較調査やヒアリングの結果を引用して、提案が妥当だと伝わる資料にしましょう。読み手は校長先生です。

（1）演習の手順　①演習の概要

項目	内容
演習場面	STEP4.提案書作成
演習課題	自校のホームページのリニューアル提案書の作成し、それを使ってプレゼンテーションを行う。
作業内容	① 提案書の作成 ② プレゼンテーションの実施
事前情報	① プロジェクト概略 ② ヒアリング結果シート ③ 企画検討シート
アウトプット	提案書
講師の役割	先生
想定所要時間	4時間

提案書作成の概要です。
ヒアリング結果と企画検討シートを土台に、提案書メモを作り、最終的な提案書に落とし込みます。
提案書は“きれいな資料”より“判断できる資料”が大切です。現状の課題と提案内容が対応しているか、確認しながら進めましょう。

（1）演習の手順　②演習の目標

①ヒアリングで収集した情報を基に、クライアントのニーズを反映した提案書メモを作成することとができる。

②作成した提案書を基に、プレゼンテーションを行うことが可能である。



提案書段階の目標は2つです。1つ目は、ヒアリングで収集した情報を基に、クライアントのニーズを反映した提案書メモを作成できること。
2つ目は、作成した提案書を基にプレゼンテーションを行えることです。
提案書は読み物ではなく、意思決定のための資料です。結論が先に分かり、根拠が示され、実施の道筋と効果が見える構成にしましょう。

（1）演習の手順　③演習の進め方

実施項目	時間
状況設定、作業の内容・流れの把握	30分
提案書の作成	150分
発表・講評	60分



演習の進め方は、まず作業の内容と流れを把握します。
次に、提案書に入れる情報を整理し、提案メモで文章と構成を固め、提案書を完成させます。
そして、発表をおこなうという流れです。

（2）演習　①演習の課題

◆状況

- **あなた方は、企画検討シートをまとめて先生に報告した。**
- **その資料をもとに、先生はクライアントである「沖縄県立○○高等学校」の校長に説明を行った。**
- **提案された方針に問題がないことから、予算獲得のための提案書の作成を依頼された。**
- **これを受けて、先生の指示に従い、あなた方は校長に向けに提案書を作成し、プレゼンテーションを行うこととなった。**

このスライドは提案書作成の状況説明です。企画検討シートを先生に報告したところ、先生が校長先生に方針説明を行い、方向性に問題がないため、予算獲得のための提案書作成を依頼された、という設定です。つまり、ここからは“企画の検討”ではなく“意思決定のための提案”が求められます。校長先生が判断できる材料を、分かりやすく整理することがゴールです。根拠・実現性・効果を揃えた提案にしましょう。

（２）演習　①演習の課題

◆作業手順

- **手順１　ヒアリング結果や企画検討シートをもとに、グループで提案書を作成する。**
- **手順２　必要に応じて作業分担し調査等を行う。**
- **手順3　提案書を使ってプレゼンテーションを行う。**



提案書作成の作業手順です。
まず、ヒアリング結果と企画検討シートをもとに提案書を作成します。
次に、必要なら分担して追加調査を行います。
最後に、提案書を使ってプレゼンテーションを実施します。
追加調査は、他校の成功例や、サイト改善の一般的な観点など、根拠補強に使います。
文章担当、図解担当、発表台本担当など役割分担をして進めると効率的です。
最後に、全体の言葉づかいと主張が統一されているかを必ず確認してください。

提案メモ　（１/２）

項目	内容
企画名	
現状と課題	
ターゲット	
提案内容 （具体的な解決方法や新しいアイデア）	

このスライドは「提案メモ」です。提案書を作り始める前に、結論と根拠の骨組みを固めるためのメモになります。
まず最上段に、今回の提案の企画名を簡潔に書きます。
次に、現状分析とヒアリングで分かった現状と課題を整理しましょう。
ここでは感想ではなく、どのページで何が起きているかという事実を根拠にします。
続いて、企画のターゲットを記載します。
その上で、課題に対応する提案内容を整理します。
どの課題を解決するのか対応関係が分かるように書くのがポイントです。

提案メモ　（２/２）

項目	内容
実施内容 （実施内容を時系列で説明）	
期待される効果	
導入後の課題	

1枚目で固めた提案の柱を、実行計画と効果の形に落とします。まず、実施内容を時系列で整理します。例として「要件確定→情報設計→素材収集→ページ改修→テスト→公開→運用開始」のように、工程を並べ、担当や目安期間も書けると実現性が上がります。次に期待効果は、Before/Afterが想像できる言葉で記入します。可能なら指標も考えましょう。最後に想定課題として、更新体制、素材不足、写真利用の同意、運用ルールなど、抜けやすい条件を挙げ、対策案を一言添えておくと提案書が強くなります。

●●県立●●●●学校
ホームページリニューアル
提案書

令和〇〇年〇〇月〇〇日

ここからは「ホームページリニューアル提案書」のテンプレートです。
表紙には学校名、日付、提案書タイトルを記入します。タイトルは「リニューアル提案書」だけでなく、狙いが伝わる副題を付けると効果的です。例えば「受験生が学校の魅力を短時間で理解できる導線へ」のように、ターゲットと変化がイメージできる言葉にしましょう。表紙は第一印象なので、情報を詰め込みすぎず、読み手が“何の提案か”を一瞬で理解できる状態を作ることがポイントです。この後のページ内容と矛盾しない表現に整えてください。



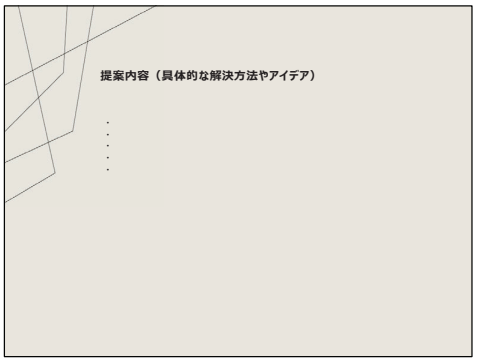
このページでは「実施主体」を整理します。提案する側の体制として、グループ名、メンバー、役割分担を記載し、誰がどこを担当するかが分かる形にしましょう。

48



概要ページは、提案全体を短くまとめる重要なページです。
「現状と課題」に、主要課題を書きます。例として、入試情報に辿り着きにくい、学校の雰囲気が伝わらない、更新が継続しにくい、などです。
次に「企画名」には、提案の軸が分かる名称を付けます。ここでは専門用語より、読み手が判断できる言葉を優先しましょう。
最後に、提案の柱を箇条書きで示すと分かりやすいです。課題→提案→狙いが一続きに読める構成に整えてください。

49



このページでは、具体的な解決方法やアイデアを整理します。提案は多すぎると伝わらないので、優先度の高いものに絞り、「何をする／なぜ必要／どの課題に効く」をセットで書きます。
例として、トップで強みを一言で提示する、入試や学科への導線を短縮する、学校生活の写真や動画を増やす、就職・資格情報を見える化する、などです。
ポイントは、提案内容がバラバラに見えないことです。
全体コンセプトに紐づけて説明し、読み手が“この提案なら課題が解決しそう”と納得できる文章に整えましょう。

50

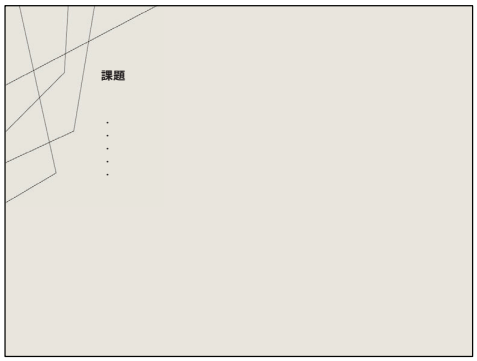


このページは、実施内容を時系列で説明するパートです。
提案を「いつ・どの順番で・誰が」進めるのかを示すことで、実現可能性が伝わります。
基本は、要件確定、情報設計、素材収集、ページ改修、テスト、公開、運用開始、の流れです。
各工程で必要な作業と担当を具体化してください。学校側の協力が必要な工程、例えば写真撮影や原稿確認、承認フローなども入れると現実的になります。
ここは無理のない工程と優先順位を示すことが重要です。

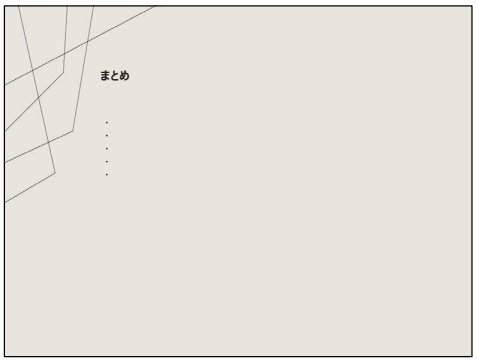
51



期待される効果は、Before/Afterで示すと伝わりやすくなります。
Beforeは現状の困りごと、Afterは改善後の具体的な変化です。
例えば、受験生が入試情報に迷わず辿り着ける、学校の雰囲気が伝わって安心感が増える、強みが一目で分かり志望動機につながる、問い合わせや見学申込が増える、など。可能なら指標も設定しましょう。
アクセス数、問い合わせ件数、資料請求、滞在時間など、測れる形があると説得力が上がります。効果は大げさにせず、根拠に沿った現実的な変化を具体的に書いてください。



このページでは、導入・運用における課題を先に提示します。ここが丁寧だと「現場を理解している提案」になります。例として、更新担当の負担増、素材が集まらない、写真の権利や個人情報、運用ルール未整備、などが挙げられます。課題だけで終わらず、対策案も一言添えましょう。
例えば、更新テンプレを用意する、承認フローを決める、撮影・原稿の担当を明確化する、段階導入で範囲を絞る、などです。校長先生が不安に感じやすい点を先回りして書くことで、提案の信頼性が上がります。



まとめでは、提案の結論を短く再提示し、狙いと効果、次のアクションを整理します。
提案は“決められる状態”になって初めて前に進みます。
最後に、学校側に必要な協力（素材提供や確認作業）を一言添えると、実施のイメージが具体化し、合意形成が進みやすくなります。



参考URLは、提案の根拠を示すページです。ここでは数を増やすより、提案内容に直結したURLを選びます。例えば、比較対象にした他校サイト、入試導線の良い例、学校の魅力発信の成功事例、UI改善の基本観点がまとまった信頼できる記事などです。URLには簡単な説明を付け、「何の参考にしたのか」が分かるようにしましょう。読み手が確認できる根拠があると、提案の納得感が上がり、意思決定しやすくなります。
最後に、引用したデータや資料があれば併せて記載しておくと丁寧です。